

令和5年度鳥取県住生活総合調査拡大調査

【報告書】

令和7年3月

鳥取県 鳥取県生活環境部 暮らしの安心局 住宅政策課

目次

調査の概要.....	1
回答者について.....	2
I 住まいの住宅の状況.....	2
II 住まいの満足度.....	4
III 住宅の住み替え、建て替え又はリフォームのご意向.....	10
IV 高齢期の住まい方.....	16
V 子育て環境について.....	19
VI 中古住宅の購入について.....	20
VII 住宅の耐震診断・耐震改修について.....	24
VIII 住宅の新築について.....	34
IX 住宅のリフォームについて.....	40
X 空き家について.....	46

調査の概要

(1)調査の目的

居住環境を含めた住生活全般に関する実態や居住者の意向・満足度等を5年ごとに総合的に把握し、居住者の現在の住まいに対する満足度、今後の住まい方の意向などの現状と推移を明らかにすることにより、鳥取県における住生活の安定・向上に係る総合的な施策を推進する上での基礎資料を得ることを目的とする。

(2)調査対象者

鳥取県内在住の18歳以上の世帯主5, 597名

(3)抽出方法

令和5年住宅・土地統計調査(総務省)の調査対象名簿(18歳以上の男女)から無作為抽出

(4)調査地区

鳥取県19市町村

(5)調査方法

調査票の送付(郵送)及び回収(返信用封筒による郵送)

(6)調査時期

令和6年1月

(7)回答状況

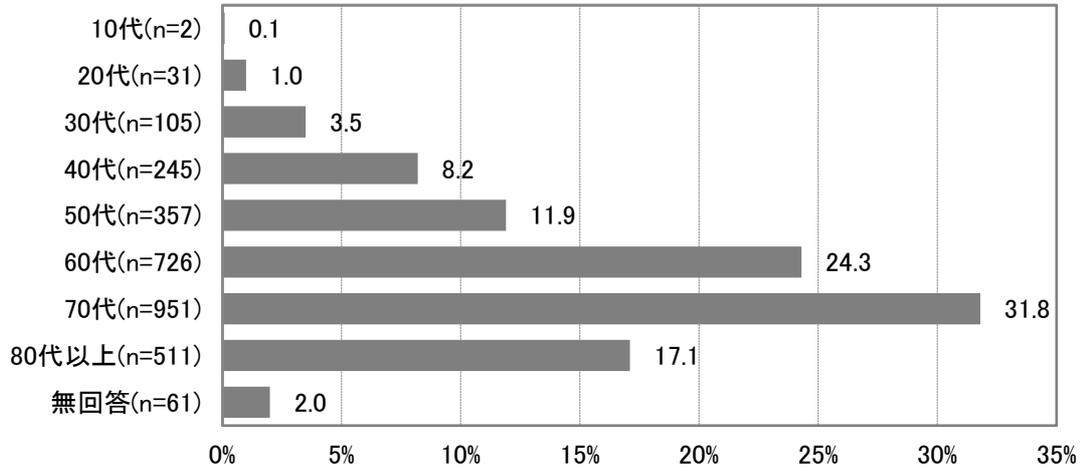
抽出数	有効抽出数	回答数	回答率
5, 597人 (うち不達、受取拒否222)	5,375	2,989	55.6%

(8)調査結果の数値について

1. 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)です。全標本数ベースを示す「全体」を「N」、該当数ベースを「n」で標記しています。
2. 数値は、小数点以下第2位を四捨五入しています。したがって回答比率の合計は必ずしも100%とならない場合があります。
3. 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合があります。
4. 見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%、0.1%など)は表記から割愛している場合があります。
5. 回答が選択されていない場合、回答数の制限を超える回答が選択されている場合、設問以外の内容で回答がなされている場合などについては、無回答としました。
6. クロス集計の「年代別」について、「10代」は標本数が少ないため、比較・分析する場合は除外することとしました。

回答者について

世帯主の年齢 (N = 2,989)

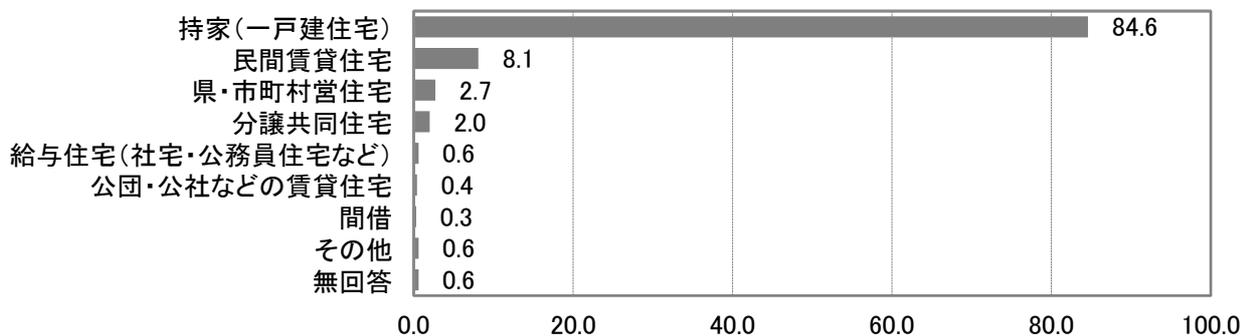


I 住まいの住宅の状況

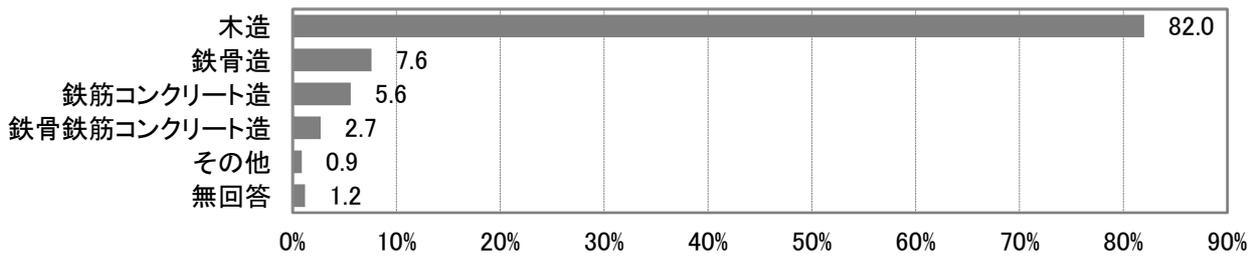
お住まいの住宅の状況について(問1~7)

住宅の種類は「持家(一戸建て住宅)」が 84.6%、構造の種類は「木造」が 82.0%、建築時期(増改築時期)は「昭和 46~55 年」が 19.0%と最も高い。世帯収入額は「100~300 万円」が 29.7%、同居人数は「2人」が 32.7%、世帯の同居者の年齢は「60 歳以上」が最も高く、省エネルギー設備の設置は「二重サッシ、複層ガラス」が 31.0%、次いで「自然冷媒ヒートポンプ電気給湯器(エコキュート)」が 28.7%となっており、約6割の住宅で省エネ設備が設置されている。冬期の入浴時の湯の温度では「42℃」が 32.3%と最も高かった。

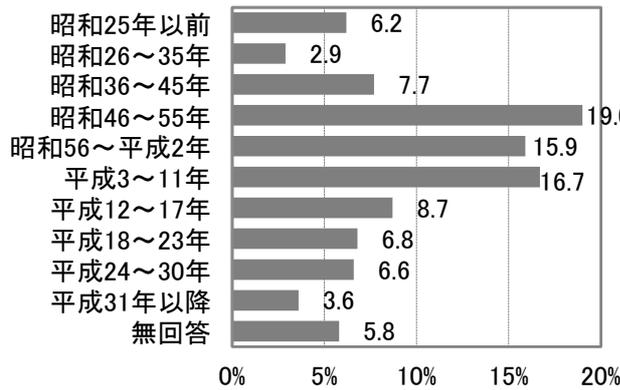
問1 どんな住宅に住んでいるか (N = 2,989)



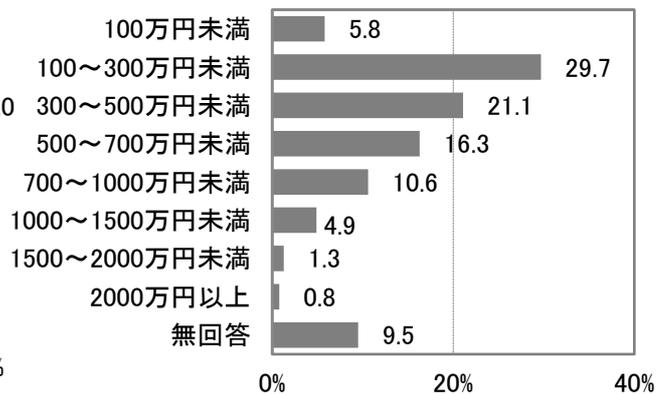
問2 どのような構造の住宅に住んでいるか (N = 2,989)



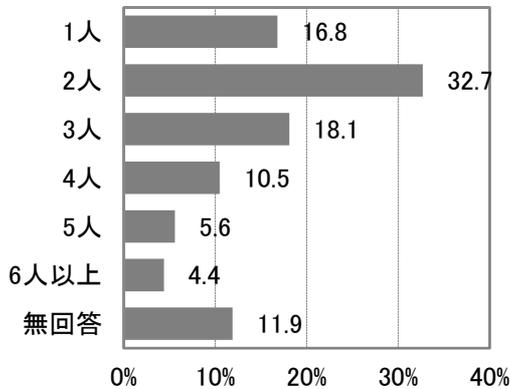
問3 住宅を建てた時期 (N = 2,989)



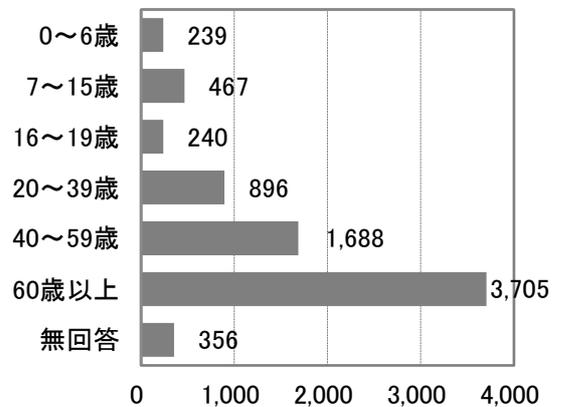
問4 世帯全員の1年間の収入額の合計 (税込み) (N = 2,989)



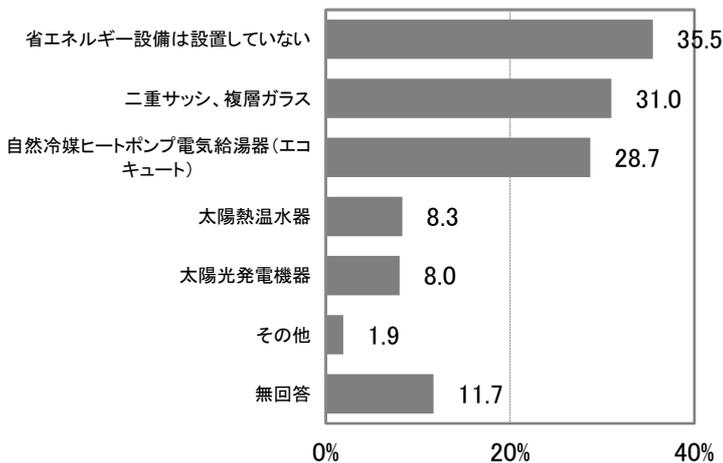
問5 世帯人数 (N = 2,989)



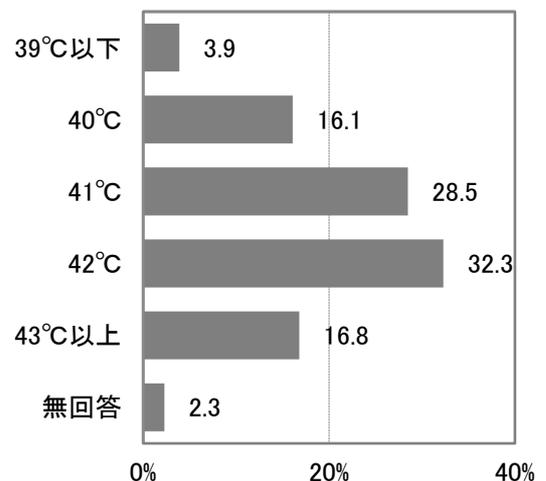
問5 世帯の同居者の年齢別内訳 (複数回答)



問6 住んでいる住宅に、設置されている省エネルギー設備(1つ〇) N = 2989



問7 冬季における入浴時の浴槽の湯の温度(1つ〇) (N = 2,989)



II 住まいの満足度

～住まいの満足度について～(問8～11)

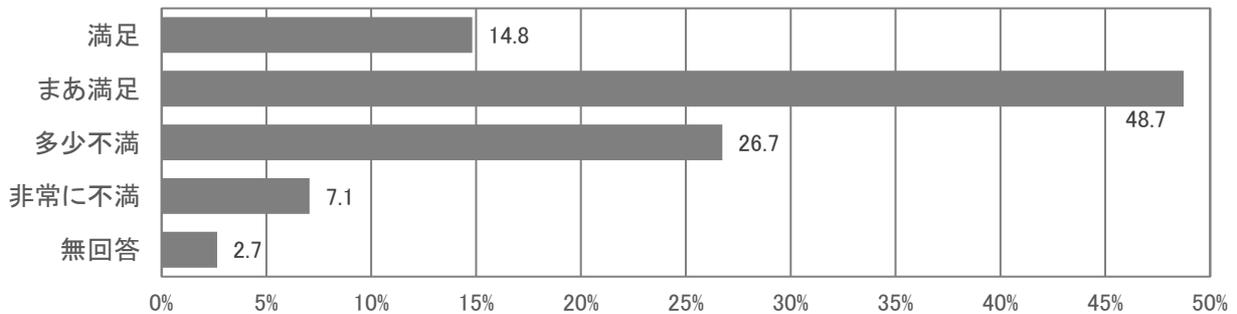
住まいに満足していると回答したのは6割以上となっている。不満や不安な点は、「断熱性(夏の暑さ、冬の寒さ)」や「地震時の安全性」など住宅の性能に対して不満や不安を感じている傾向がみられた。

住宅のまわりの環境は、7割以上が満足と回答している。不満や不安な点は、「日常の買い物などの利便」が29.0%と最も高かった。

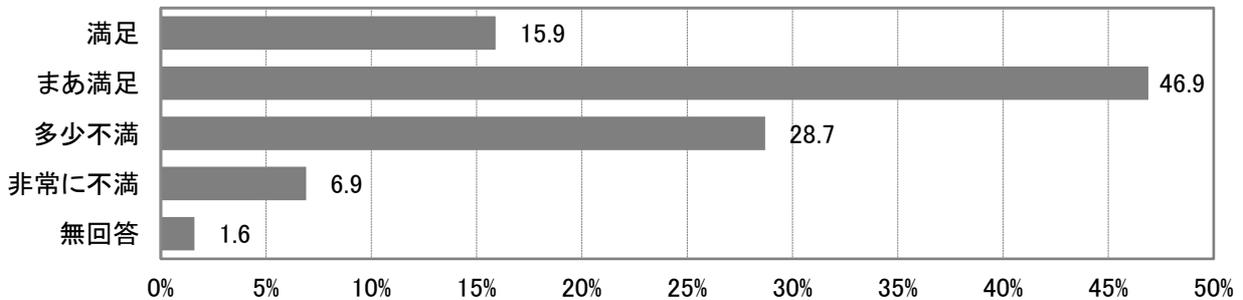
問8、住宅に対する満足度について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

住宅に対する満足度は、62.8%が「満足」又は「まあ満足」と回答しており、平成30年度と比較すると、ほぼ同じ傾向がみられた。住宅築年数別でみると、平成24年以降に建築された住宅においては、約8割の住宅において満足度が高くなっている一方、昭和55年以前に建築された住宅では、半数が住宅に対し不満を持つ傾向がみられた。

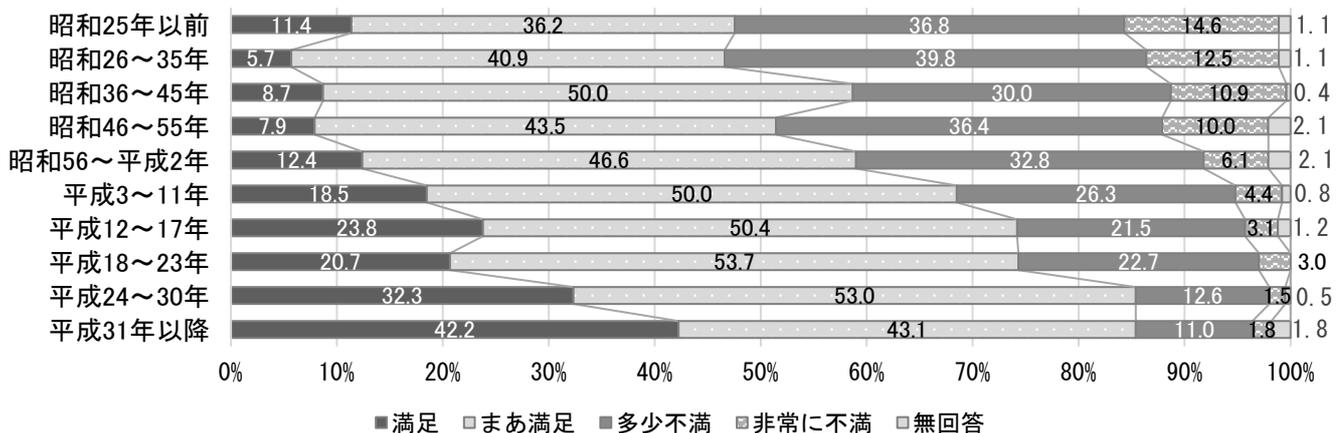
問8 平成30年度 住宅に対する満足度(1つ○) (N=4,110)



令和5年度 住宅に対する満足度(1つ○) (N = 2,989)



住宅築年数別



問9、住宅のどの点が不満又は不安ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

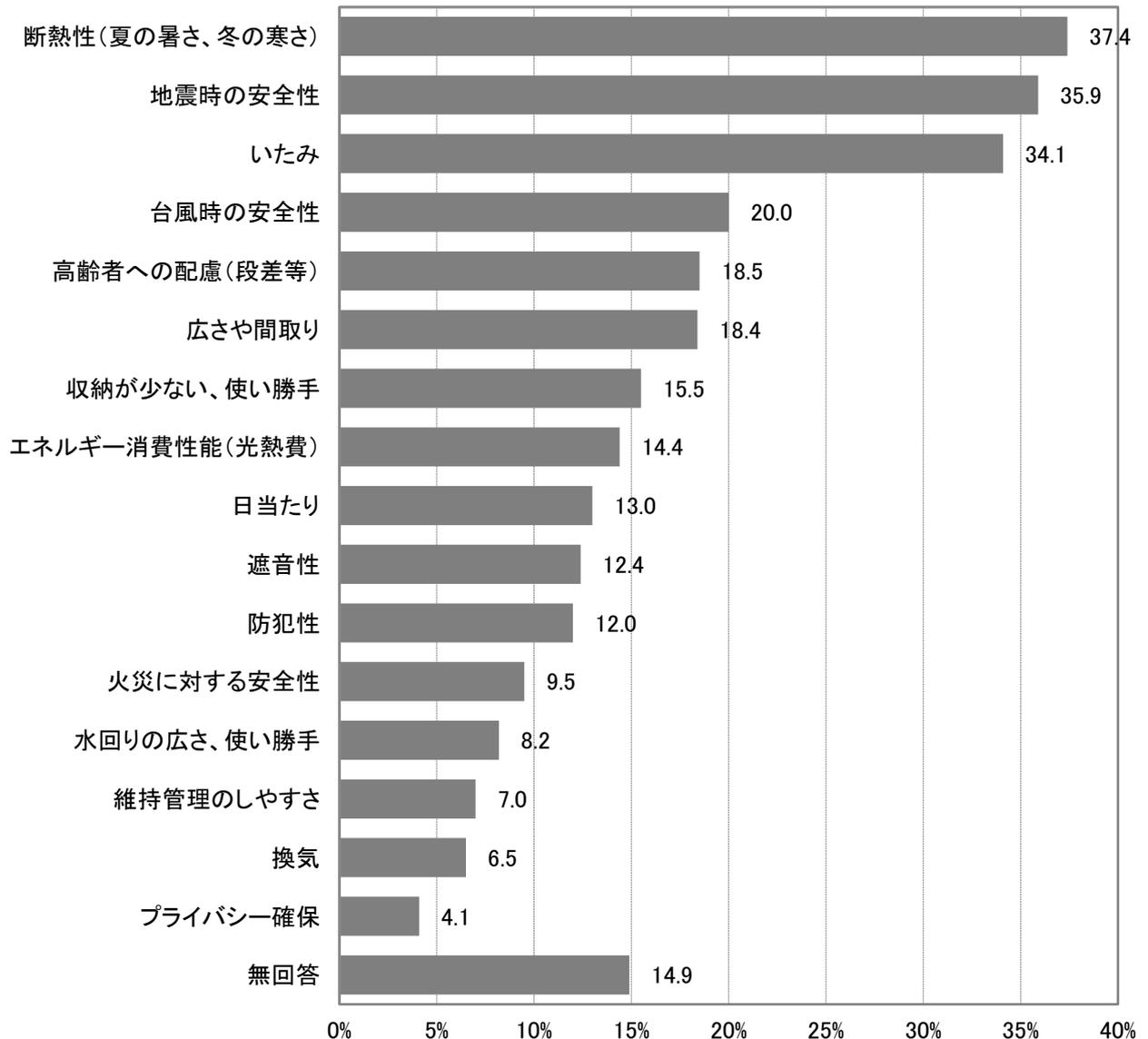
住宅の不満や不安な点は、「断熱性(夏の暑さ、冬の寒さ)」が37.4%、「地震時の安全性」が35.9%と高く、次いで「いたみ」が34.1%となっている。

年代別でみると、20歳代、30歳代では「広さや間取り」が約4割と高いことから、若い世代では広さに不満が多い傾向がみられた。60歳代以上では「いたみ」、「断熱性(夏の暑さ、冬の寒さ)」、「地震時の安全性」が約4割と高いことから、高齢者は築年数の古い住宅に居住しているということもあり、いたみや断熱性、耐震性などハード面での不満が多い傾向がみられた。

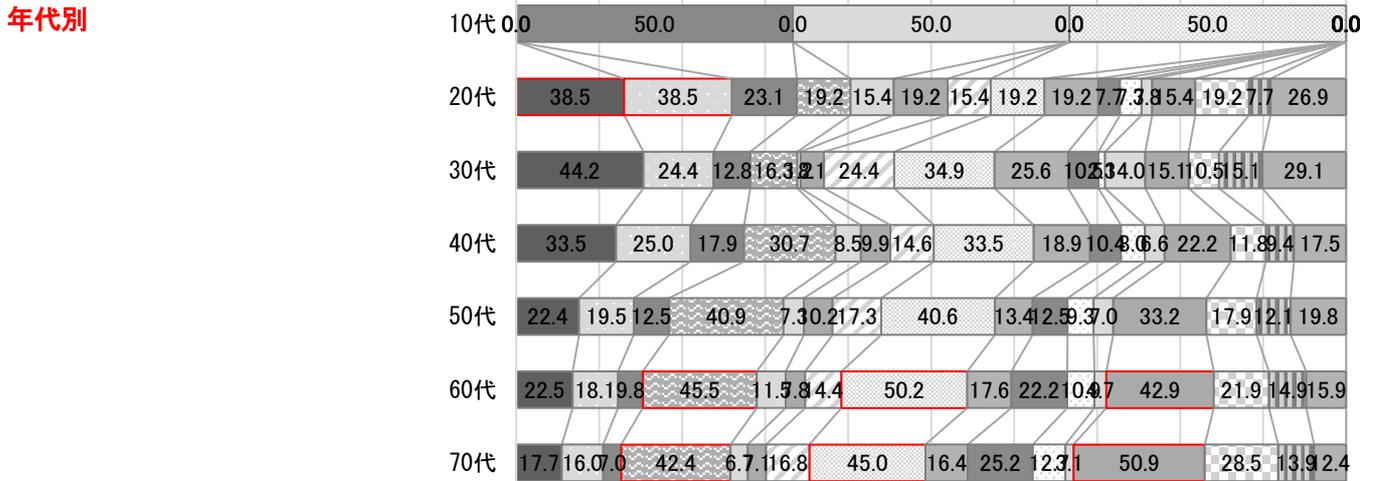
住宅種別でみると、分譲共同住宅を除く住宅では、「いたみ」や「断熱性」が高くなる傾向がみられるが、一方で分譲共同住宅では、「収納が少ない、使い勝手」が高く、可変性に対する不満が多い傾向がみられた。

建築時期別でみると、昭和55年以前の住宅においては「地震時の安全性」の不満・不安が最も高く、昭和56年以降では「断熱性」、「広さや間取り」、「収納が少ない、使い勝手」等が高くなることから、新耐震基準となった昭和56(1981)年の以前と以降の住宅で耐震性に関する不満・不安が占める割合が変化する傾向がみられた。

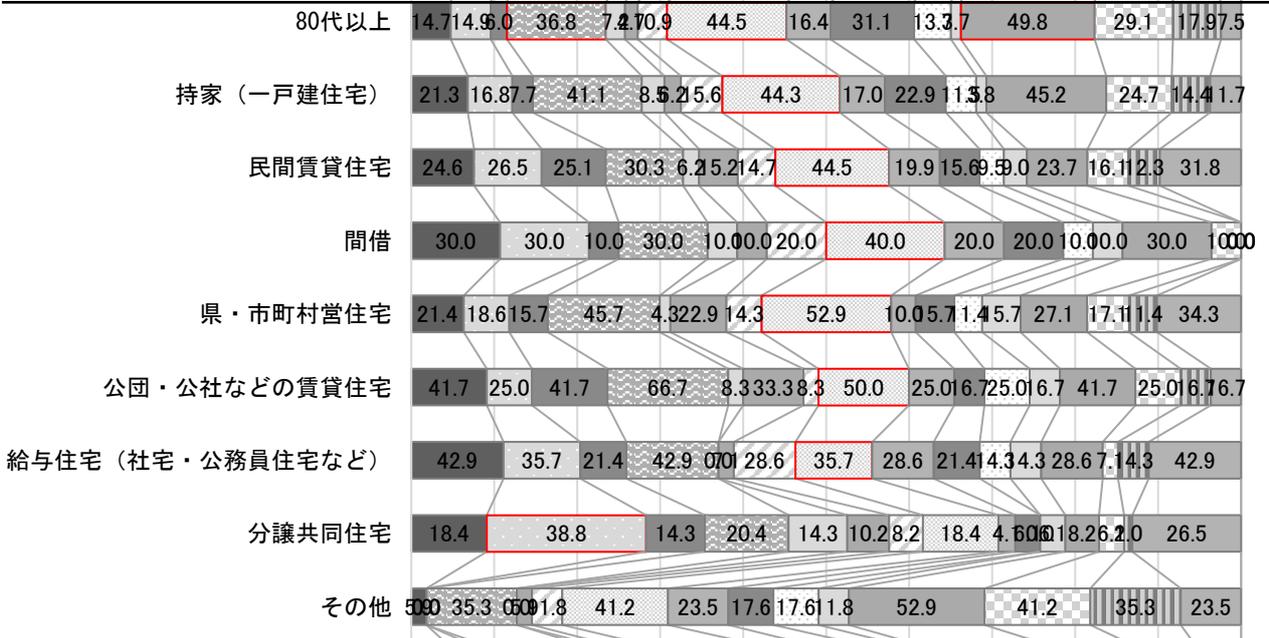
問9 住宅のどの点が不満又は不安か(複数に○) (N = 2,989)



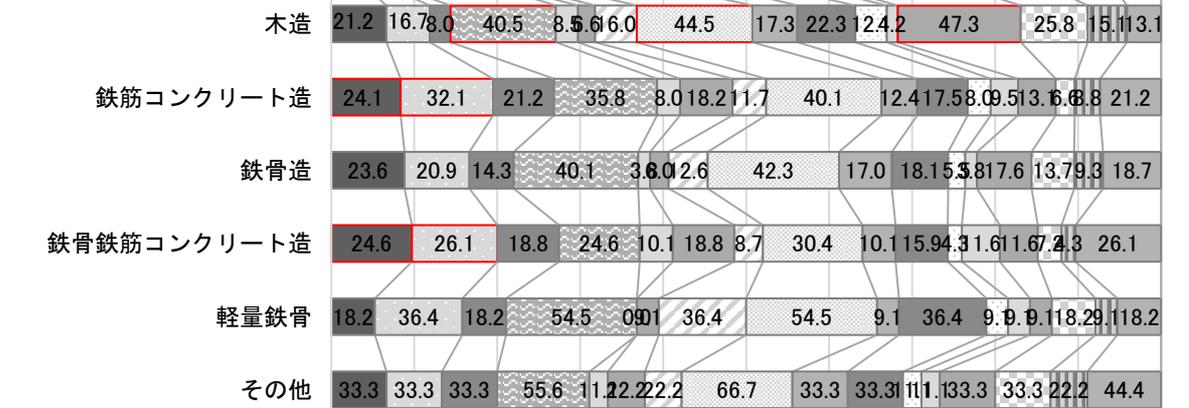
年代別



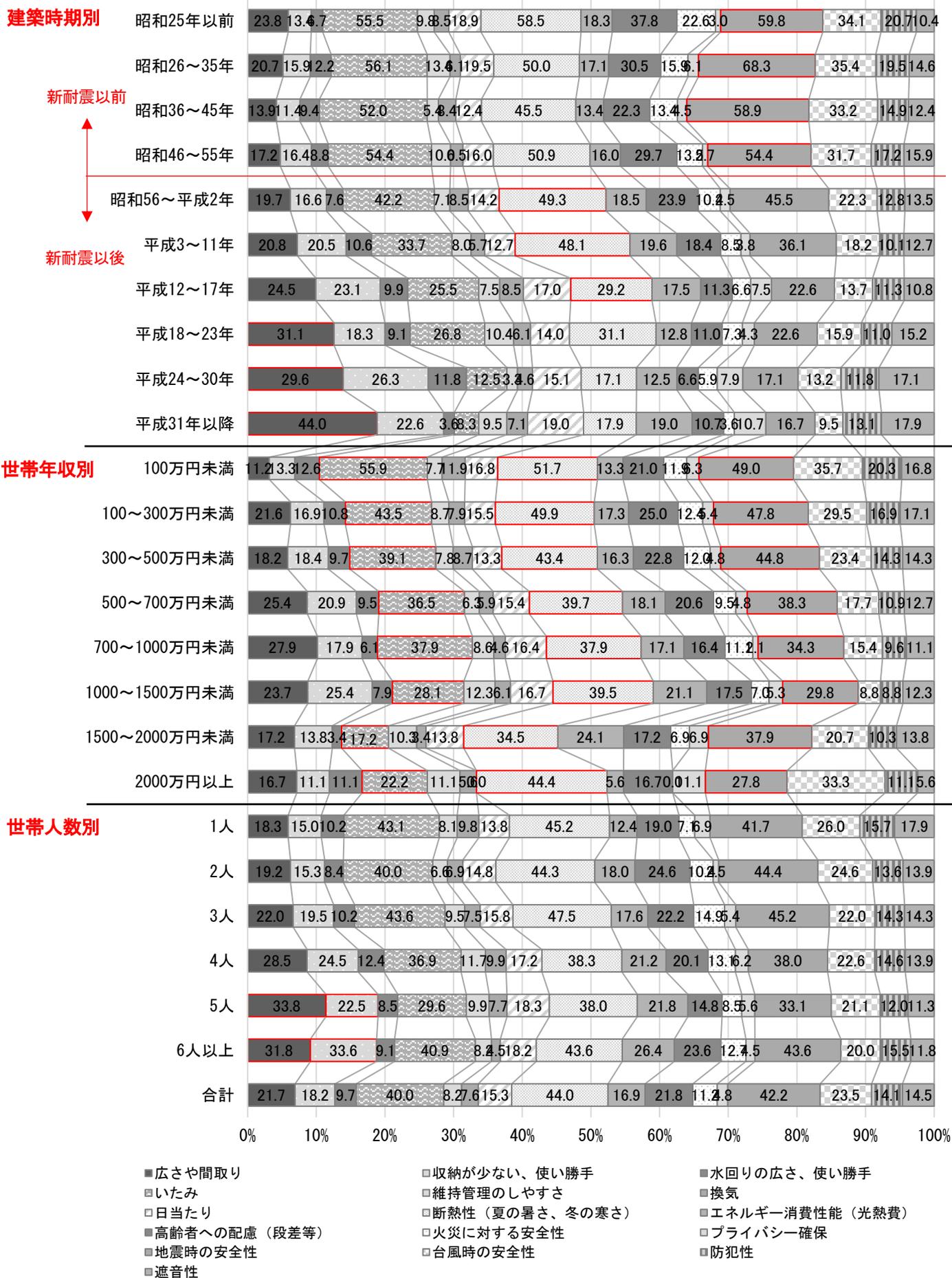
住宅種別



建築構造別



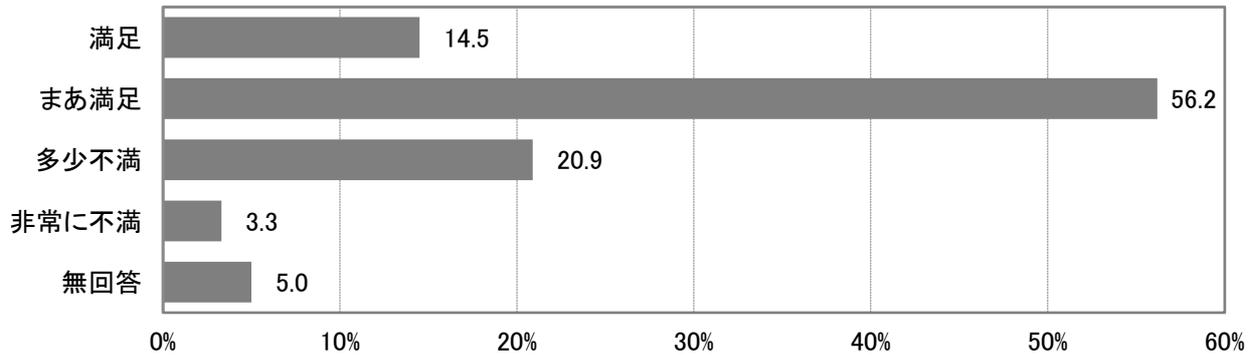
- 広さや間取り
- 収納が少ない、使い勝手
- 水回りの広さ、使い勝手
- いたみ
- 維持管理のしやすさ
- 換気
- 日当たり
- 断熱性 (夏の暑さ、冬の寒さ)
- エネルギー消費性能 (光熱費)
- 高齢者への配慮 (段差等)
- 火災に対する安全性
- プライバシー確保
- 地震時の安全性
- 台風時の安全性
- 防犯性
- 遮音性



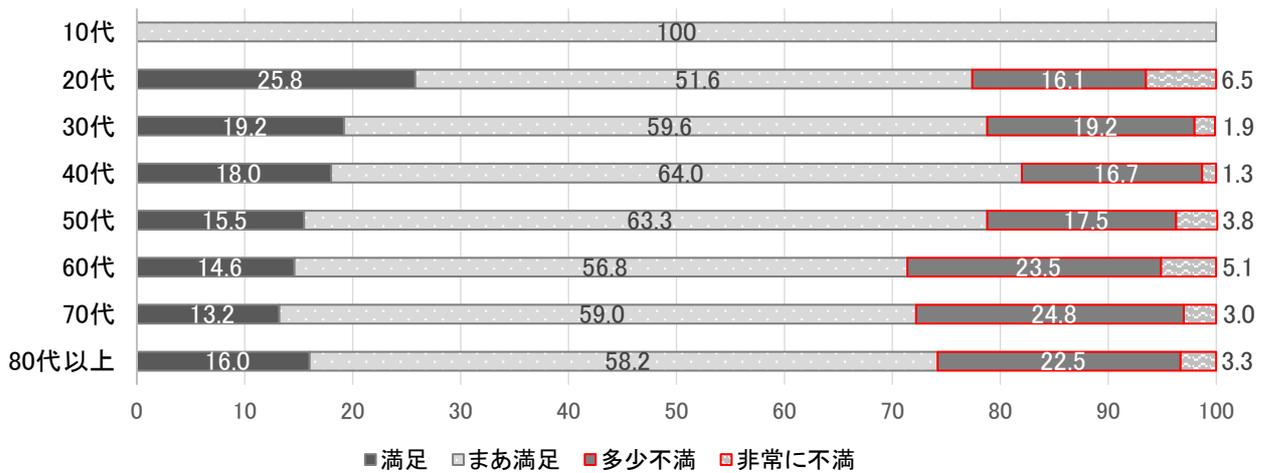
問10、住宅のまわりの住宅環境に対する満足度について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

住宅のまわりの住宅環境に対する満足度は、70.7%が「満足」又は「まあ満足」と回答している。
年代別でみると、年代が上がるほど多少不満、非常に不満の割合が高くなる傾向がみられた。

問10 住宅のまわりの住宅環境に対する満足度 (N = 2,989)



年代別



問11、住宅のまわりの住宅環境について、どの点が不満又は不安ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

住宅のまわりの住宅環境の不満や不安な点は、「日常の買物などの利便」が29.0%と最も高く、次いで、「災害時の避難」が21.6%、「水害・津波」が18.6%となっている。

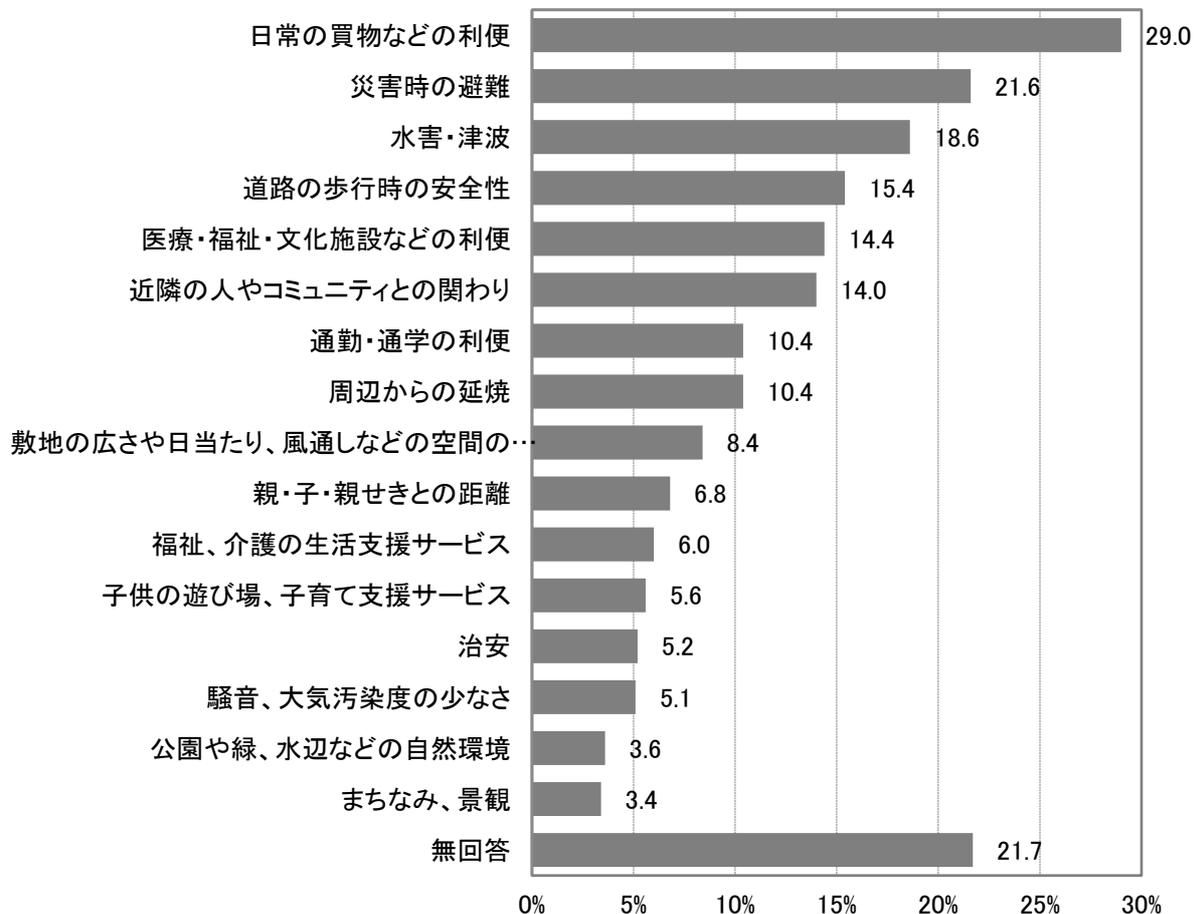
年代別でみると、20、60歳代以上では「日常の買物などの利便」が約4割と最も高くなる傾向がみられたが、20～40歳代の子育て世代では、通勤・通学、日常の買い物の利便性だけでなく「子供の遊び場、子育て支援サービス」や「親・子・親せきとの距離」が高くなる傾向がみられ、ライフステージに併せて住宅のまわりの住宅環境についての不満・不安が異なることが考えられる。

住宅種別でみると、持家では「日常の買物などの利便性」が39.1%と高い傾向がみられた。

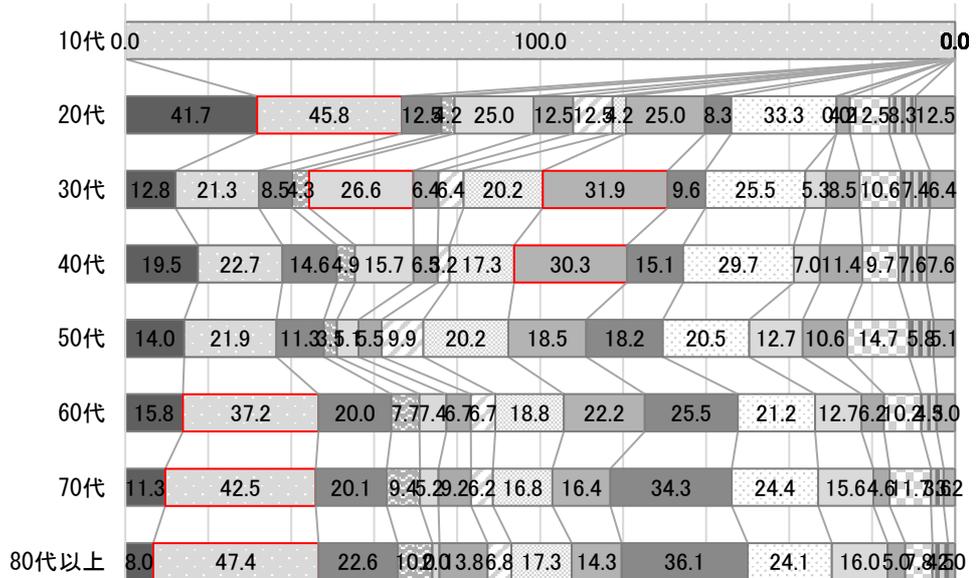
建築構造別でみると、木造では「日常の買物などの利便」に次いで、「災害時の避難」、「水害・津波」が高くなる傾向がみられた。

建築時期別でみると、築浅になるほど「子供の遊び場、子育て支援サービス」、「近隣の人やコミュニティとの関わり」、「道路の歩行時の安全性」が高くなり、築浅になるほど居住者も若いことから、子育て環境に関する不満・不安が高まる傾向がみられた。

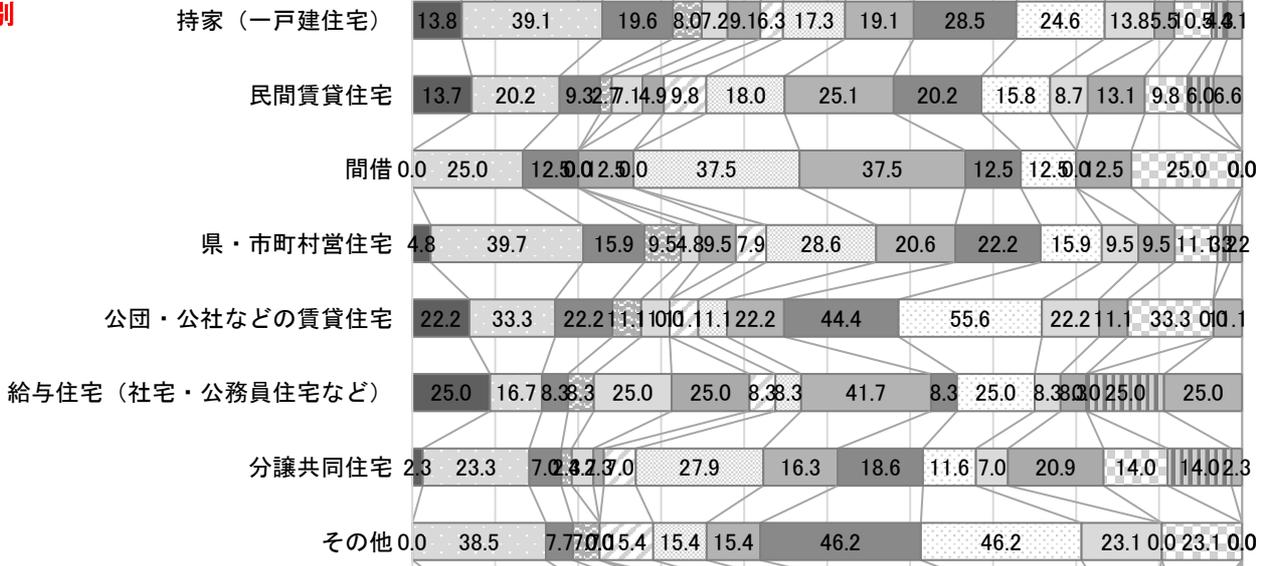
問11 住宅まわりの住宅環境のどの点が不満又は不安か(複数に○) (N = 2,989)



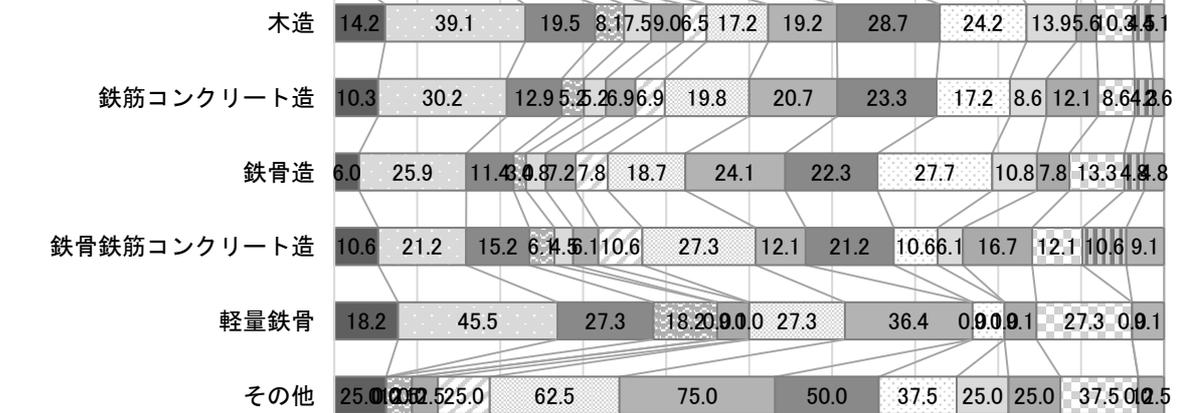
年代別



住宅種別

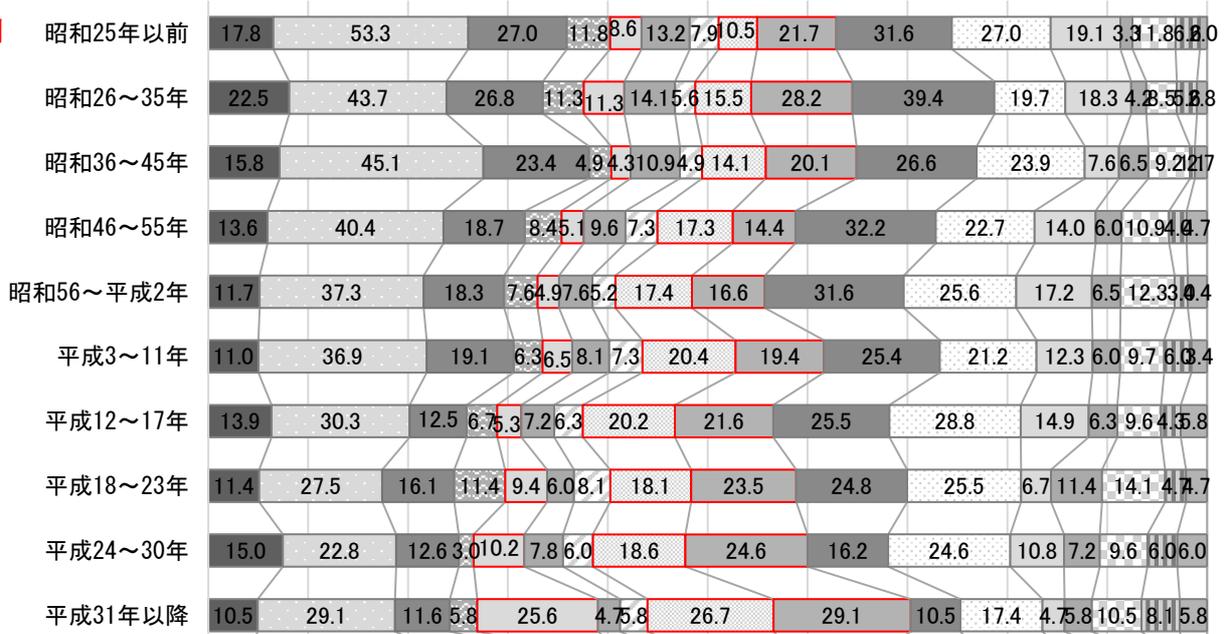


建築構造別

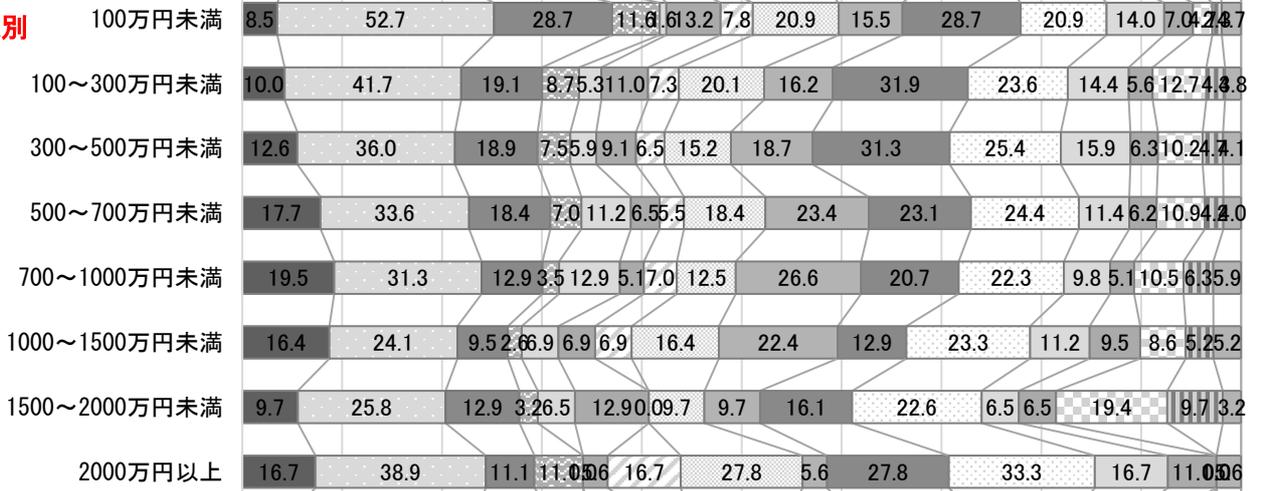


- 通勤・通学の利便
- 医療・福祉・文化施設などの利便
- 子供の遊び場、子育て支援サービス
- 治安
- 道路の歩行時の安全性
- 水害・津波
- 騒音、大気汚染度の少なさ
- 公園や緑、水辺などの自然環境
- 日常の買物などの利便
- 福祉、介護の生活支援サービス
- 親・子・親せきとの距離
- 近隣の人やコミュニティとの関わり
- 災害時の避難
- 周辺からの延焼
- 敷地の広さや日当たり、風通しなどの空間のゆとり
- まちなみ、景観

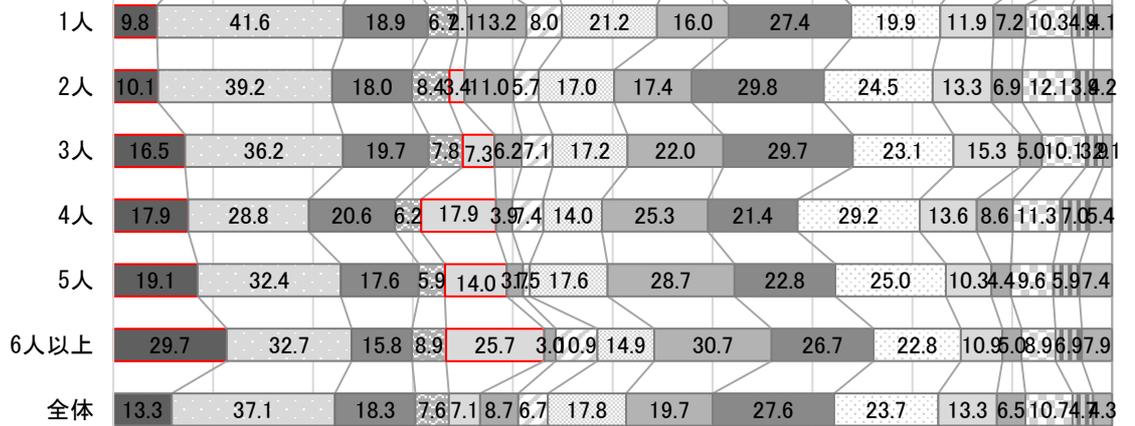
建築時期別



世帯収入別



世帯人数別



- 通勤・通学の利便
- 医療・福祉・文化施設などの利便
- 子供の遊び場、子育て支援サービス
- 治安
- 道路の歩行時の安全性
- 水害・津波
- 騒音、大気汚染度の少なさ
- 公園や緑、水辺などの自然環境
- 日常の買物などの利便
- 福祉、介護の生活支援サービス
- 親・子・親せきとの距離
- 近隣の人やコミュニティとの関わり
- 災害時の避難
- 周辺からの延焼
- 敷地の広さや日当たり、風通しなどの空間のゆとり
- まちなみ、景観

Ⅲ 住宅の住み替え、建て替え又はリフォームのご意向

～住まいの住み替え、建て替えまたはリフォームの意向について～(問12～16)

住宅の住み替え、建て替え、リフォームの計画は「さしあたり計画、予定はない」が約8割となっていることから、建て替え又はリフォームを行う意向は、全体的に低い傾向がみられた。

年代別で見ると、「リフォームを行う」は60歳以上で高くなっており、リフォームの内容は、「台所・トイレ・浴室・洗面所の改修」が約半数となっている。一方で、「二重サッシ・複層ガラスへの交換（省エネ化）」が約3割、「壁、屋根などの断熱・結露防止工事（省エネ化）」が約2割となっており、老朽化対策だけでなく、省エネ関係のリフォームを行う意向も高くなっている。

リフォームを行うにあたり不安な点は、「資金の確保ができない」が約3割を占め、住み替えやリフォームの実現にあたり困る点は、「預貯金や返済能力の不足、またはその可能性がある」が3割以上となっていることから、資金面の問題からリフォームに対して不安を持つ傾向が高くなっている。

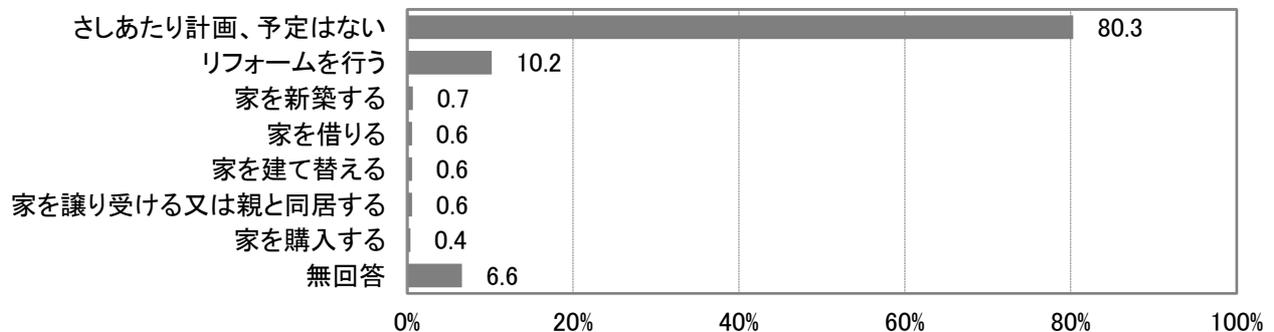
問12、住宅の住み替え、建て替え又はリフォーム(増改築、模様替え、修繕など)のご意向について、以下の問いにお答えください。

(ア)住宅の住み替え、建て替え又はリフォーム(増改築、模様替え、修繕など)の計画又は予定はありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

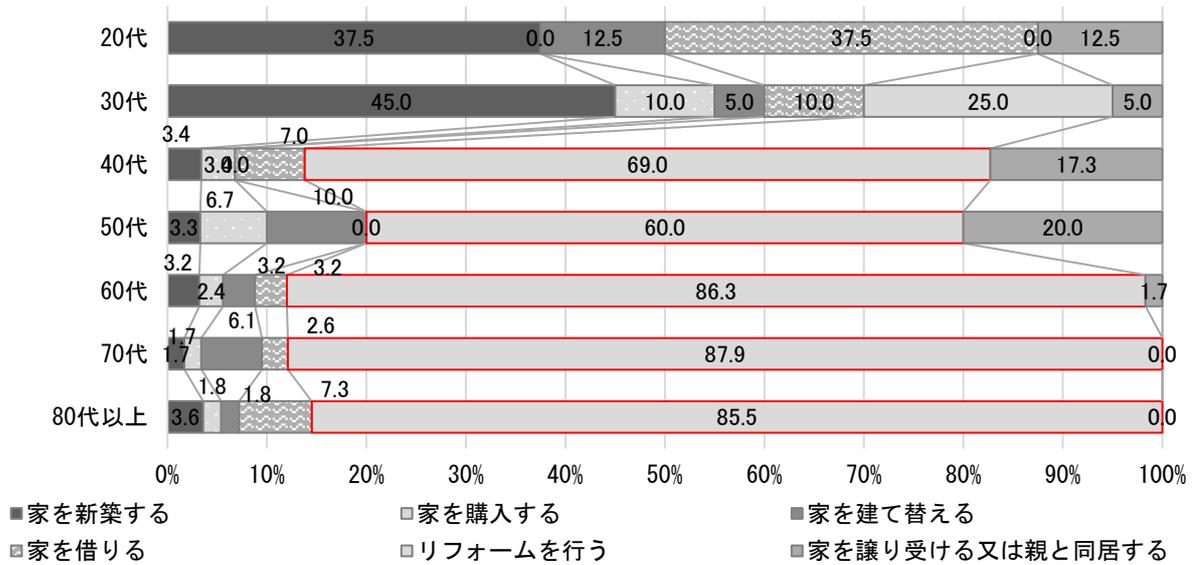
住宅の住み替え、建て替え、リフォームの計画は、「さしあたり計画、予定はない」が80.3%と最も高く、次いで「リフォームを行う」が10.2%となっている。

「さしあたり計画、予定はない」を除く年代別で見ると、40歳代以上では「リフォームを行う」が高くなっており、住宅築年数別で見ると、全体的に「家を新築する」、「家を建て替える」よりは、「リフォームを行う」が高くなる傾向がみられた。

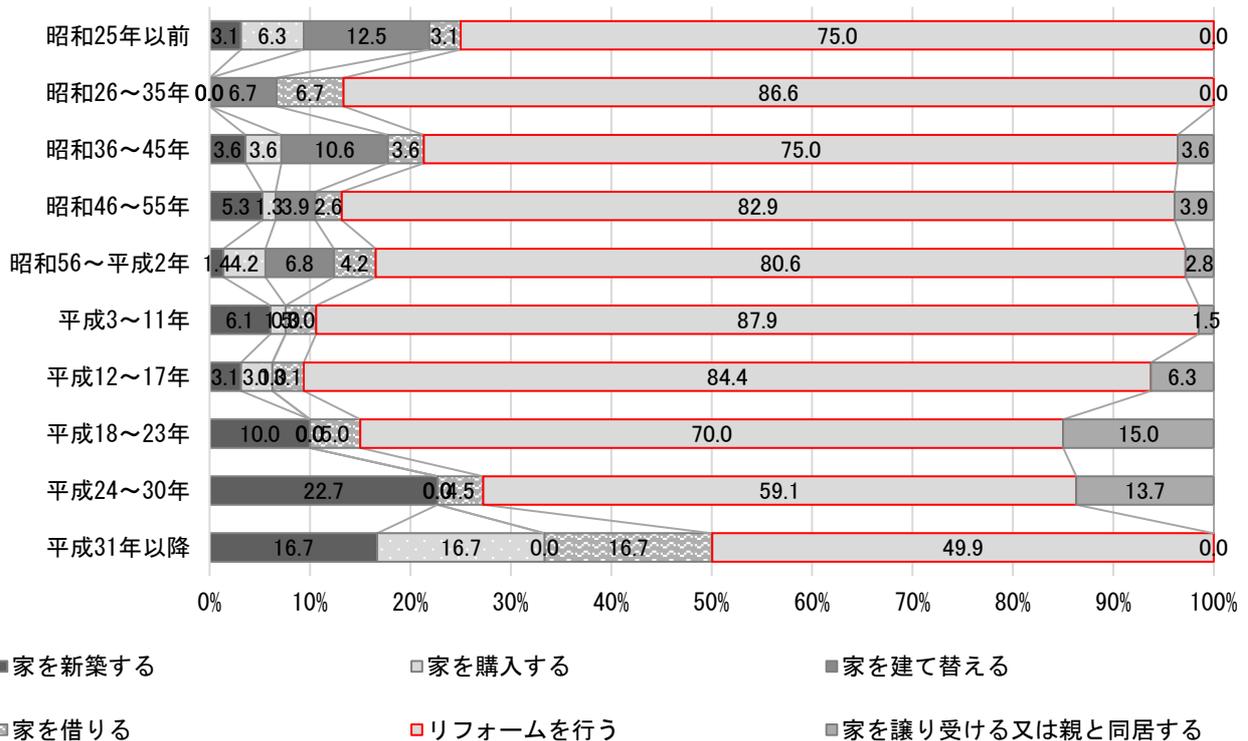
問12(ア) 住み替え、建て替え又はリフォームの計画または予定(1つ○) (N = 2,989)



年代別（さしあたり計画、予定はないを除く N = 381）



住宅築年数別（さしあたり計画、予定はないを除く N = 369）

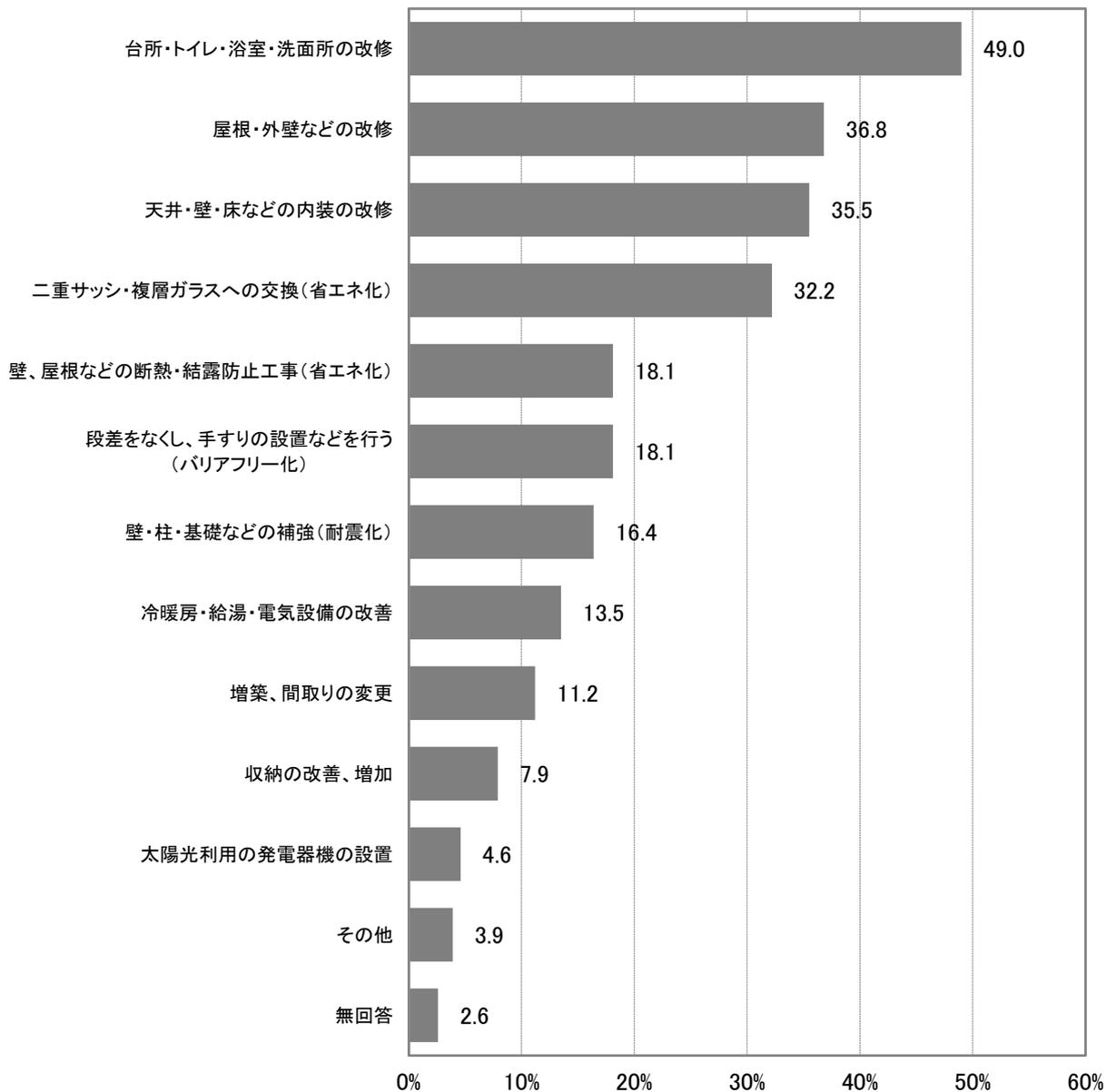


問13 問12(ア)で「5. リフォームを行う」に○をされた方にお尋ねします。

住宅のリフォームはどのようなものを考えていますか。あてはまるものをすべてに○をつけてください。

リフォームの内容は、「台所・トイレ・浴室・洗面所の改修」が 49.0%と最も高く、次いで、「屋根・外壁などの改修」が 36.8%、「二重サッシ・複層ガラスへの交換(省エネ化)」が 32.2%となっている。

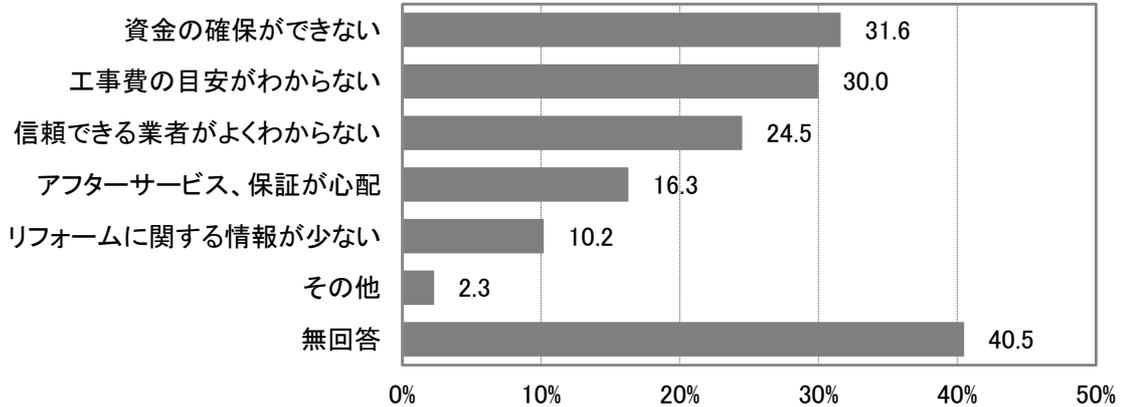
問13 住宅のリフォームではどのようなことを考えているか(複数に○) (N = 304)



問14 リフォームを行うにあたり、不安に思う点は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
 リフォームを行うことを想定して、全ての方がお答えください。

リフォームを行うにあたり不安な点は、「資金の確保ができない」が31.6%と最も高く、次いで「工事費の目安がわからない」が30.0%、「アフターサービス、保証が心配」が16.3%となっている。

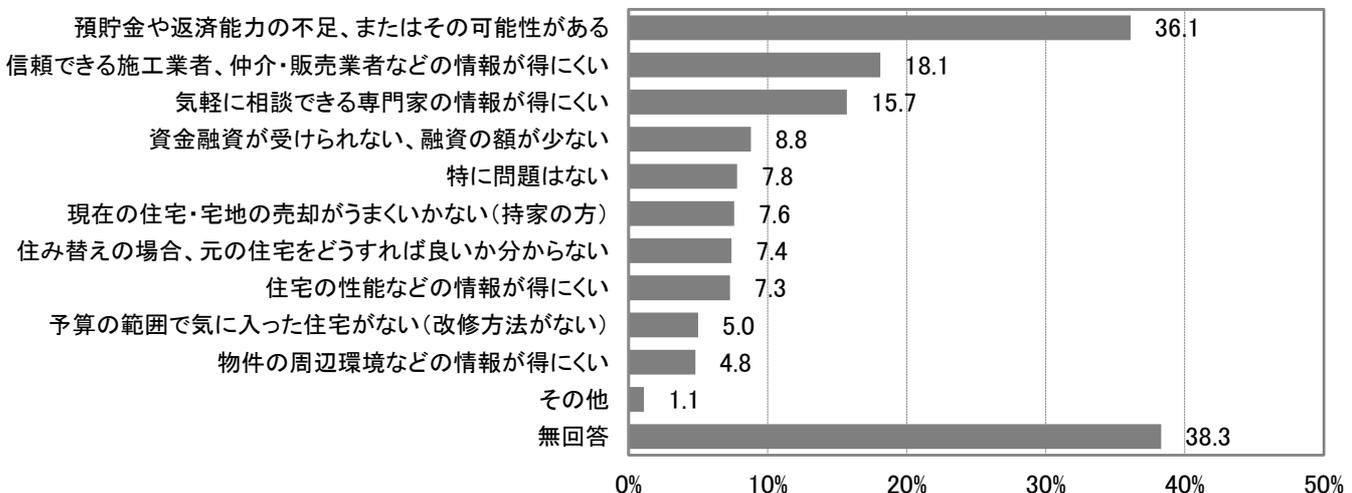
問14 リフォームを行うにあたり、不安に思う点について(複数に○) (N = 2,989)



問15 住み替えやリフォームの実現にあたり、お困りの点は何ですか。あてはまるものをすべてに○をつけてください。住み替えやリフォームを行うことを想定して、全ての方がお答えください。

住み替えやリフォームの実現にあたり、お困りの点は、「預貯金や返済能力の不足、またはその可能性がある」が36.1%と最も高く、次いで、「信頼できる施工業者、仲介・販売業者などの情報が得にくい」が18.1%、「気軽に相談できる専門家の情報が得にくい」が15.7%となっている。

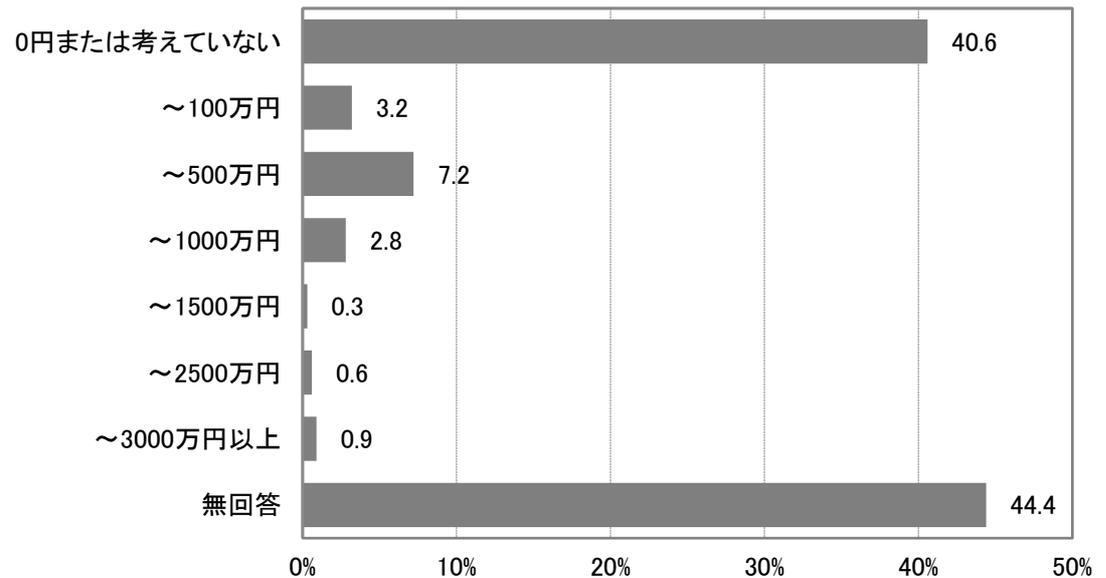
Ⅲ：問15 住み替えやリフォームにあたり、困る点について(複数に○) (N = 2,989)



問16 住み替え又はリフォームにあたり、現時点で借入を含め、いくらぐらいまで資金として準備することができるとお考えですか。

住み替えやリフォームの準備可能な資金は、「0円または考えていない」が40.6%と最も高く、次いで、「～500万円」が7.2%、「～100万円」が3.2%となっている。

問16 住み替え又はリフォームにあたり、いくらぐらいまで資金として準備することができるか(N = 2,989)



IV 高齢期の住まい方

～高齢期の住まい方について～(問 17～19)

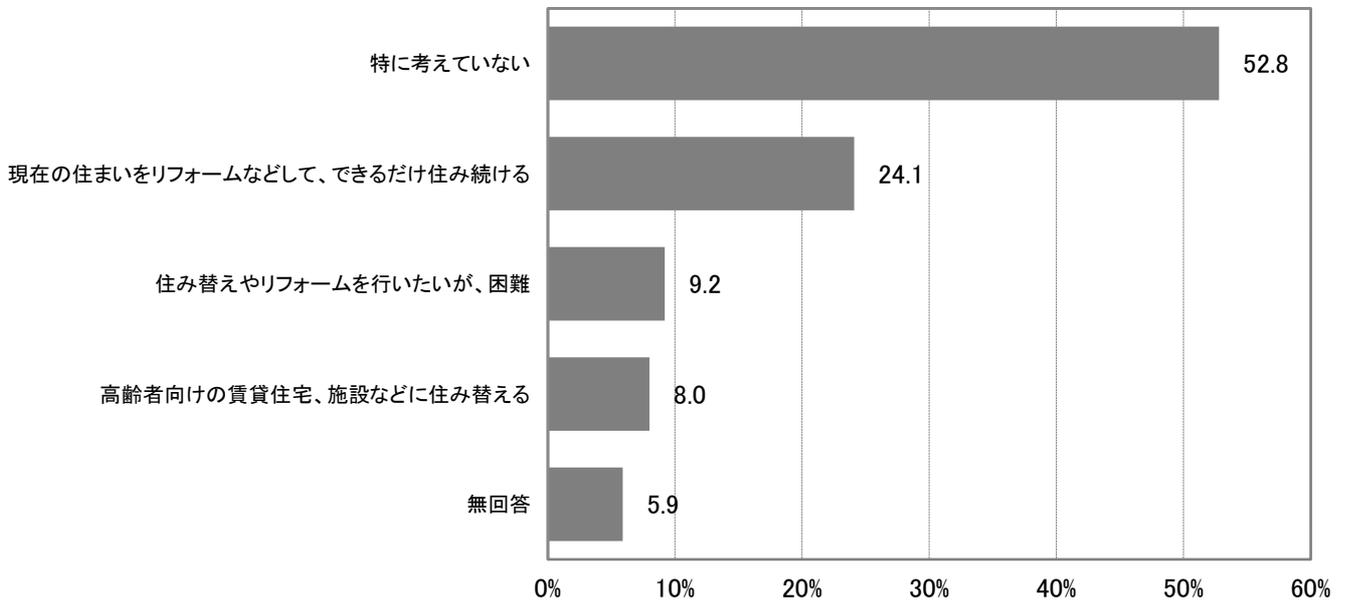
高齢期の住み替えやリフォームは、「特に考えていない」が約半数となっている。
住み替える場合については、「持家(一戸建住宅)」が約3割、不安な点について、「資金の確保、計画ができない」が3割以上となっていることから、リフォームに対する資金面での不安が高い傾向がみられた。

問17 高齢期を安心して過ごすため、あるいは介護・住居費負担の軽減などのため、将来的に、住み替えやリフォームを考えていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

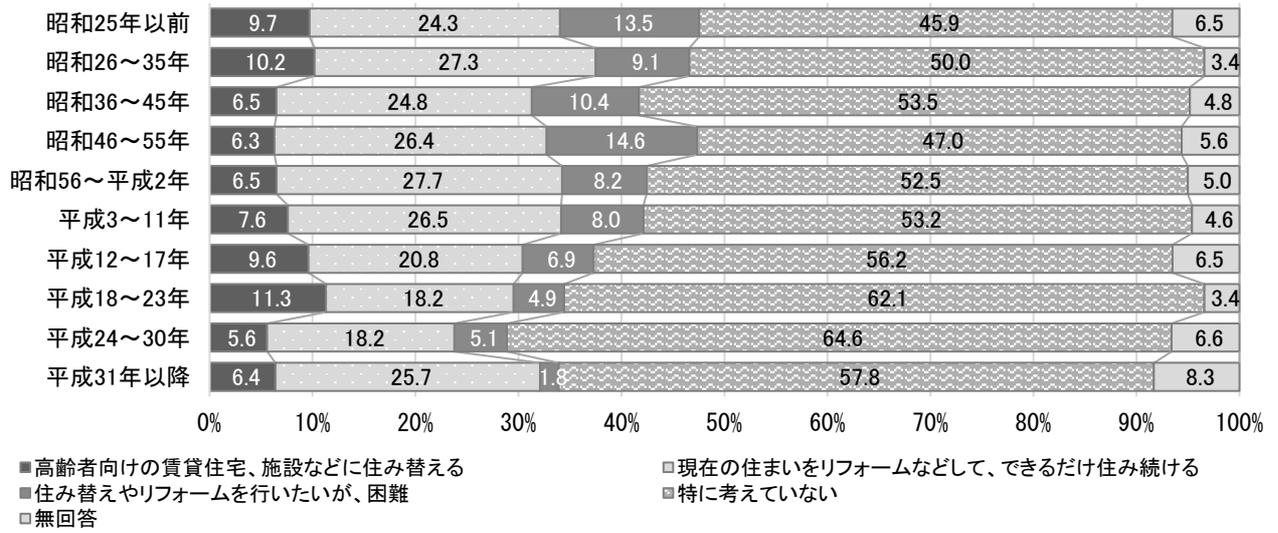
高齢期の住み替えやリフォームは、「特に考えていない」が52.8%と最も高く、次いで、「現在の住まいをリフォームなどをして、できるだけ住み続ける」が24.1%となっている。

昭和 55 年以前の住宅になると、住まい手も高齢の方が多く、住み替えやリフォームの意向が高くなるものの、年収 300 万円未満の世帯では、「住み替えやリフォームを行いたいが、困難」が高くなり、リフォーム等の資金確保の問題があるとみられる。

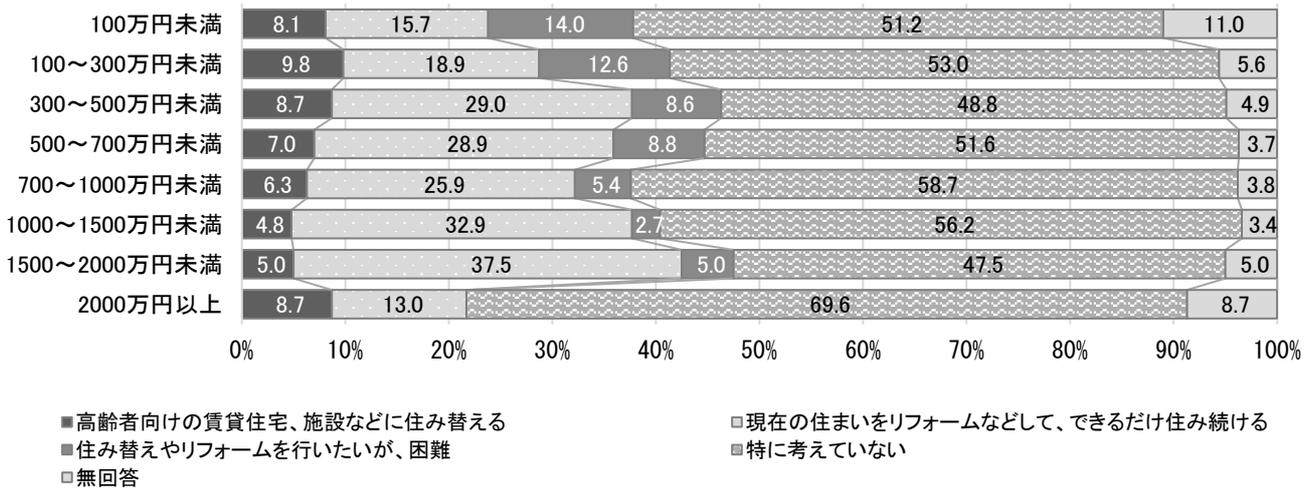
問17 高齢期、介護・住居費負担のため、将来的に、住み替えやリフォームを考えているか
N = 2989



住宅築年数別



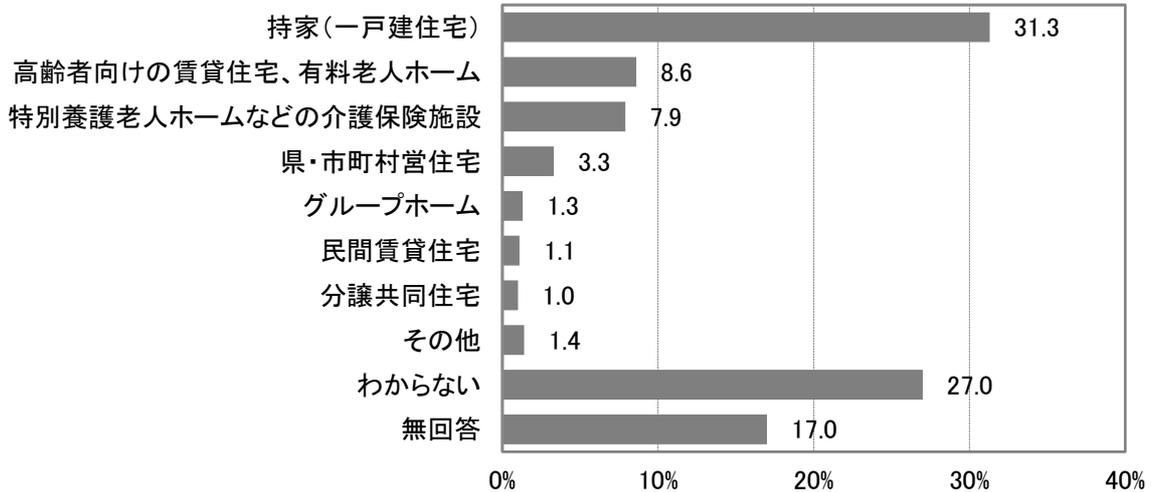
世帯年収別



問18 住み替えるとしたらどのような住宅に住みたいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

高齢期に住み替える場合の住居希望は、「持家(一戸建住宅)」が31.3%と最も高く、次いで「高齢者向けの賃貸住宅、有料老人ホーム」が8.6%、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設」が7.9%となっている。

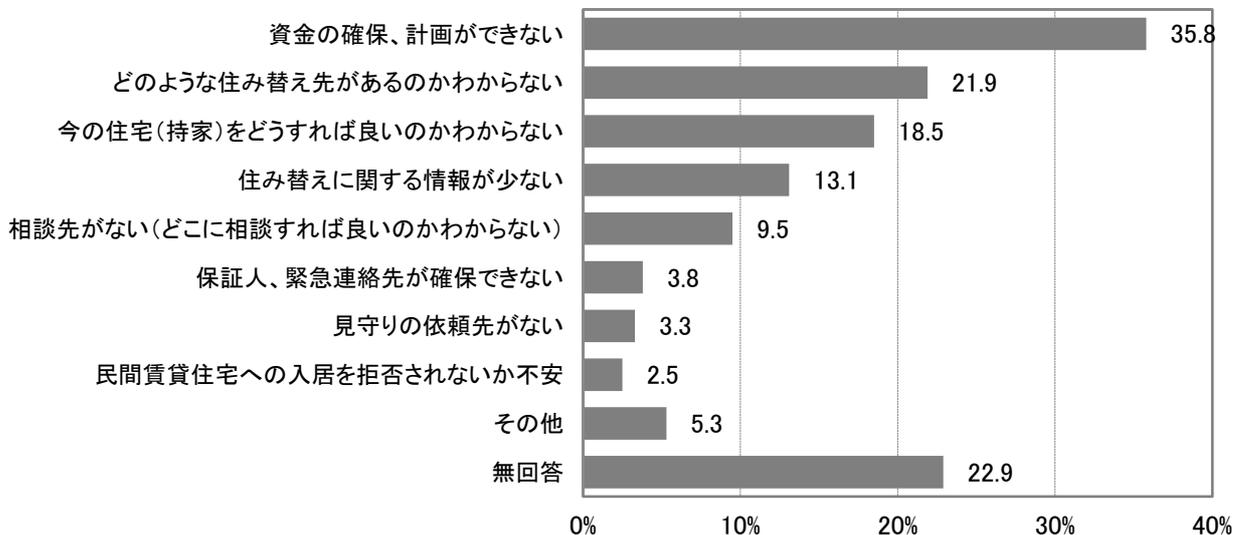
問18 住み替えるとしたらどのような住宅に住みたいか(1つ○) N = 2989



問19 高齢期のための住み替えを行う場合、不安に思う点は何ですか。あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

高齢期に住み替える場合の不安は、「資金の確保、計画ができない」が35.8%と最も高く、次いで、「どのような住み替え先があるのかわからない」が21.9%、「今の住宅(持家)をどうすれば良いのかわからない」が18.5%となっている。

問19 高齢期のための住み替えを行う場合、不安に思う点(2つまで○) (N = 2989)



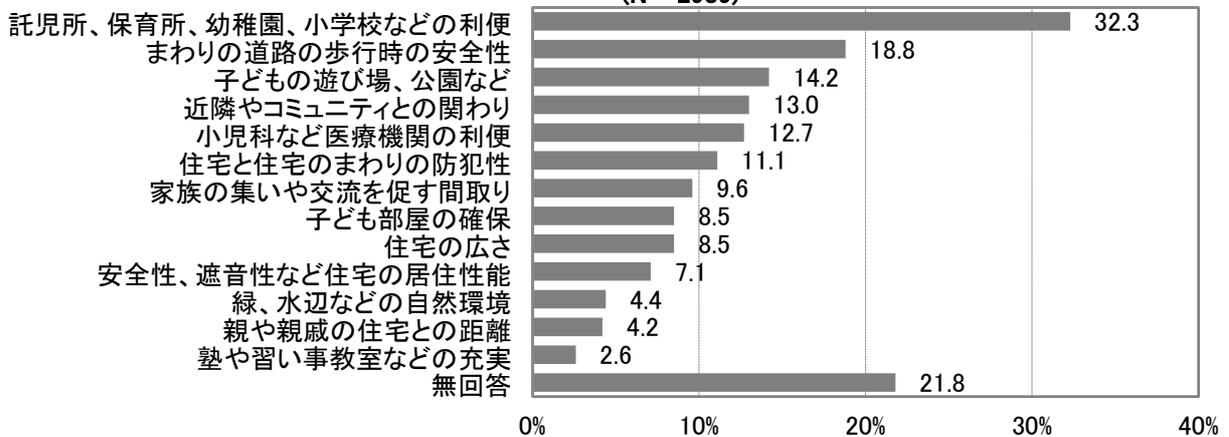
V 子育て環境について

問20 子育てをするうえで、住宅やその周りの環境について、どのような点が重要だと思いますか。あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。子どもがいない方、現在は子育てをされていない方もお答えください。

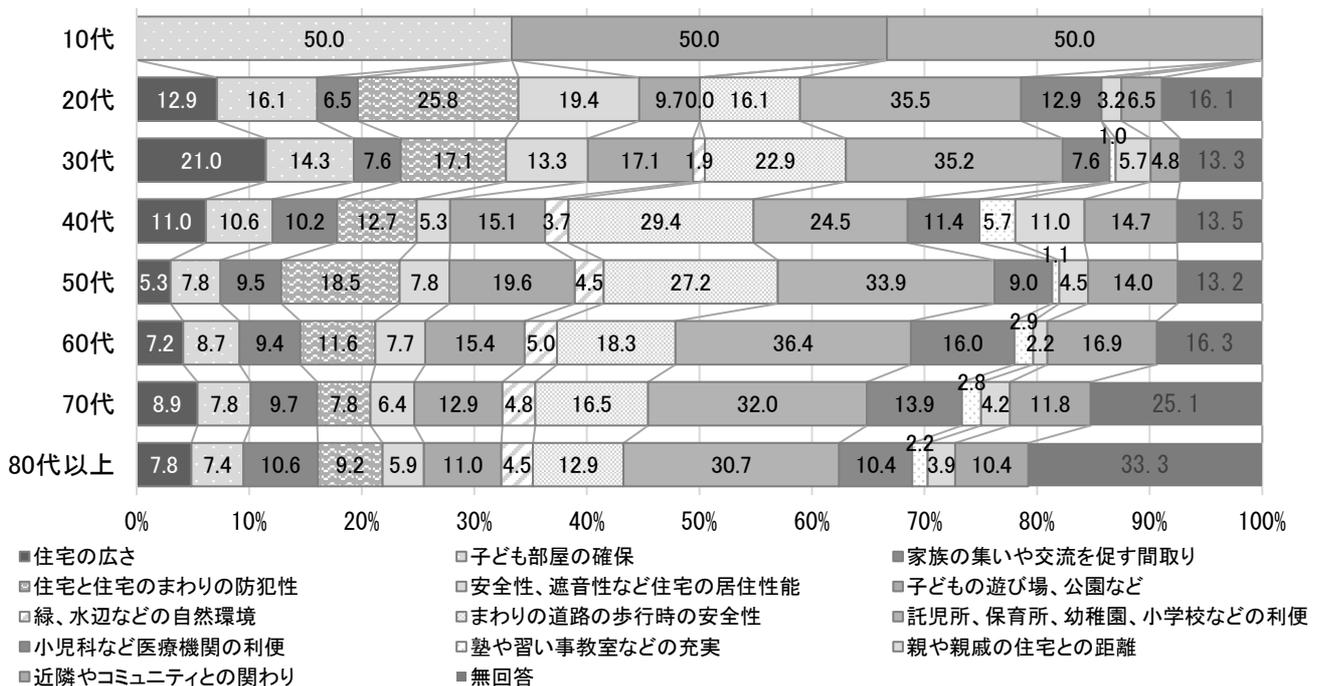
子育てをするうえで重要なものは、「託児所、保育所、幼稚園、小学校などの利便」が32.3%と最も高く、次いで「まわりの道路の歩行時の安全性」が18.8%、「子どもの遊び場、公園など」が14.2%となっている。

年代別で見ると、「託児所、保育所、幼稚園、小学校などの利便」は20～30歳代と60歳代が高く、「まわりの道路の歩行時の安全性」は40～50歳代が高くなる傾向がみられた。

問20 子育てをするうえで、住宅やその周りの環境について、重要だと思う点(2つまで○)
(N = 2989)



年代別



VI 中古住宅の購入について

～中古住宅購入について～(問 21～24)

中古住宅の購入は、「新築の方がよいので、中古住宅の購入は考えない」が25.4%と最も高い。一方、「新築だけでなく、中古住宅の購入も検討したい」が24.0%であることから、新築住宅だけでなく、中古住宅の購入を検討する意向も高くなる傾向がみられた。

中古住宅のメリットは、「新築に比べて割安」が約4割と高く、中古住宅の不安・不満は、「隠れた不具合がないか心配」が約3割と最も高くなっている。

また、中古住宅の購入にあると良いものは、「住宅の品質の第三者検査の結果」「入居後の住宅保証制度」「住宅の品質、性能の表示」の回答が多いことから、保証や品質表示を求める傾向がみられた。

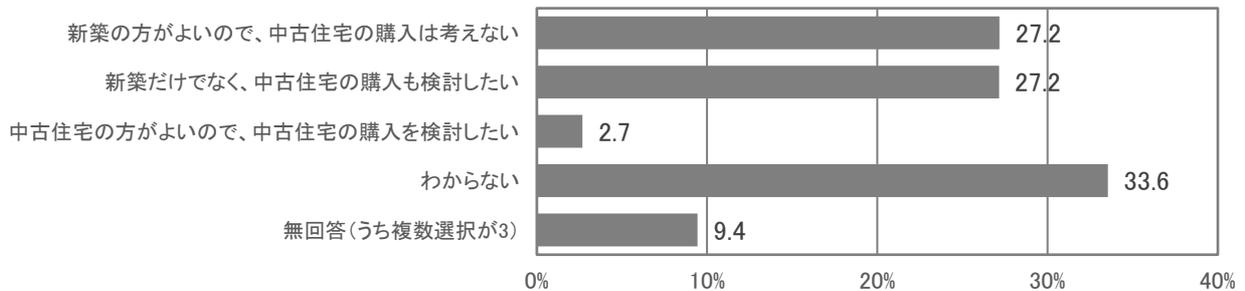
問21 中古住宅の購入についてどのようにお考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

中古住宅の購入の意向については、平成30年度と比較すると、令和5年度においても「新築の方がよいので、中古住宅の購入は考えない」、「新築だけでなく、中古住宅の購入も検討したい」の二つの意向が高い傾向がみられた。

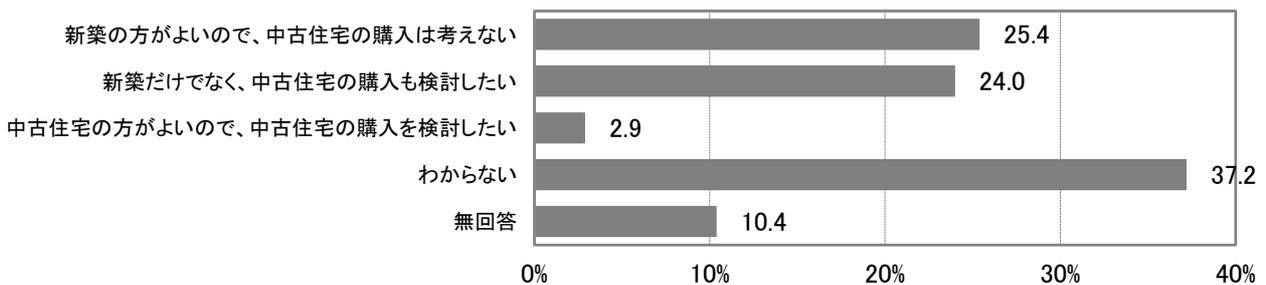
年代別でみると、「新築の方がよいので、中古住宅の購入は考えない」は30歳代で高く、「新築だけでなく、中古住宅の購入も検討したい」は20、40、50歳代で高くなり、ローン等を考慮し、購入資金が抑えられる中古住宅を購入する意向が高くなる傾向がみられた。

世帯年収別でみると、「新築の方がよいので、中古住宅の購入は考えない」は世帯年収 700 万円以上で高くなる一方、「新築だけでなく、中古住宅の購入も検討したい」は世帯年収 700 万円未満の世帯で高くなる傾向がみられた。

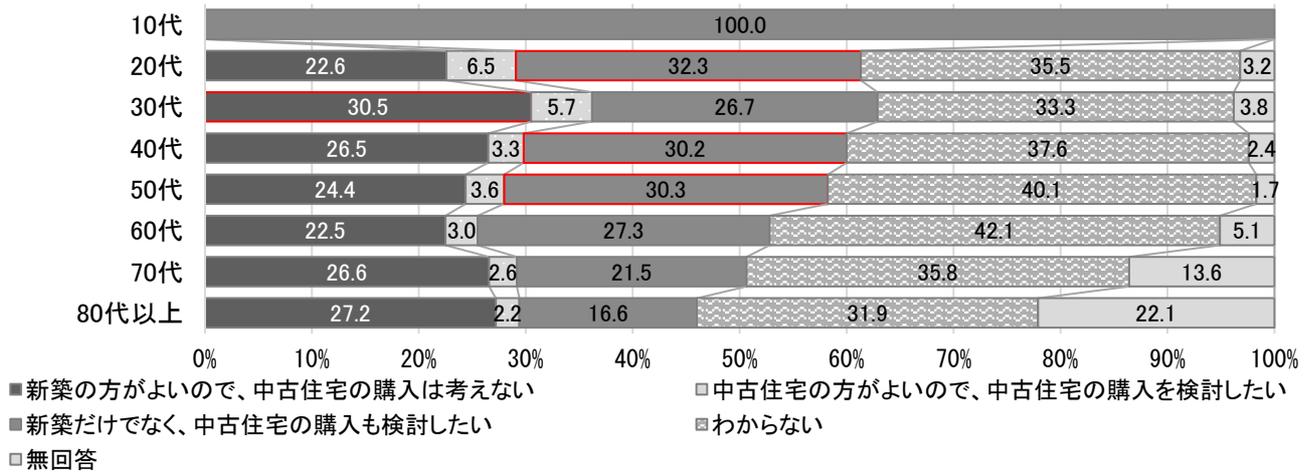
問21 平成30年度中古住宅の購入についてどう考えているか(1つ○) (N=4,110)



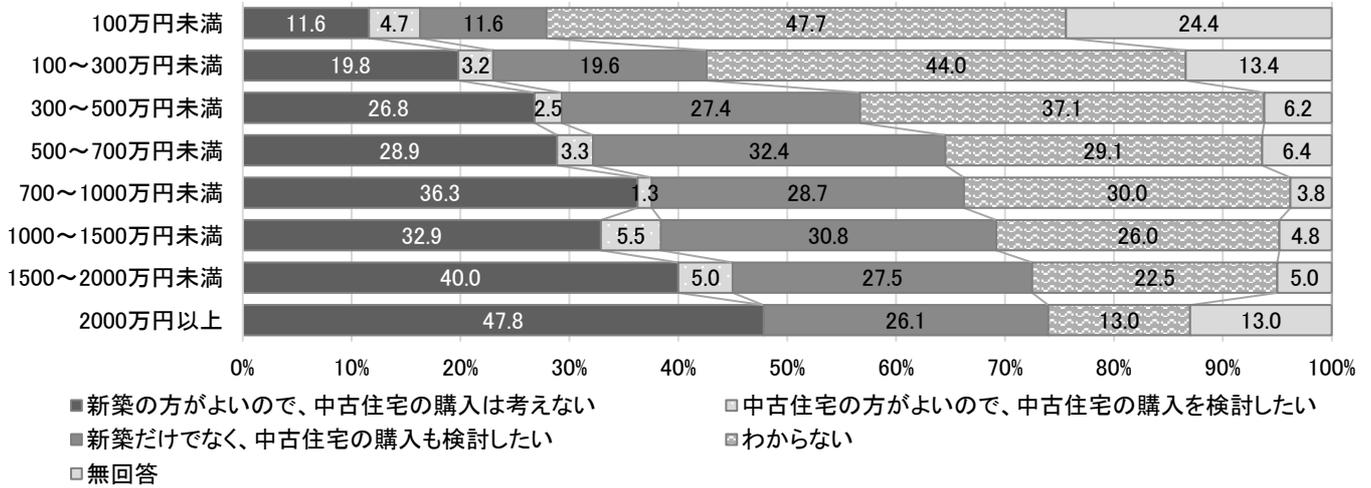
令和5年度 中古住宅の購入についてどう考えているか(1つ○) (N = 2,989)



年代別



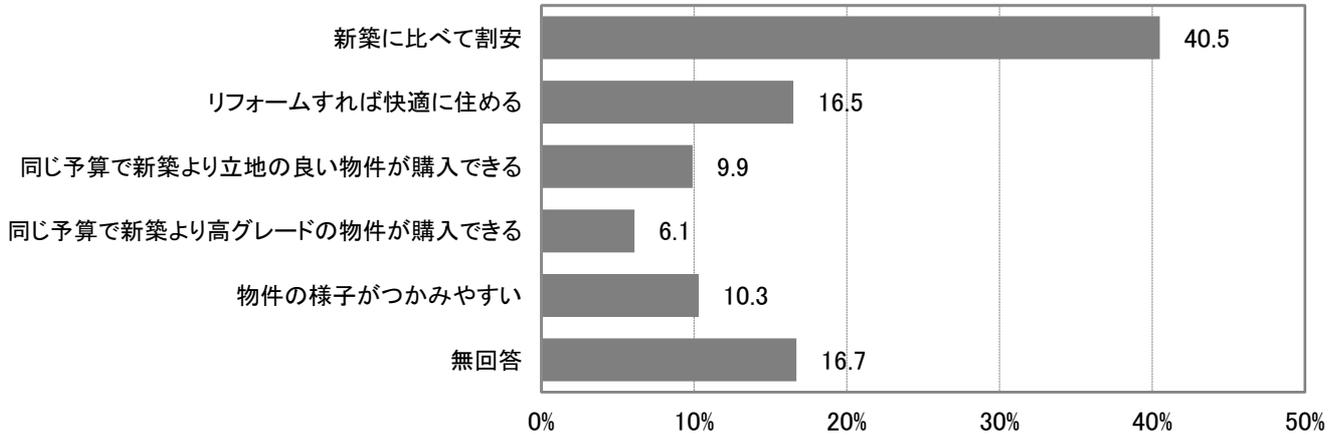
世帯年収別



問22 中古住宅のメリットは何だと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

中古住宅のメリットは、「新築に比べて割安」が 40.5%と最も高く、次いで「リフォームすれば快適に住める」が 16.5%、「物件の様子が見やすい」が 10.3%となっている。

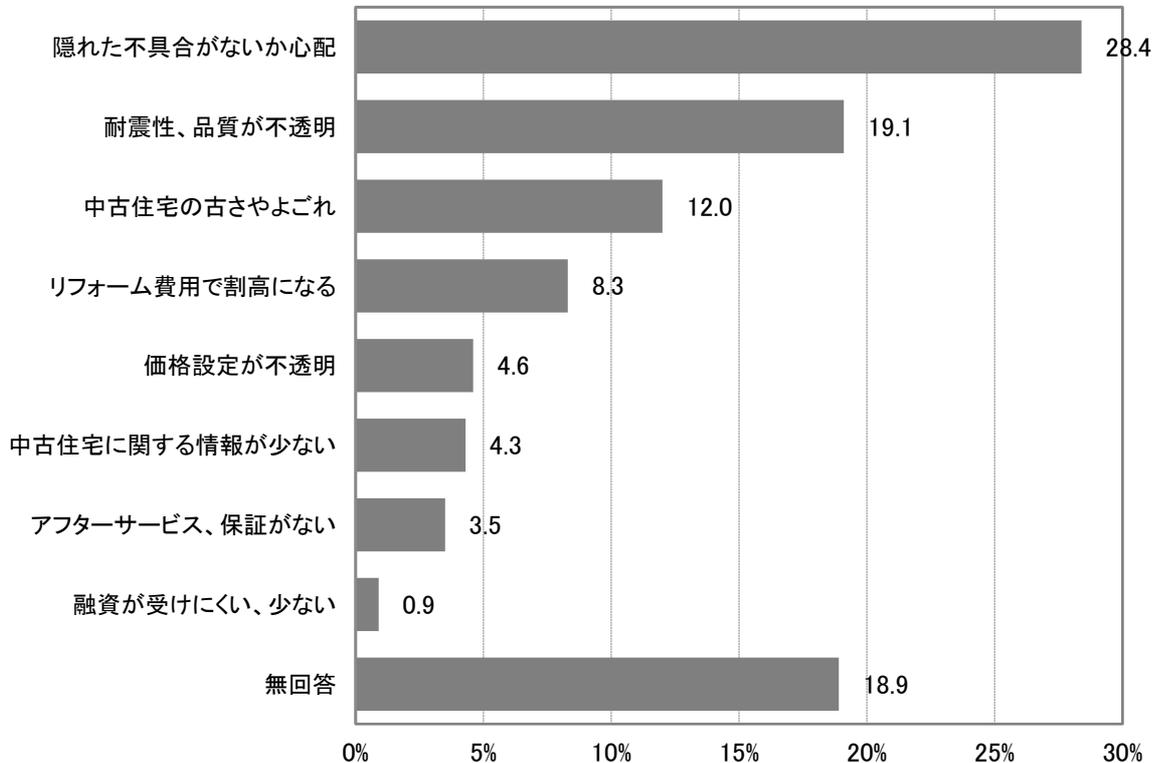
問22 中古住宅のメリット (N = 2,989)



問23 中古住宅について不安又は不満に思う点は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

中古住宅の不安や不満は、「隠れた不具合がないか心配」が 28.4%と最も高く、次いで、「耐震性、品質が不透明」が 19.1%、「中古住宅の古さやよごれ」が 12.0%となっている。

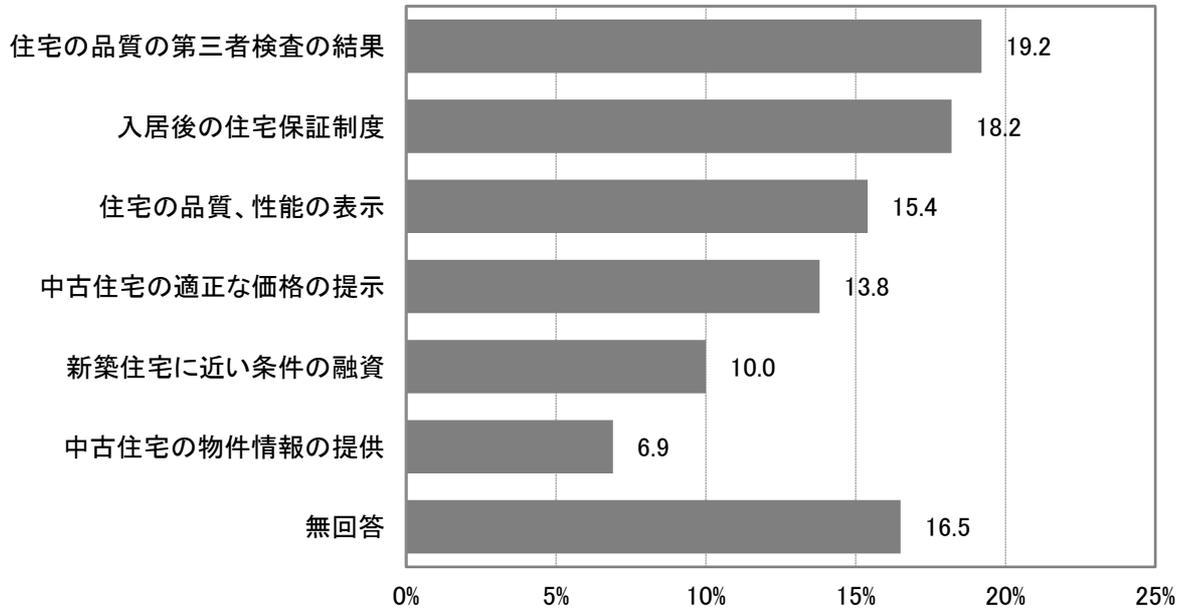
問23 中古住宅について不安又は不満に思う点(1つ○) (N = 2989)



問24 中古住宅を購入すると仮定して、あると良いと思うものは何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

中古住宅の購入にあると良いものは、「住宅の品質の第三者検査の結果」が19.2%と最も高く、次いで「入居後の住宅保証制度」が18.2%、「住宅の品質、性能の表示」が15.4%となっている。

問24 中古住宅を購入すると仮定して、あると良いと思うもの(1つ○) (N = 2989)



VII、住宅の耐震診断・耐震改修について

～住宅の耐震診断・耐震改修について～(問 25～問 35)

住宅の耐震性には、約7割が不安を持っていると回答し、耐震診断は、約6割が「診断費用が無料なら受けてもよい」と回答している。

耐震性に問題があった場合は、「建て替えや耐震改修を検討する」は約4割ではあるが、「建て替えも耐震改修も検討しない」は約2割となっている。建て替えも耐震改修も検討しない理由としては、「資金がないから」「後継者がいないから」が高くなっている。

耐震改修工事の可能な自己負担額は、「出来ない。(したくない。)」が約3割と最も高く、次いで、「100万円以下」が約2割と高くなっており、耐震改修工事を行う際に、一緒に工事を行うとしたらどのような改修工事をしたかについては、「耐震改修のみ行う」が約3割と最も高くなっている。

国や鳥取県の耐震改修への助成制度の認知度について、「知らない」が約7割となっており、どのように知ったかについては、「新聞又は県・市町村の広報誌」が約7割となっている。

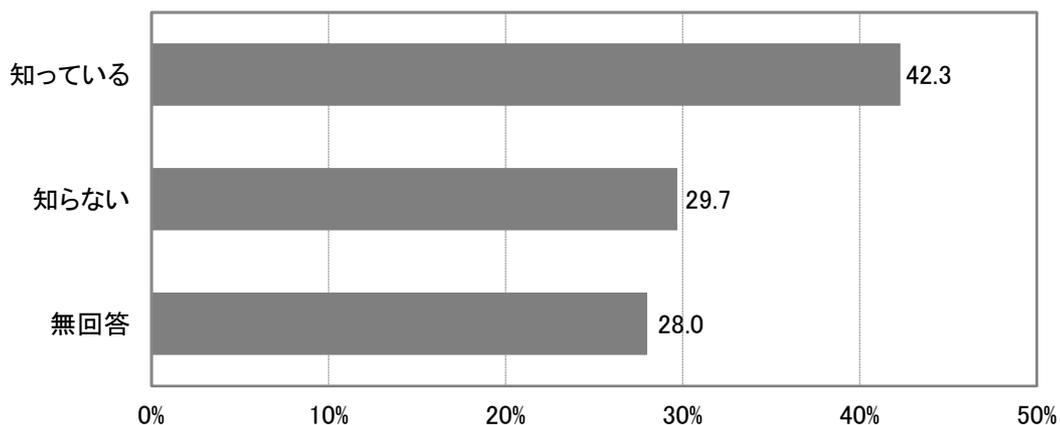
「低コスト耐震改修工法」の認知度については、「知らない」が約9割となっている。

行政職員や建築士の説明を聞いてみたいかについては、「希望する」が10.1%、「知人や信頼できる人などであれば希望する」が17.3%、「その他条件により希望する」と併せて約3割が「希望する」となっている。

問25 平成12年以前に建てられた木造戸建住宅は、建築基準法の現行の耐震基準を満たしておらず、地震により倒壊する危険性等があることをご存じですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

平成12年以前に建てられた木造戸建住宅の地震による危険性は、「知っている」が42.3%となっており、「知らない」は29.7%となっている。

問25 建築基準法の現行の耐震基準を満たしておらず、地震により倒壊する危険性等があることを知っているか (N = 2,989)



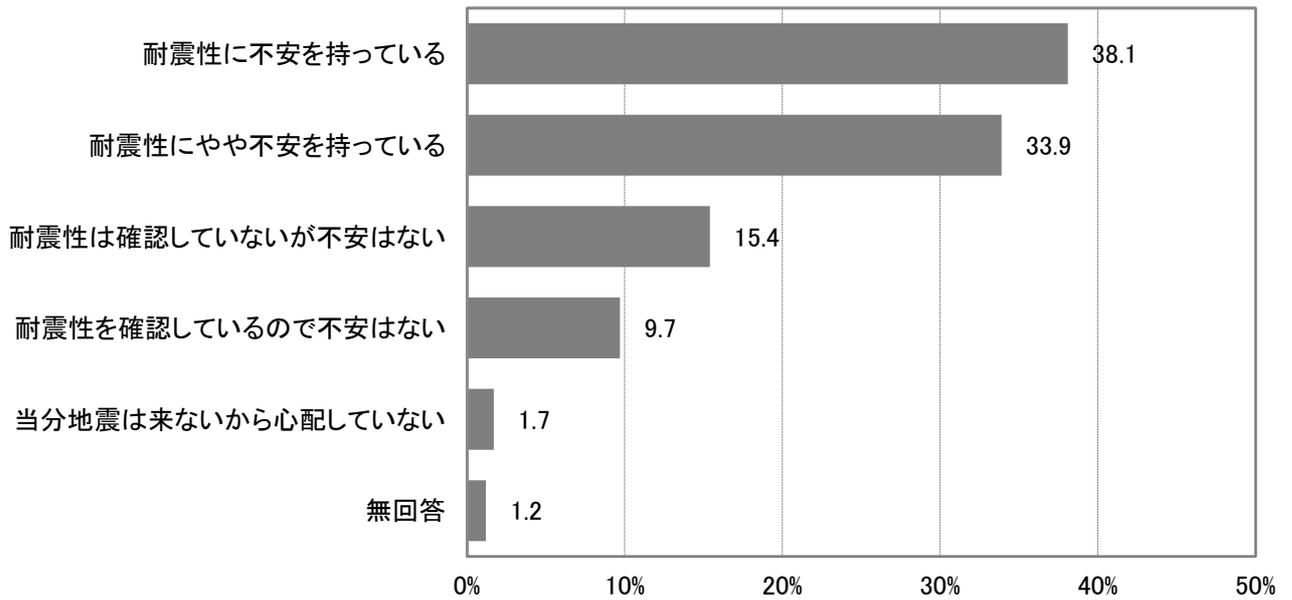
平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者のみ

問26 現在お住まいの住宅の耐震性について不安をお持ちですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

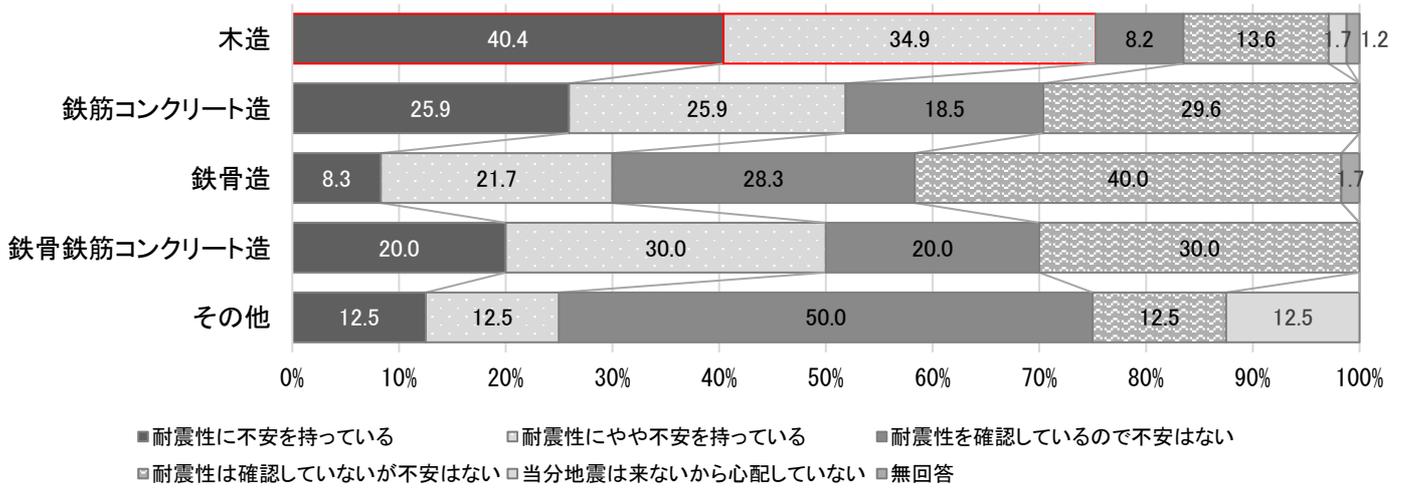
住宅の耐震性について不安は、「耐震性に不安を持っている」が38.1%と最も高く、次いで「耐震性にやや不安を持っている」が33.9%となっており、耐震性への不安(上記2項目の合計)が72.0%となっている。

住宅構造別で見ると、耐震性への不安は木造が最も高く、住宅築年数別で見ると、築年数が古いほど耐震性への不安が高くなる傾向がみられた。

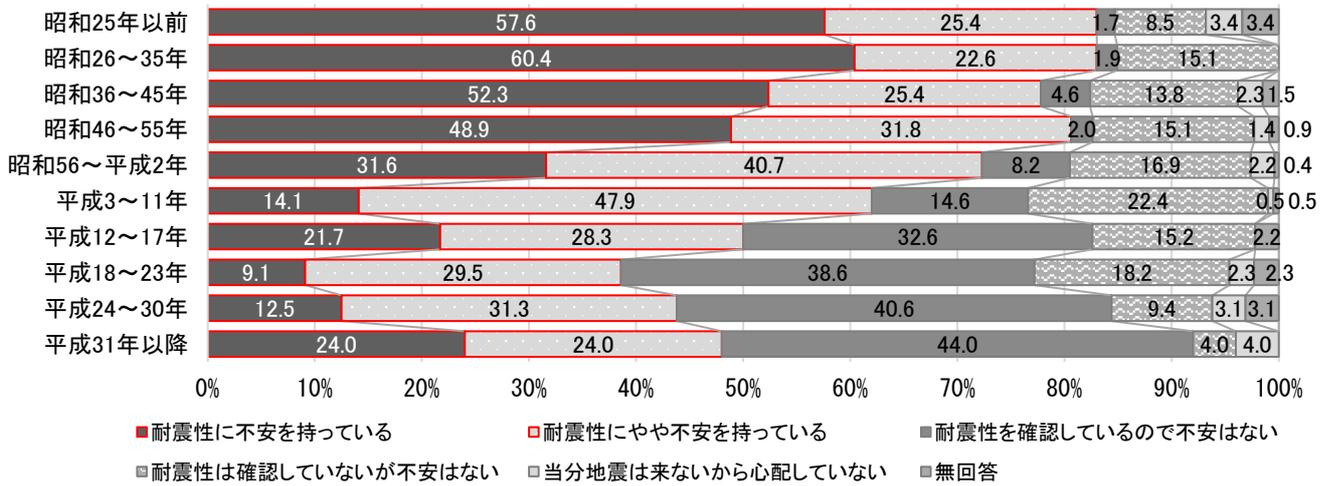
問26 現在住んでいる住宅の耐震性への不安(1つ○) N = 1264



住宅構造別



住宅築年数別

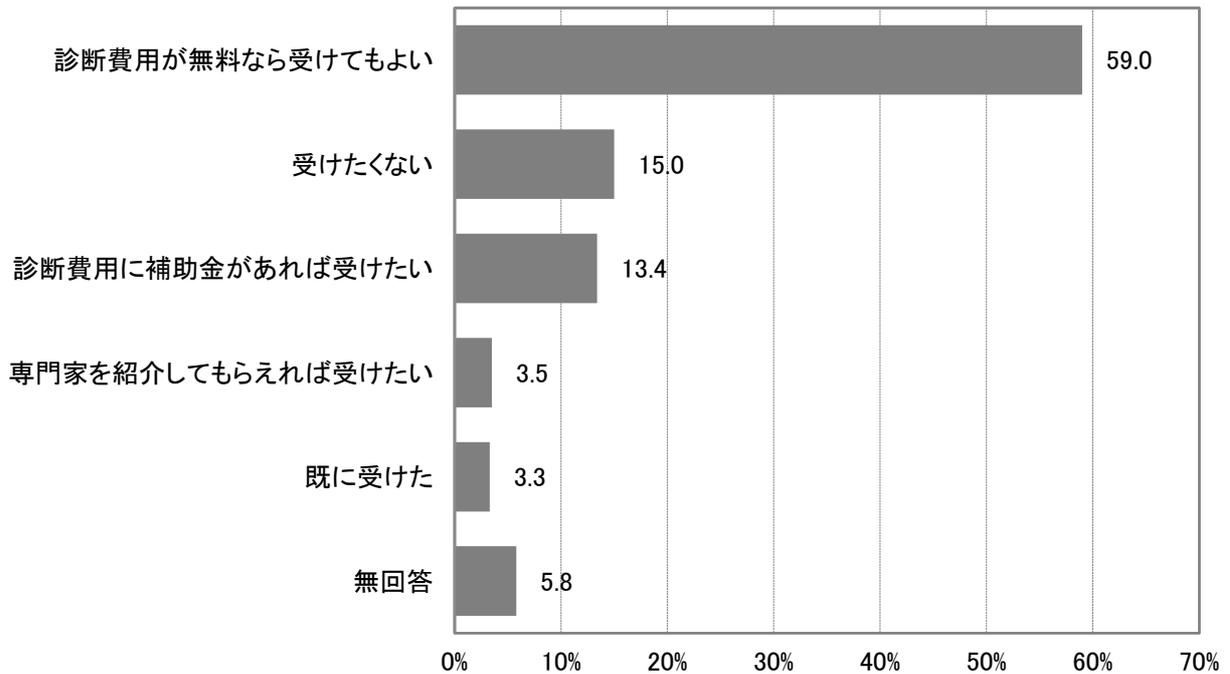


平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者で、問24で「1. 耐震性に不安を持っている」又は「2. 耐震性にやや不安を持っている」に○をされた方のみ

問27 耐震診断を受けてみたいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください

耐震診断は、「診断費用が無料なら受けてもよい」が 59.0%と最も高く、次いで「受けたくない」が 15.0%、「診断費用に補助金があれば受けたい」が 13.4%となっている。

問27 耐震診断を受けてみたいか(1つ○) (N = 909)

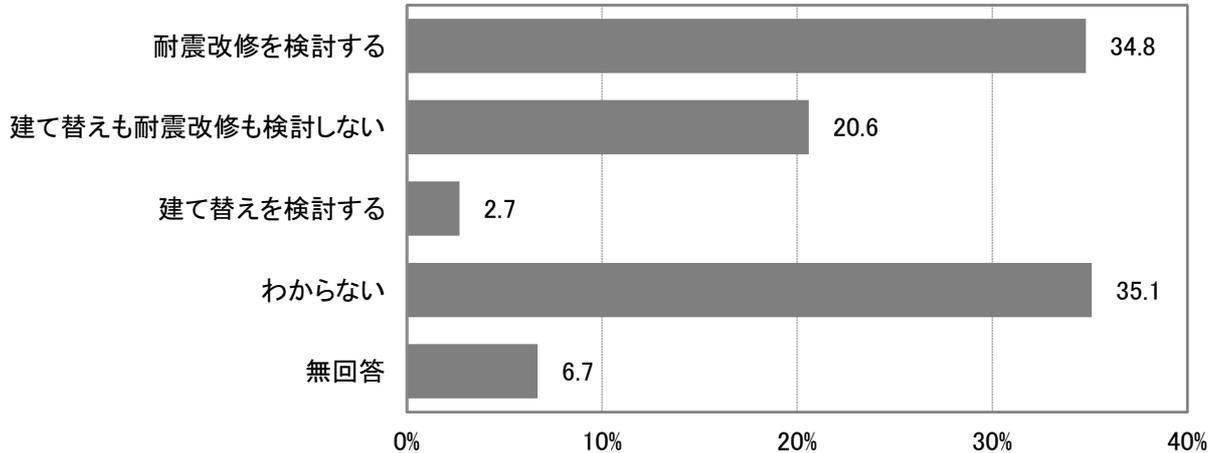


平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者のみ

問28 耐震診断の結果、耐震性に問題があった場合、耐震改修を検討されますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

耐震性に問題があった場合、耐震改修を検討するかについては、「耐震改修を検討する」が34.8%と最も高く、次いで「建て替えも耐震改修も検討しない」が20.6%となっている。また、「建て替えを検討する」は2.7%となっている。

問28 耐震診断の結果、耐震性に問題があった場合、耐震改修を検討するか(1つ○) (N = 1264)

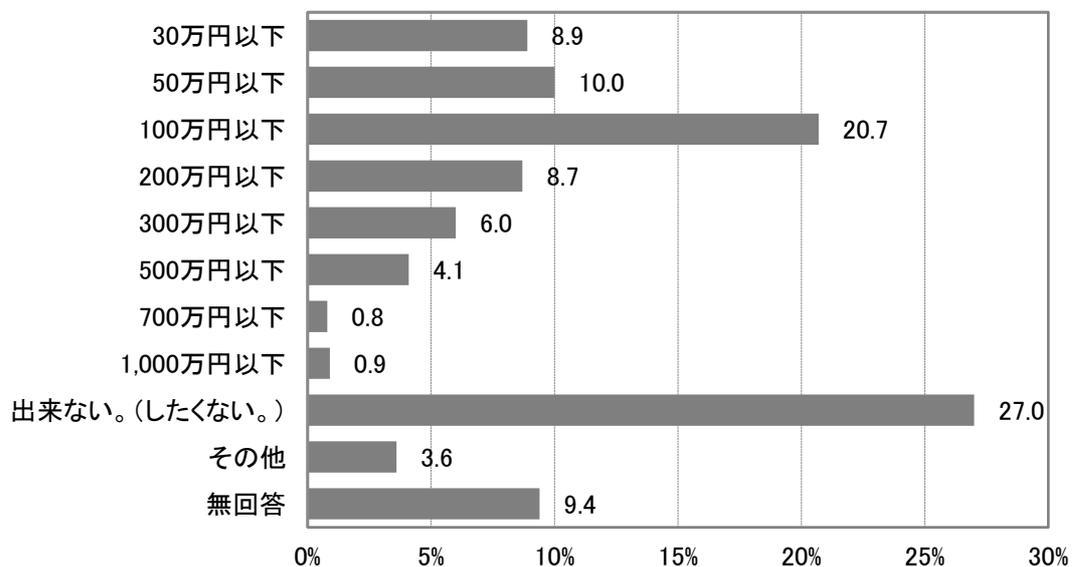


平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者のみ

問29 耐震改修工事費の自己負担がいくらぐらいなら、工事を実施しても良いと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

耐震改修工事費の自己負担がいくらぐらいなら工事を実施しても良いかについては、「出来ない。(したくない。)」が27.0%と最も高く、次いで、「100万円以下」が20.7%となっている。

問29 耐震改修工事費の自己負担がいくらぐらいなら、工事を実施しても良いと思うか(N = 1,264)

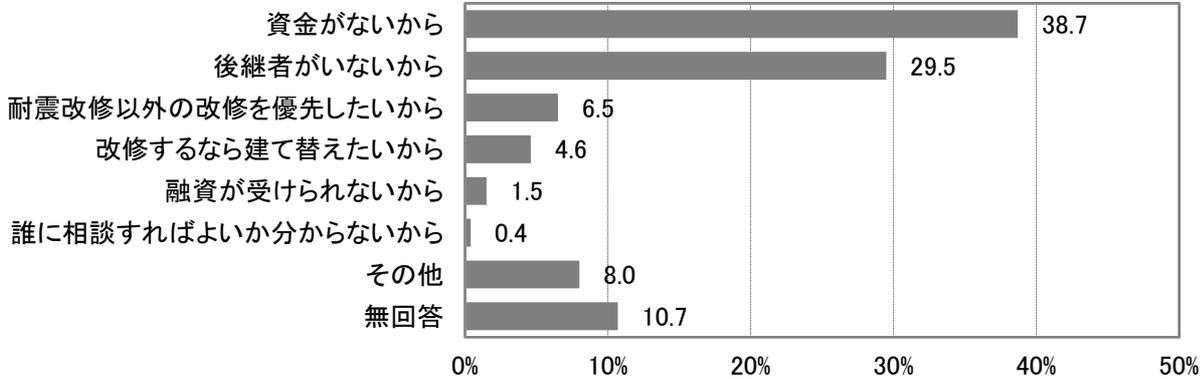


平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者で、問28で「3. 建替えも耐震改修も検討しない」に○をされた方のみ

問30 その理由は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

理由は、「資金がないから」が38.7%と最も高く、次いで「後継者がいないから」が29.5%となっている。

問30 建替えも耐震改修も検討しない理由(1つ○) (N = 261)

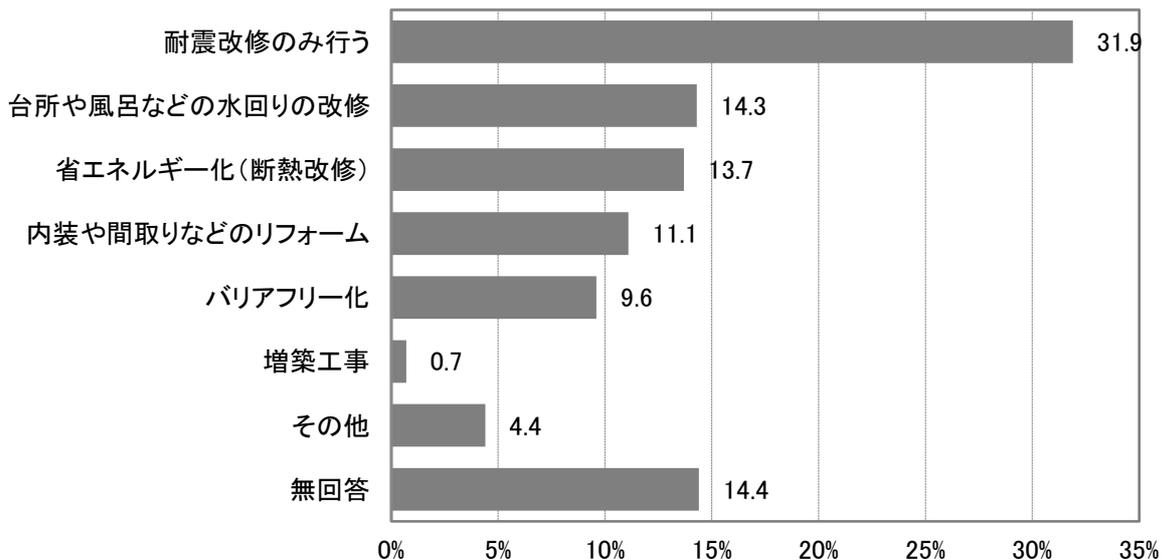


平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者のみ

問31 耐震改修工事を行う際、一緒に工事を行うとしたらどのような改修工事をしたいと考えますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

改修工事は、「耐震改修のみ行う」が31.7%と最も高く、次いで「台所や風呂などの水回りの改修」が14.3%、「省エネルギー化(断熱改修)」が13.7%となっている。

問31 耐震改修工事を行う際、一緒に工事を行うとしたらどのような改修工事をしたいか(1つ○) (N = 1264)



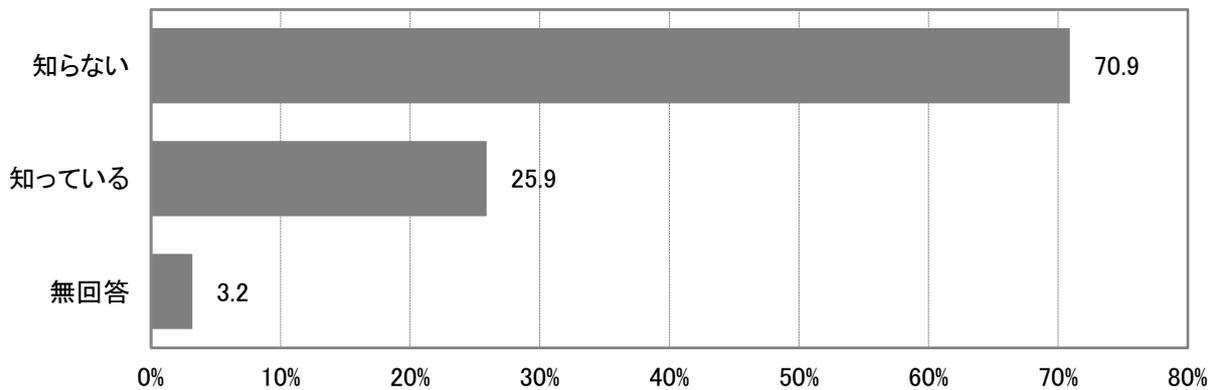
平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者のみ

問32 国や鳥取県には耐震改修を行う方への助成制度がありますが、助成制度の存在をご存知ですか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

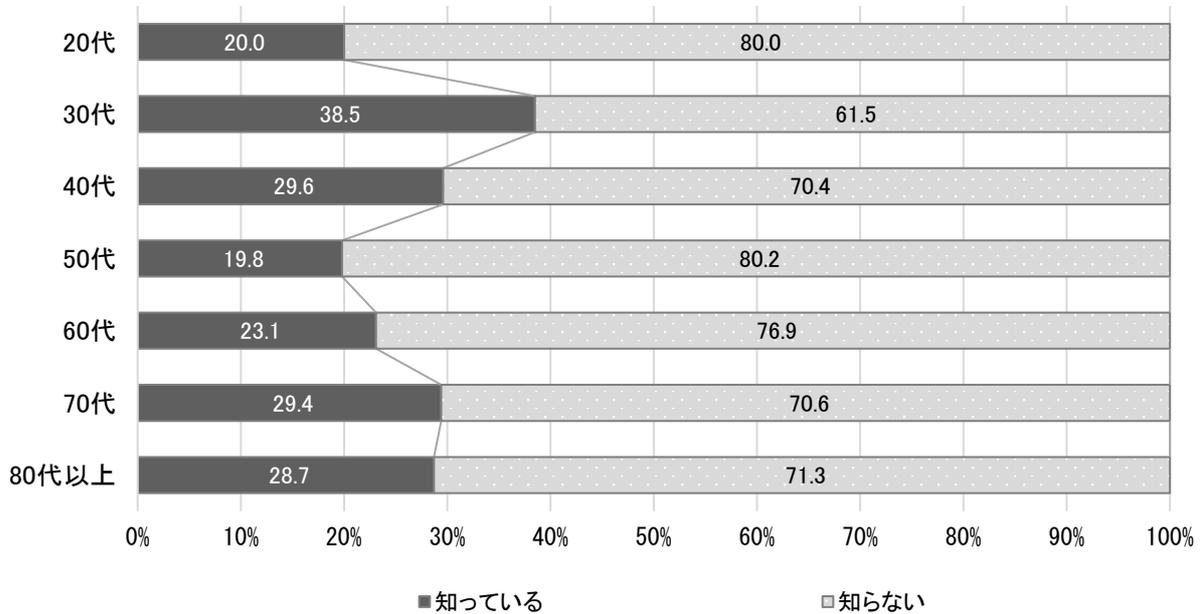
国や鳥取県の耐震改修への助成制度の認知度は、「知らない」が70.9%であり、「知っている」が25.9%となっている。

年代別で見ると、「知っている」は30歳代が高く、「知らない」は20歳代、50歳代が高くなる傾向がみられた。

問32 国や鳥取県には耐震改修を行う方への助成制度があるが、助成制度の存在を知っているか
(1つ○)N=1264



年代別

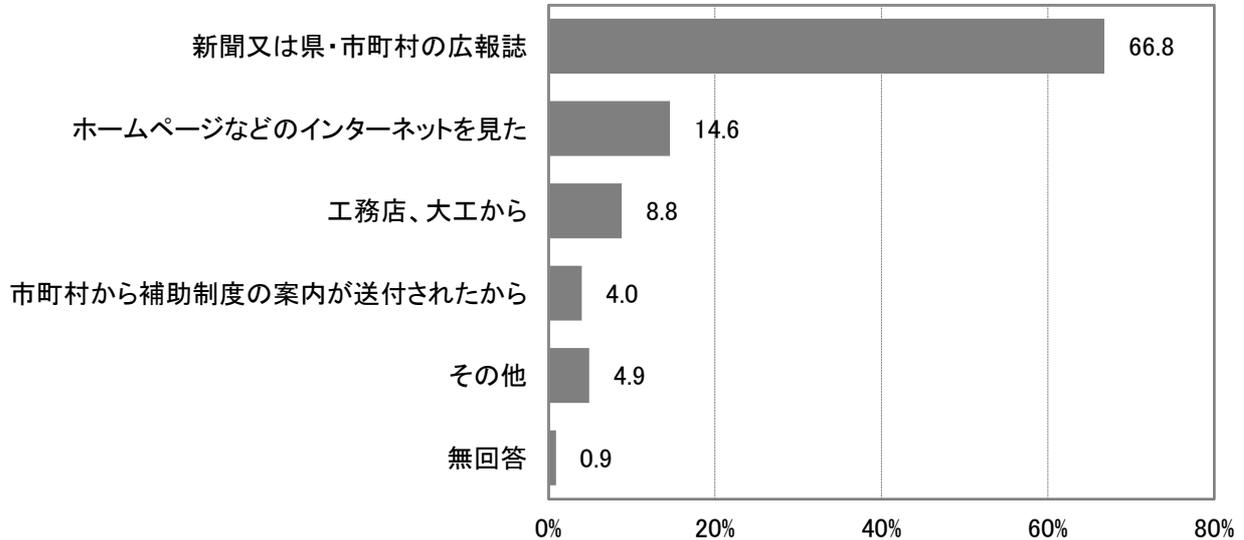


平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者で、問32で「1. 知っている」に○をされた方のみ

問33 助成制度は、どのように知りましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

助成制度をどのように知ったかについては、「新聞又は県・市町村の広報誌」が66.8%と最も高く、次いで「ホームページなどのインターネットを見た」が14.6%となっている。

問33 助成制度をどのように知ったか(1つ○) N = 328

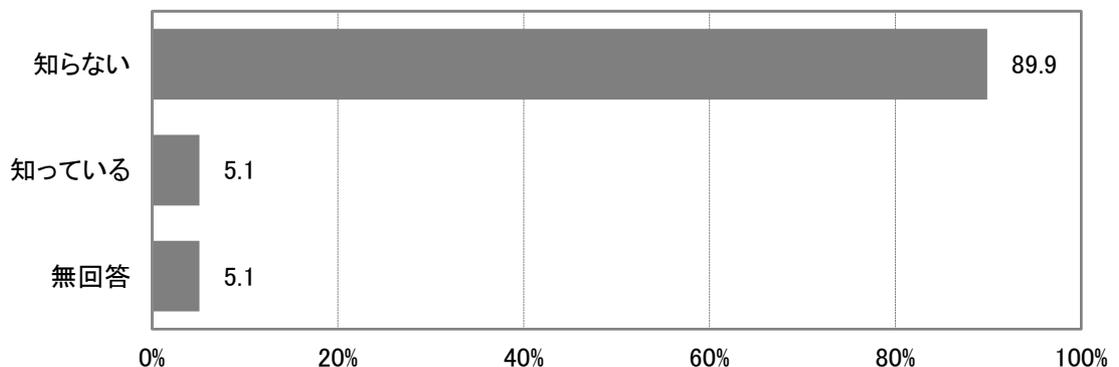


平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者のみ

問34 一般的な改修工法と比べて安価(30%~60%縮減)で、数週間の短い期間で住みながら耐震改修できる「低コスト耐震改修工法」をご存じですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

低コスト耐震改修工法の認知度は、「知らない」が89.9%となっている。また、「知っている」は5.1%となっている。

問34 「低コスト耐震改修工法」を知っているか(1つ○) N = 1264

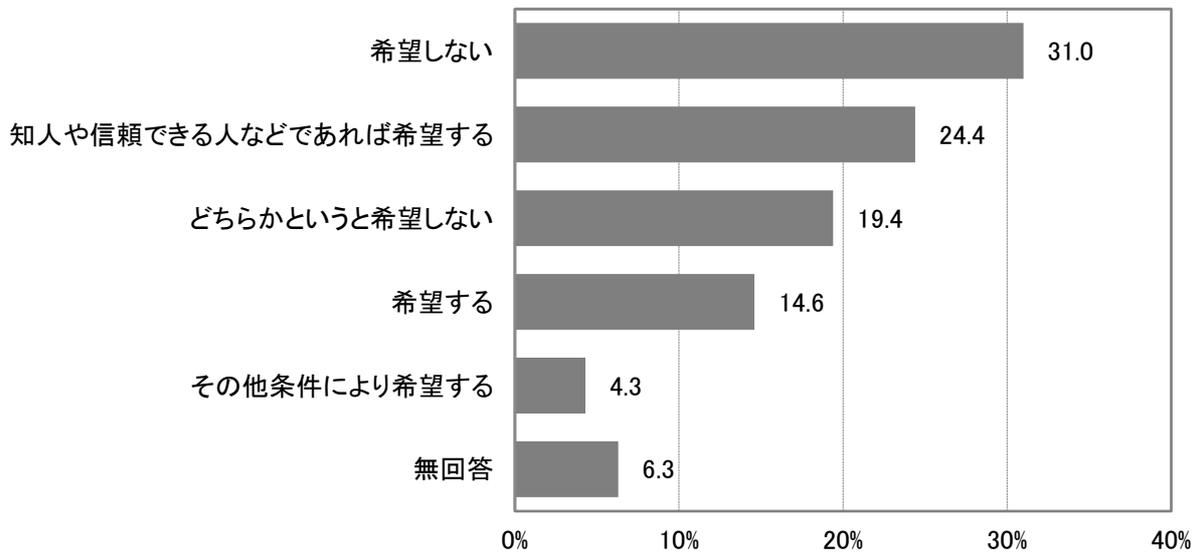


平成12年以前に建てられた一戸建て住宅を所有の回答者のみ

問35 行政職員や建築士が戸別訪問の上、耐震診断、耐震改修及び助成制度について説明をしてくれる機会があれば話を聞いてみたいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

行政職員や建築士の説明を聞いてみたいかについては、「希望しない」が31.0%となっており、次いで「知人や信頼できる人などであれば希望する」が24.4%、「どちらかという希望しない」が19.4%となっている。

問35 行政職員や建築士が戸別訪問の上、耐震診断、耐震改修及び助成制度について説明をしてくれる機会があれば話を聞きたいか(1つ○)N = 2989



VIII 住宅の新築について

～住宅の新築について～(問 36～問 45)

住宅を新築にする場合、「木造住宅(地元工務店の在来軸組工法)」が約5割と半数となっており、地元志向が高い傾向がみられた。

施工業者の選定にあたり重視する点については、「施工の質・技術の高さ」「企業の実績、信頼性」がそれぞれ約3割となっている。

住宅の新築に重視する点は、「夏涼しく冬暖かい断熱性能や気密性能の高さ」が約5割と高く、若年層では「外観・内観のデザインのよさ」「長寿命、耐久性の高さ」を重視し、高齢層では、「地震や風に対する強さ」「誰もが使いやすいようにバリアフリーに配慮されているもの」を重視する傾向がみられる。

新築するにあたって困る事は、「施工不良がないか、適切に工事がされているか不安」「どの業者に設計又は工事を依頼したらよいかわからない」「完成後に欠陥が見つかったときに適正な保証が受けられるか不安」が高くなっている。

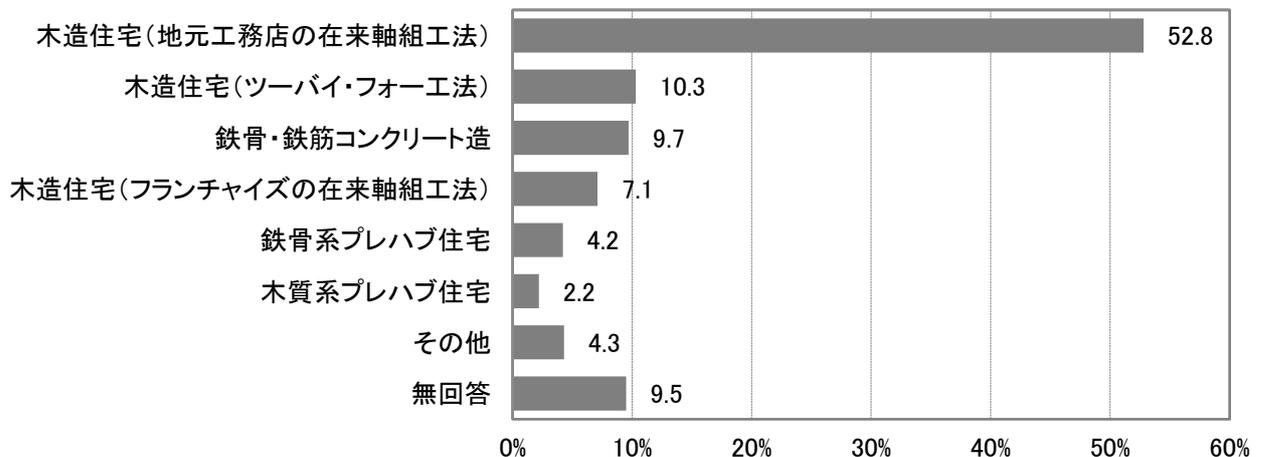
とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)の認知度は、「知らない」が約8割、「名前はきいたことがある」が約1割、「内容まで知っている」が1.8%と1割以下となっており、助成制度(最大100万円)の認知度は、「知らない」が約9割、「知っている」が1割以下となっている。また、とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)を建てたいかについては、「特に思わない」が約5割、「建てたいと思う」が約4割となっており、建てたいと思う理由は、「補助金があるから」が約6割、建てたいと思わない理由は、「どの程度快適に暮らせるかわからないから」が約6割となっている。

鳥取県産の木材の使用は、「補助金があるなら県産材を使用したい」が 32.0%と最も高く、次いで「費用的に他県や外国の木材と変わらないなら県産材を使用したい」が 24.5%、「是非使用したい」が 19.4%となっていることから、補助金等により費用の面が軽減されれば、7割以上が県産材を使用したいという傾向がみられた。

問36 どのような住宅(工法)が良いですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

新築の場合、どのような工法が良いかはについては、「木造住宅(地元工務店の在来軸組工法)」が 52.3%と最も高く、次いで「木造住宅(ツーバイ・フォー工法)」が 9.7%となっている。

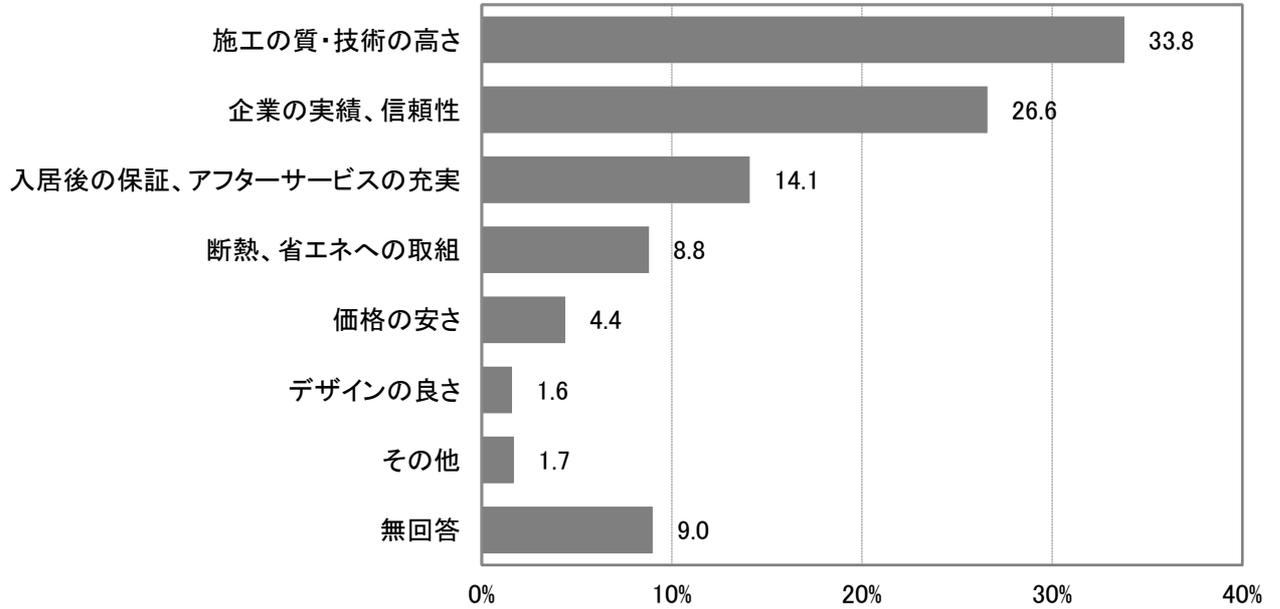
問36 どのような住宅(工法)が良いか(1つ○) N = 2989



問37 施工業者の選定にあたり、何を重視されますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

施工業者の選定にあたり重視する点は、「施工の質・技術の高さ」が 33.8%と最も高く、次いで「企業の実績、信頼性」が 26.6%、「入居後の保証、アフターサービスの充実」が 14.1%となっている。

問37 施工業者の選定にあたり、何を重視するか(1つ○) (N = 2989)

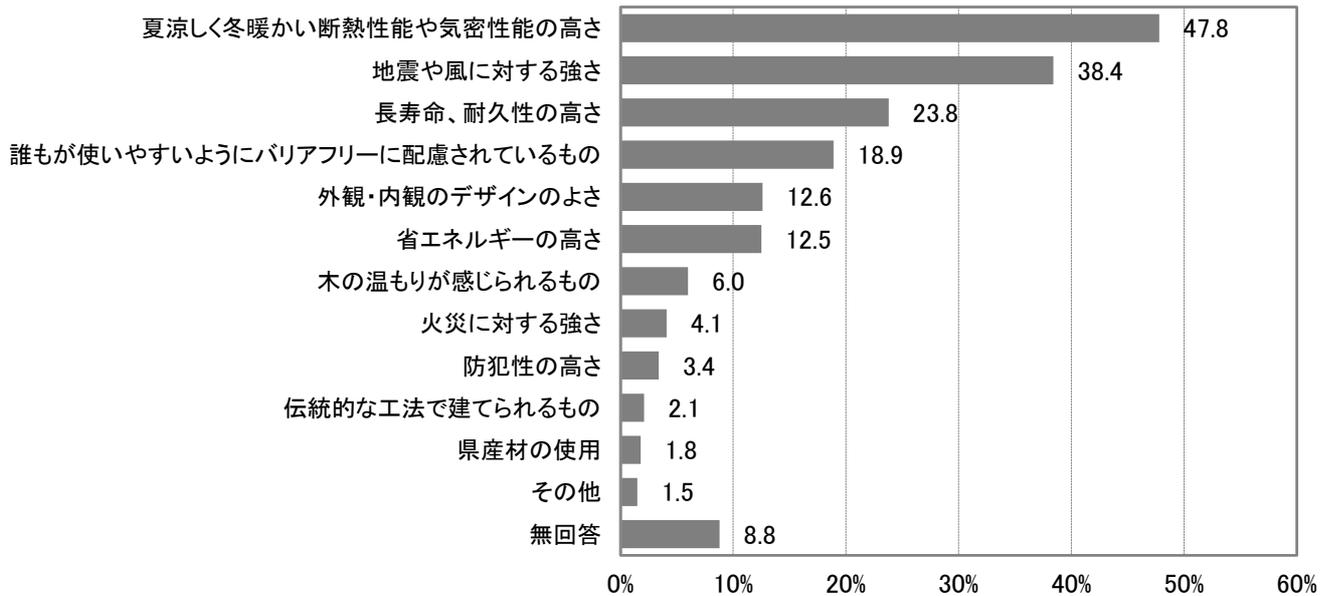


問38 住宅の新築にあたり、何を重視されますか。あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

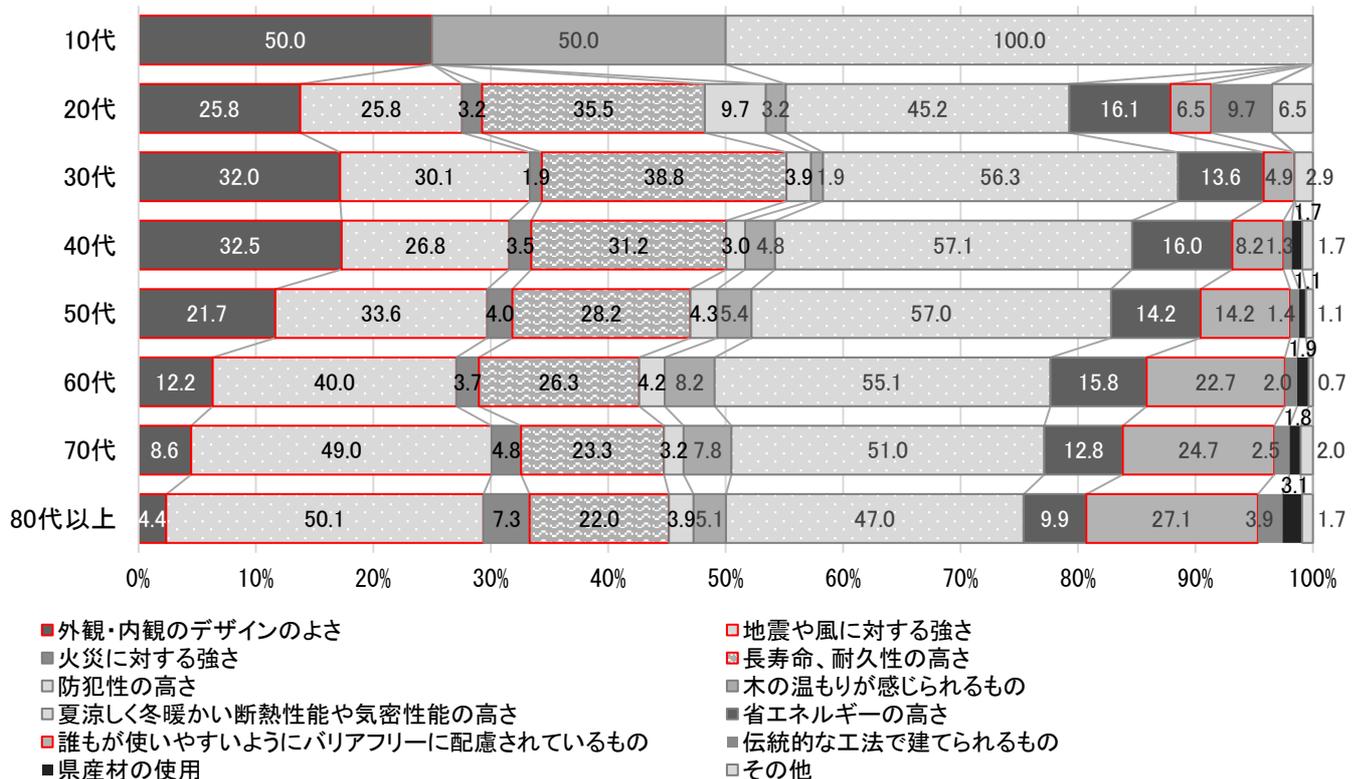
新築で重視することは、「夏涼しく冬暖かい断熱性能や気密性能の高さ」が47.8%と最も高く、次いで「地震や風に対する強さ」が38.4%、「長寿命、耐久性の高さ」が23.8%となっている。

年代別で見ると、若い世代では「外観・内観のデザインのよさ」、「長寿命、耐久性の高さ」が高く、年齢が大きくなるほど「地震や風に対する強さ」、「誰もが使いやすいようにバリアフリーに配慮されているもの」が高くなる傾向がみられた。

問38 住宅の新築にあたり、何を重視するか(2つまで○) (N = 2989)



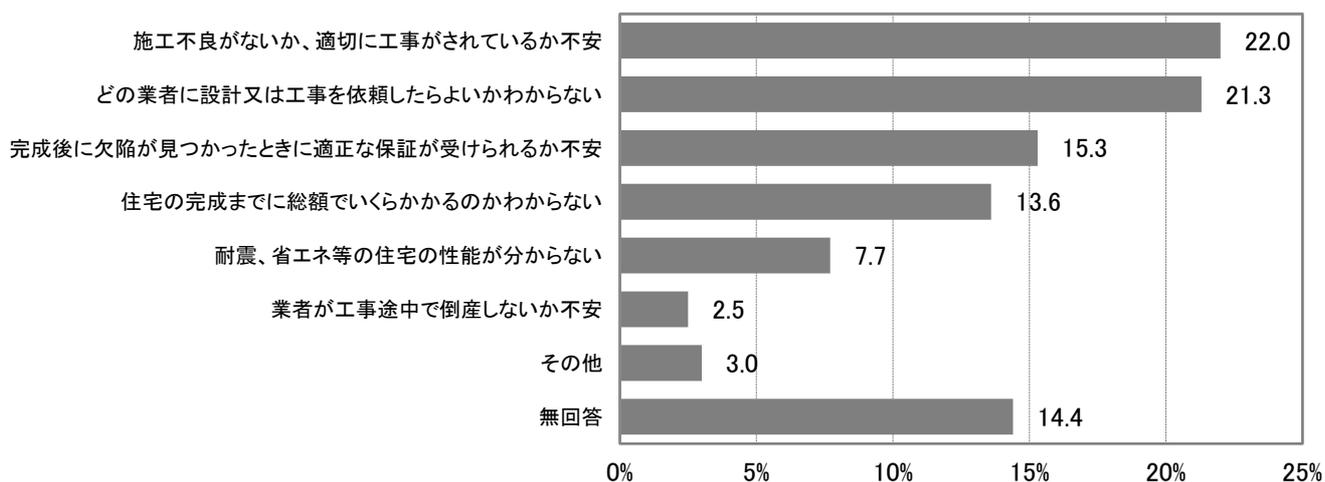
年代別



問39 住宅の新築にあたり、困ること、不安に思うことは何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

新築にあたって困る事、不安に思うことは、「施工不良がないか、適切に工事がされているか不安」が 22.0%と最も高く、次いで「どの業者に設計又は工事を依頼したらよいかわからない」が 21.3%、「完成後に欠陥が見つかったときに適正な保証が受けられるか不安」が 15.3%となっていることから、品質や保証に関する不安が高い傾向がみられた。

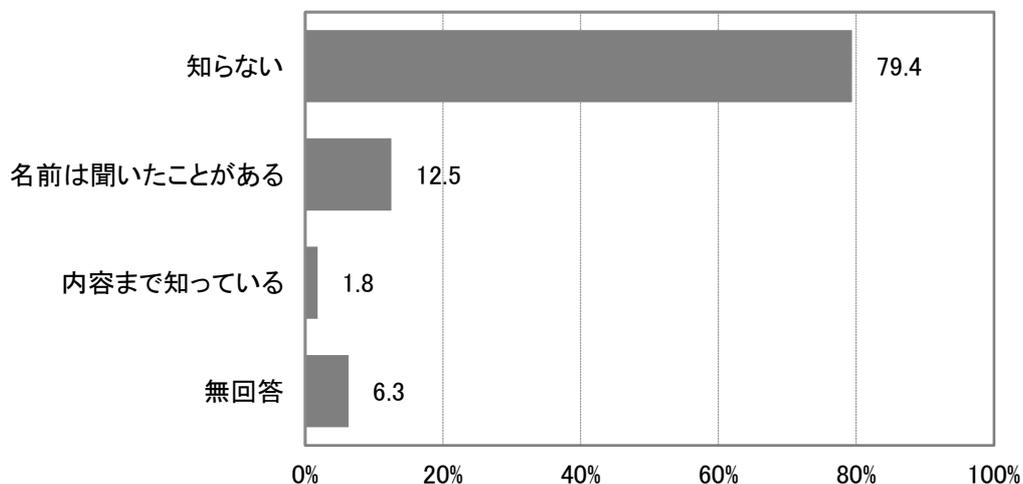
問39 住宅の新築にあたり、困ること、不安に思うこと(1つ○) N = 2989



問40 国の住宅省エネ基準を上回る県独自の基準を満たす住宅であるとして健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)をご存じですか。あてはまるものに1つに○をつけてください。

とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)の認知度は、「知らない」が 79.4%と最も高く、「名前は聞いたことがある」が 12.5%、「内容まで知っている」が 1.8%と1割以下となっている。

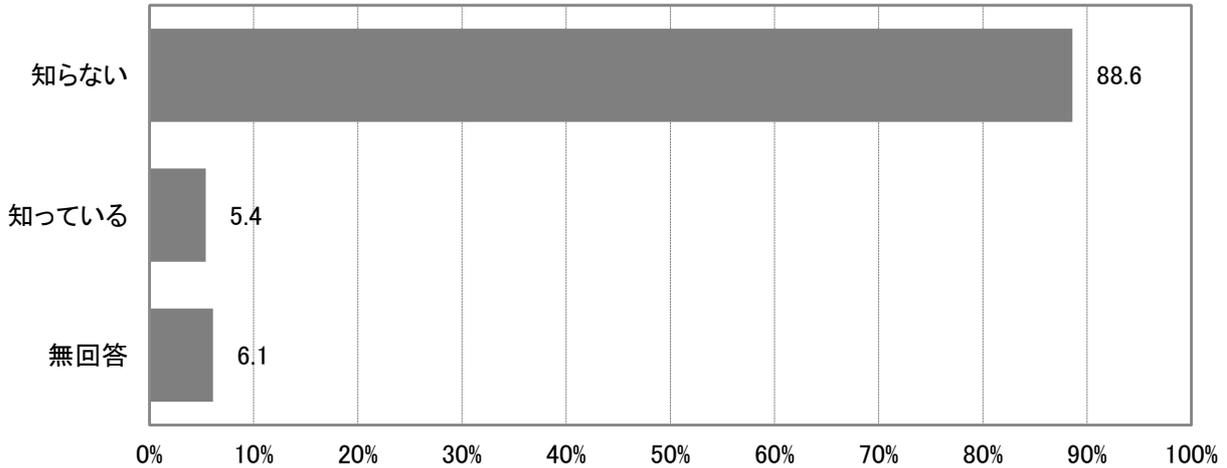
問40 とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)を知っているか(1つ○) (N = 2989)



問41 鳥取県にはとっとり健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)を新築する方への助成制度(最大 100 万円)があります。助成制度の存在をご存知ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

『NE-ST』(ネスト)の助成制度(最大 100 万円)の認知度は、「知らない」が 88.6%となっており、「知っている」が 5.4%と1割以下となっている。

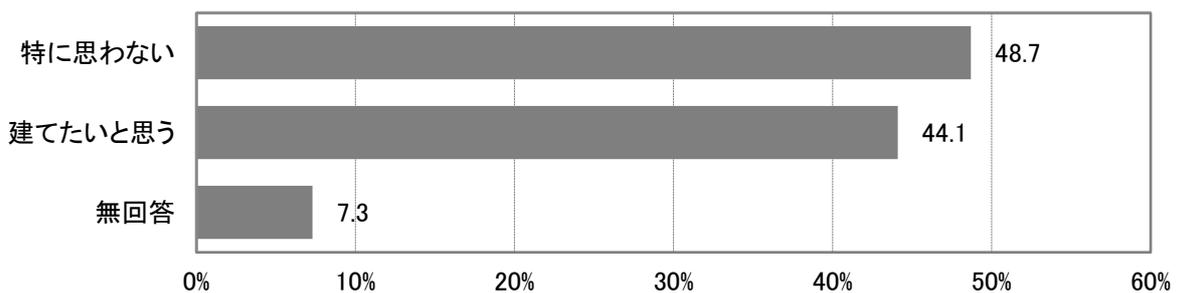
問41 とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)を建築する助成制度を知っているか
N = 2989



問42 家を作るのであれば、とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)を建てたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)を建てたいと思うかについては、「特に思わない」が 48.7%、「建てたいと思う」が 44.7%であり、それぞれ約半数ずつとなっている。

問42 とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』(ネスト)を建てたいと思うか N = 2989

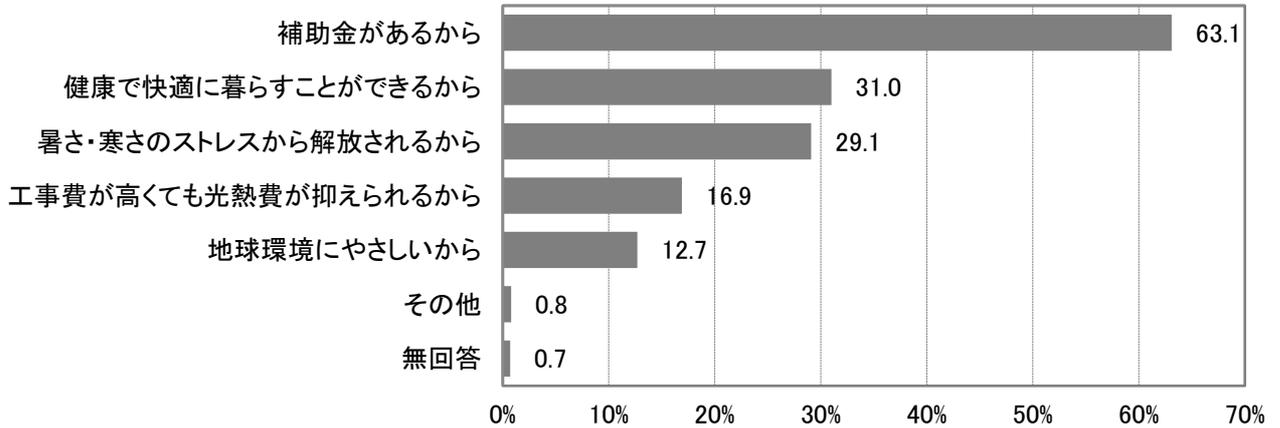


問42で「1. 建てたいと思う」に○をされた方のみ

問43 その理由は何ですか。あてはまるもの すべてに○をつけてください。

とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』（ネスト）を「建てたいと思う」理由は、「補助金があるから」が 63.1%と最も高く、次いで「健康で快適に暮らすことができるから」が 31.0%、「暑さ・寒さのストレスから解放されるから」が 29.1%となっている。

問43 建てたいと思う理由(複数に○) N = 1317

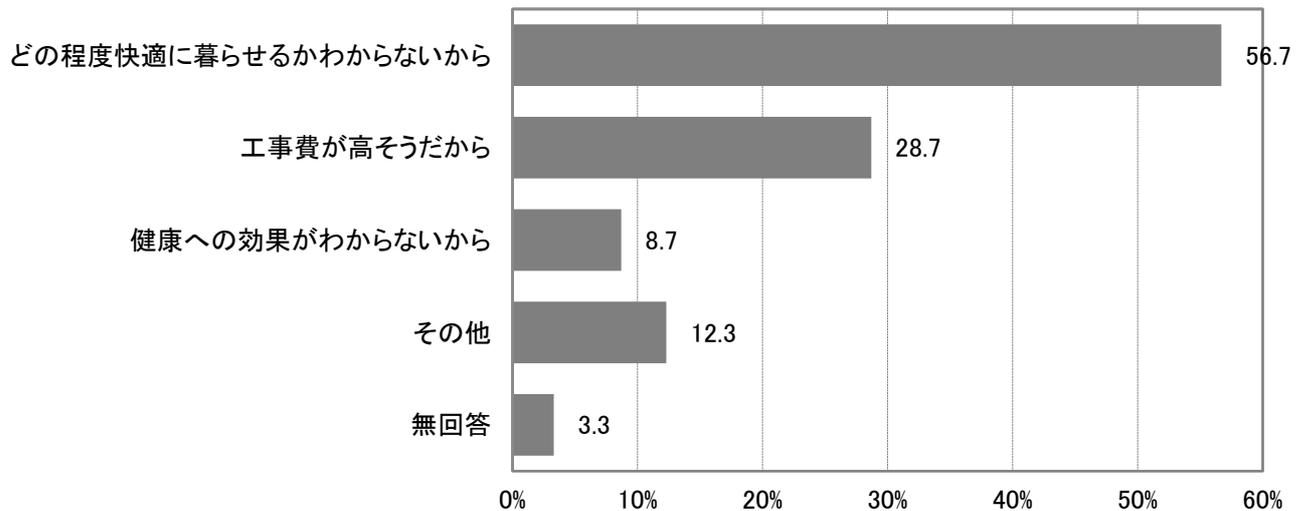


問42で「2. 特に思わない」に○をされた方のみ

問44 その理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

とっとり健康省エネ住宅『NE-ST』（ネスト）を建てたいと「特に思わない」理由は、「どの程度快適に暮らせるかわからないから」が 56.7%と最も高く、次いで「工事費が高そうだから」が 28.7%、「健康への効果がわからないから」が 8.7%となっている。

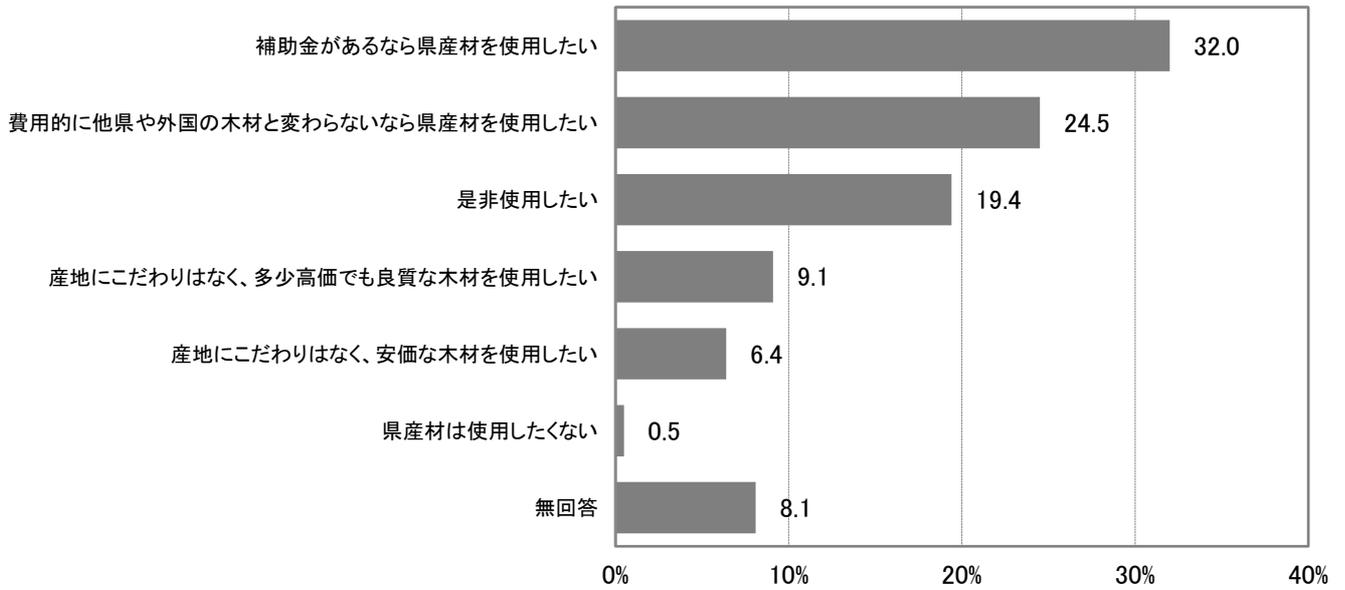
問44 特に思わない理由(複数に○)(N = 1,455)



問45 木造住宅を新築するとしたら、鳥取県産の木材の使用をお考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

木造住宅を新築するとしたら、鳥取県産の木材の使用を考えるかについては、「補助金があるなら県産材を使用したい」が32.0%と最も高く、次いで「費用的に他県や外国の木材と変わらないなら県産材を使用したい」が24.5%、「是非使用したい」が19.4%となっている。

問45 木造住宅を新築するとしたら、鳥取県産の木材を使用したいか(1つ○)N = 2,989



Ⅸ 住宅のリフォームについて

～住宅のリフォームについて～(問 46～問 54)

施工業者の選定に重視する点は、「施工の質・技術の高さ」「企業の実績、信頼性」が約3割と高くなっており、施工業者の技術力や実績を重視する傾向がみられた。

どのようなリフォームをしたいかについては、「夏涼しく冬暖かい断熱性能や気密性能の高さ」が約5割、「地震や風に対する強さ」が4割となっていることから、省エネ性能や耐震・耐風性能への意識が高くなる傾向がみられた。

また、リフォームをするにあたり、困ること、不安に思うことは、「リフォーム費用がいくらかかるのかわからない」「どの業者に設計又は工事を依頼したらよいかかわからない」「施工不良がないか、適切に工事がされているか不安」が高くなっていることから、業者の選択方法や品質に関する不安が高い傾向がみられた。

とっとり健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)の認知度は、「知らない」が約8割と高く、「内容まで知っている」「名前は聞いたことがある」は1割以下にとどまっており、『Re NE-ST』(リネスト)の助成制度(最大150万円)の認知度は、「知らない」が9割以上と高くなっている。

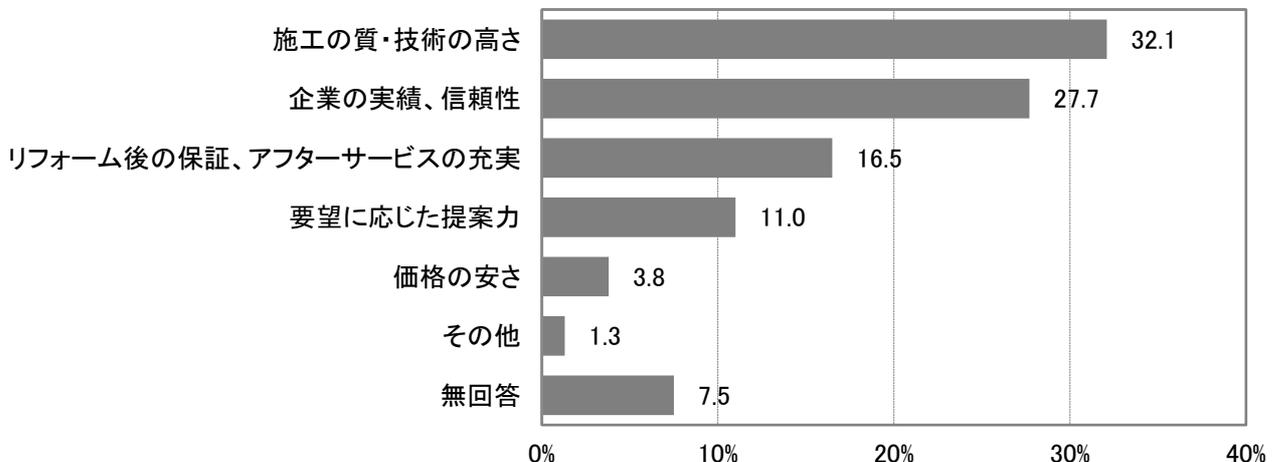
とっとり健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)にリフォームしたいかについては、「特に思わない」が約6割、「リフォームしたいと思う」が約3割となっており、リフォームしたい理由としては、「補助金があるから」が約7割となっている。一方、リフォームしたいと特に思わない理由としては、「どの程度快適に暮らせるかわからないから」が約5割となっていることから、補助金等の費用面に加え、快適性を重視する傾向がみられた。

リフォームするとしたら、鳥取県産の木材の使用を考えるかについては、「補助金があるなら県産材を使用したい」が32.3%と最も高く、次いで、「費用的に他県や外国の木材と変わらないなら県産材を使用したい」が25.6%、「是非使用したい」が17.8%となっていることから、新築と同様に、補助金等により費用の面が軽減されれば、7割以上が県産材を使用したいという回答が多い傾向がみられた。

問46 施工業者の選定にあたり、何を重視されますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

施工業者の選定に何を重視するかについて、「施工の質・技術の高さ」が32.1%と最も高く、次いで、「企業の実績、信頼性」が27.7%、「リフォーム後の保証、アフターサービスの充実」が16.5%となっている。

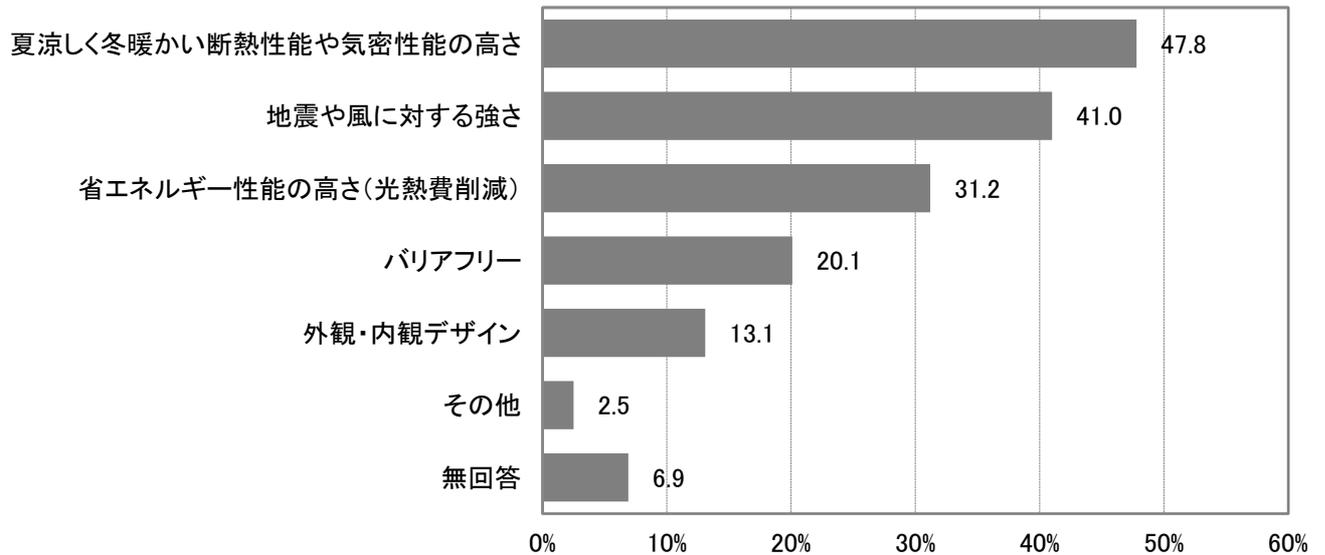
問46 施工業者の選定にあたり、何を重視するか(1つ○)N = 2989



問47 住宅のリフォームにあたり、どのようなリフォームをしたいと思いますか。あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

住宅のリフォームにあたり、どのようなリフォームにしたいかについては、「夏涼しく冬暖かい断熱性能や気密性能の高さ」が 47.8%と最も高く、次いで「地震や風に対する強さ」が 41.0%、「省エネルギー性能の高さ(光熱費削減)」が 31.2%となっている。

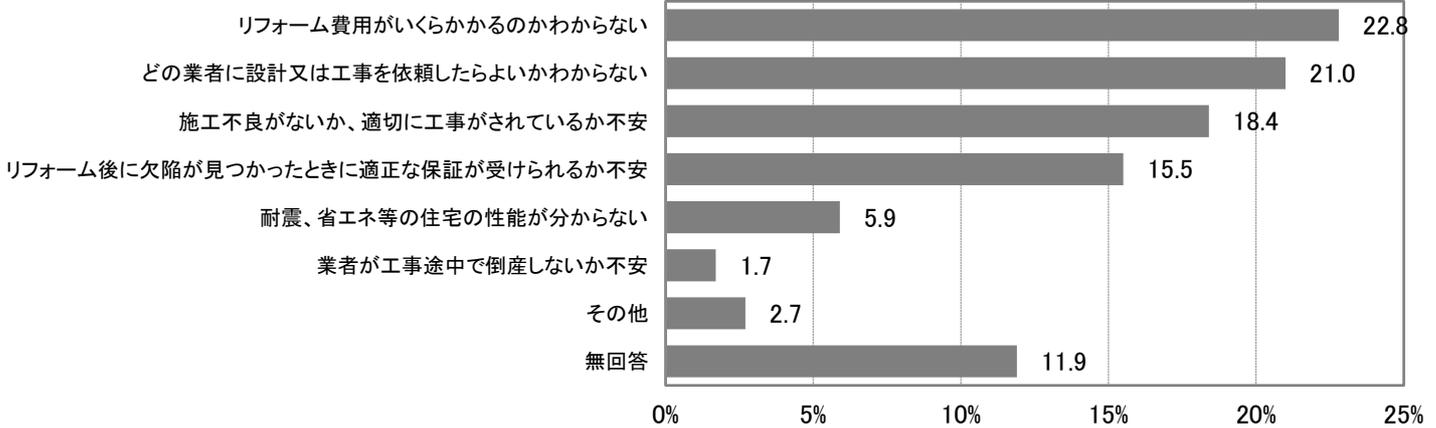
問47 どのようなリフォームをしたいか(2つまで○) N = 2,989



問48 住宅のリフォームにあたり、困ること、不安に思うことは何ですか。あてはまるものを1つに○をつけてください。

住宅のリフォームにあたり、困ること、不安に思うことについては、「リフォーム費用がいくらかかるのかわからない」が 22.8%と最も高く、次いで「どの業者に設計又は工事を依頼したらよいかかわからない」が 21.0%、「施工不良がないか、適切に工事がされているか不安」が 18.4%となっている。

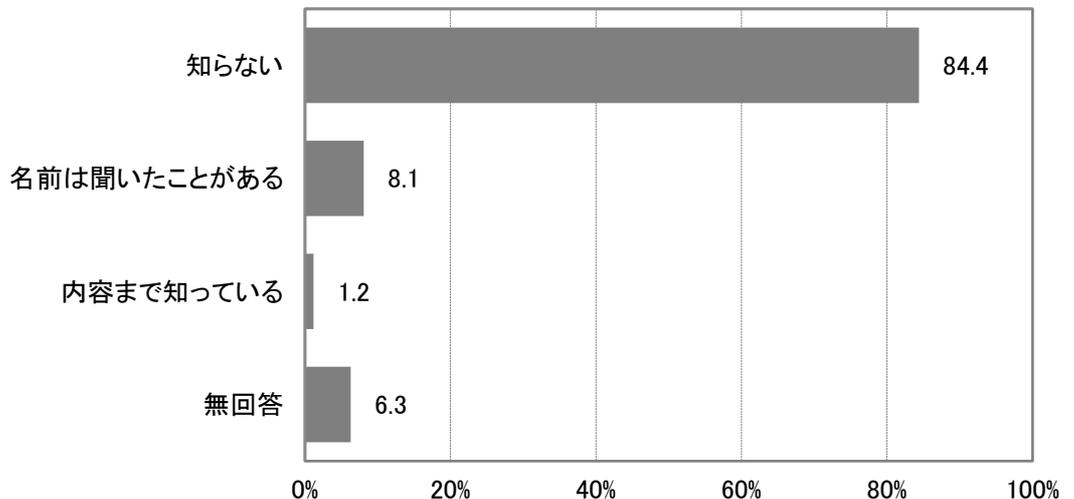
問48 住宅のリフォームにあたり、困ること、不安に思うこと(1つ○) N = 2989



問49 県独自の省エネ改修基準を満たす住宅であるとして健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)をご存じですか。あてはまるものに1つに○をつけてください。

とっとり健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)の認知度は、「知らない」が 84.4%と最も高く、「名前は聞いたことがある」が 8.1%、「内容まで知っている」が 1.2%となっている。

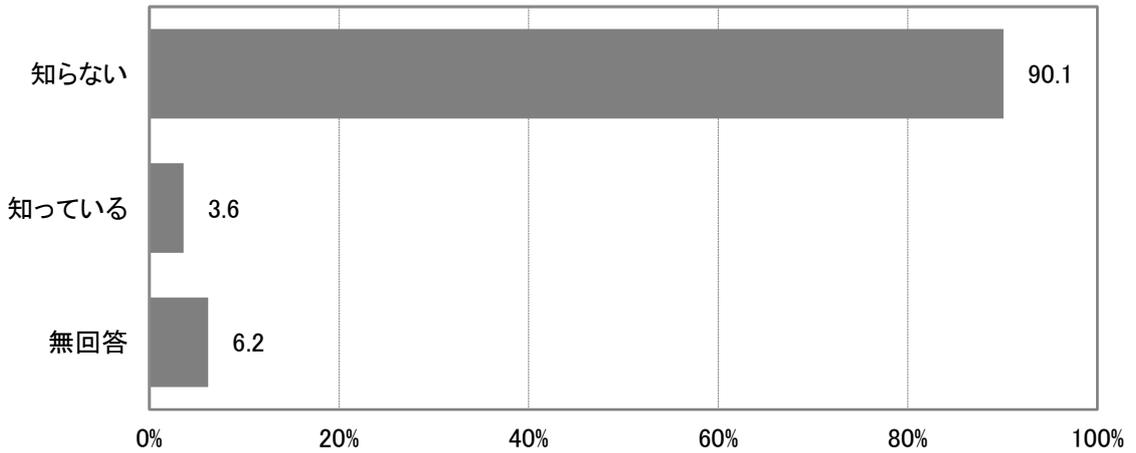
問49 とっとり健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)を知っているか(1つ○)
N = 2989



問50 鳥取県にはとっとり健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)にリフォームされる方への助成制度(最大150万円)がありますが、助成制度の存在をご存知ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

『Re NE-ST』(リネスト)の助成制度(最大150万円)の認知度は、「知らない」が90.1%、「知っている」は3.6%と1割以下となっている。

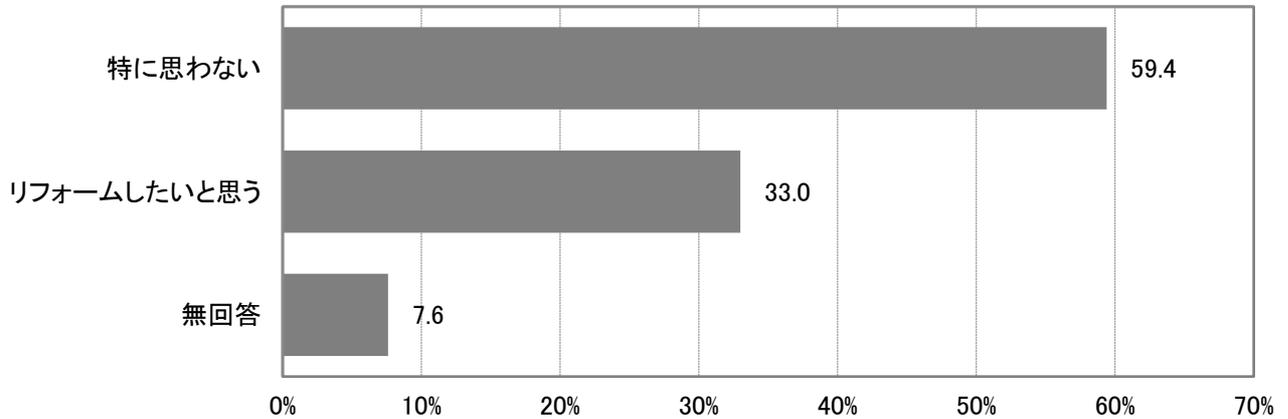
問50 とっとり健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)にリフォームする助成制度を知っているか(1つ○) N = 2989



問51 とっとり健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)にリフォームしたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

とっとり健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)にリフォームしたいと思うかについては、「特に思わない」が59.4%、「リフォームしたいと思う」が33.0%となっている。

問51 とっとり健康省エネ改修住宅『Re NE-ST』(リネスト)にリフォームしたいと思うか(1つ○) N = 2989

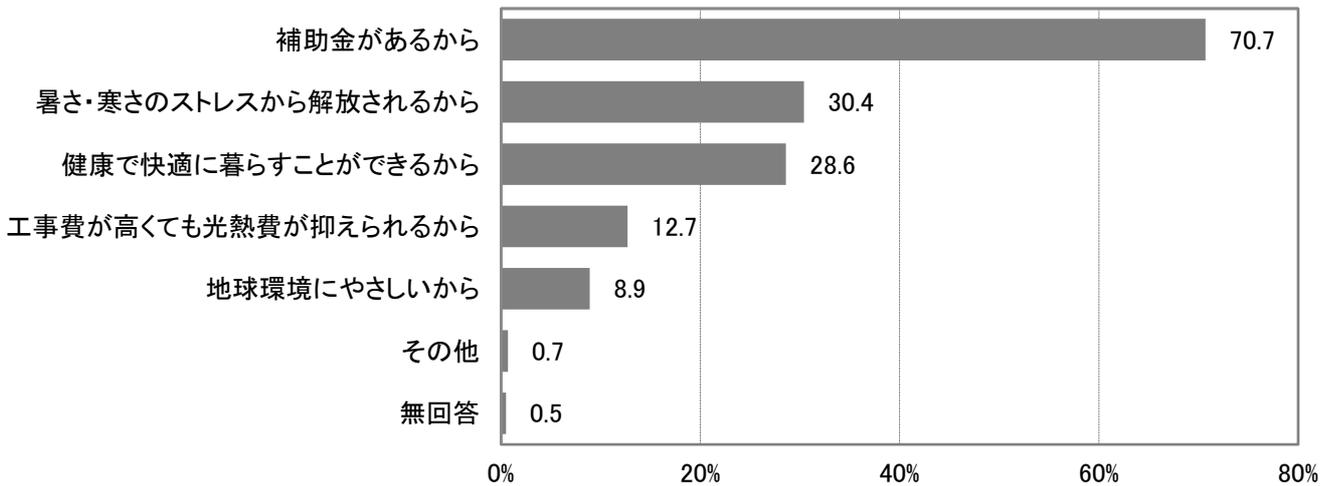


問51で「1. リフォームしたいと思う」に○をされた方のみ

問52 その理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

リフォームしたいと思う理由は、「補助金があるから」が70.7%と最も高く、次いで「暑さ・寒さのストレスから解放されるから」が30.4%、「健康で快適に暮らすことができるから」が28.6%となっていることから、金銭面だけでなく、快適性の面においても『Re NE-ST』（リネスト）にリフォームしたいという意見が多くなっている。

問52 リフォームしたいと思う理由(複数に○) N = 987

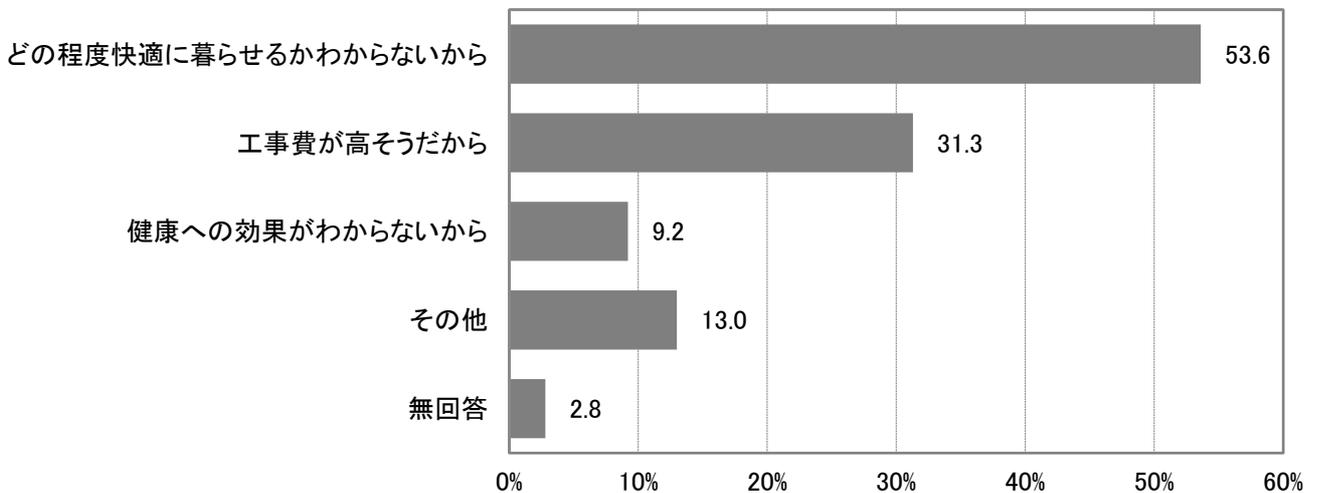


問51で「2. 特に思わない」に○をされた方のみ

問53 その理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

リフォームしたいと特に思わない理由について、「どの程度快適に暮らせるかわからないから」が53.6%で最も高く、次いで、「工事費が高そうだから」が31.3%、「健康への効果がわからないから」が9.2%となっている。

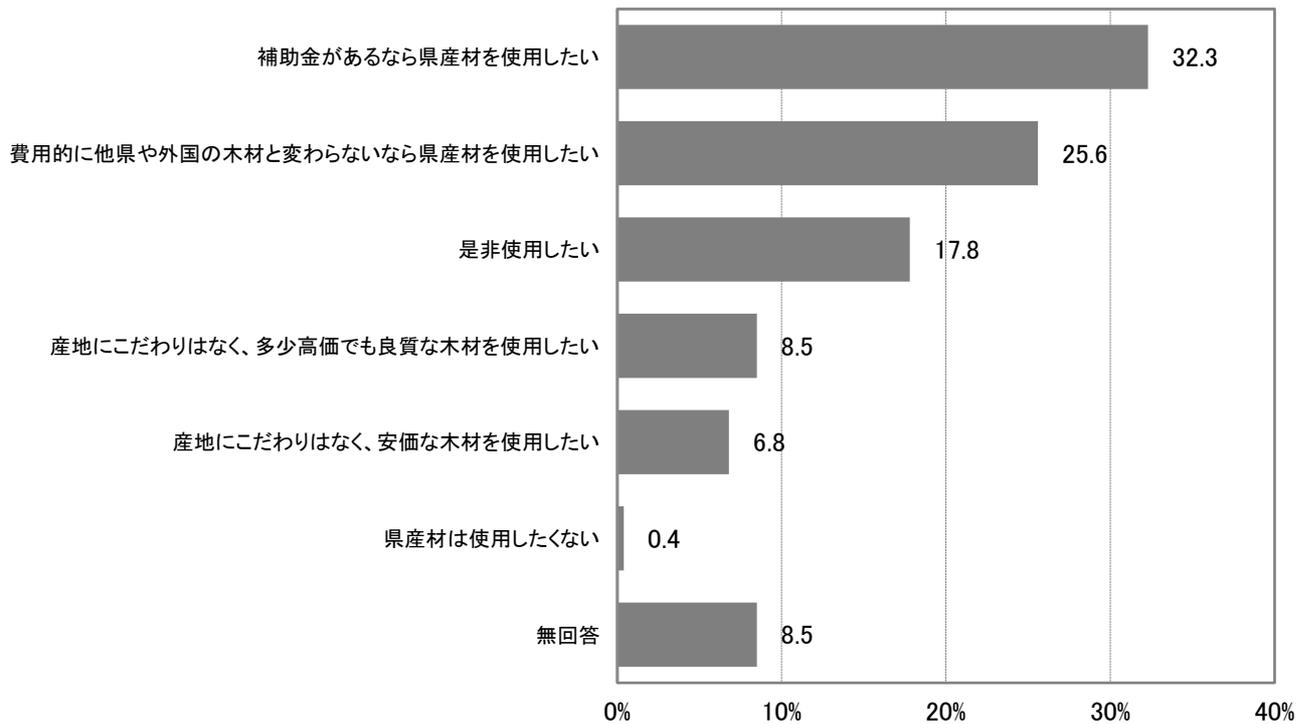
問53 特に思わない理由(複数に○) N = 1774



問54 住宅をリフォームするとしたら、鳥取県産の木材の使用をお考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

リフォームするとしたら、鳥取県産の木材の使用を考えるかについては、「補助金があるなら県産材を使用したい」が 32.3%で最も高く、次いで「費用的に他県や外国の木材と変わらないなら県産材を使用したい」25.6%、「是非使用したい」が 17.8%となっている。

問54 住宅をリフォームするとしたら、鳥取県産の木材を使用したいか(1つ○)N = 2989



持ち家を所有されている方のみ

X 空き家について

～空き家について～(問 55～問 56)

住宅に関する心配事は、「住宅の相続に関すること」が31.9%、「空き家または一定期間空き家状態となった場合の管理」が29.7%と高く、相続、空き家の管理方法について心配する回答が多い傾向がみられた。

住宅の引継ぎ手は、「家族や親族が引き継ぐ予定」が43.1%と最も高く、空き家の管理についても「自分や親族が管理する予定」が47.1%と高い傾向がみられた。

空き家の活用方法としても、「親族が住む」が24.9%と高ことから、親族が管理するといった回答が多い傾向がみられた。

空き家の活用法については、「親族が住む」が24.9%と最も高く、他人に貸し出すことについては、「抵抗はない」が29.2%、「心理的に抵抗があるが、認められる」が15.0%となっており、空き家を貸し出すことに好意的な意見が多い傾向がみられた。

空き家の問題解決策として、「空き家の解体費用に対する助成制度」が37.4%と最も高く、次いで「空き家を貸したい人と借りたい人をマッチングさせる制度」が19.6%、「空き家に関する相談窓口」が15.2%であることから、空き家対策として解体だけでなく、空き家活用に関しても多角的な制度が求められる傾向がみられた。

問55 現在お住まいの住宅についてお尋ねします。現在、持ち家を所有されている方のみお答えください。

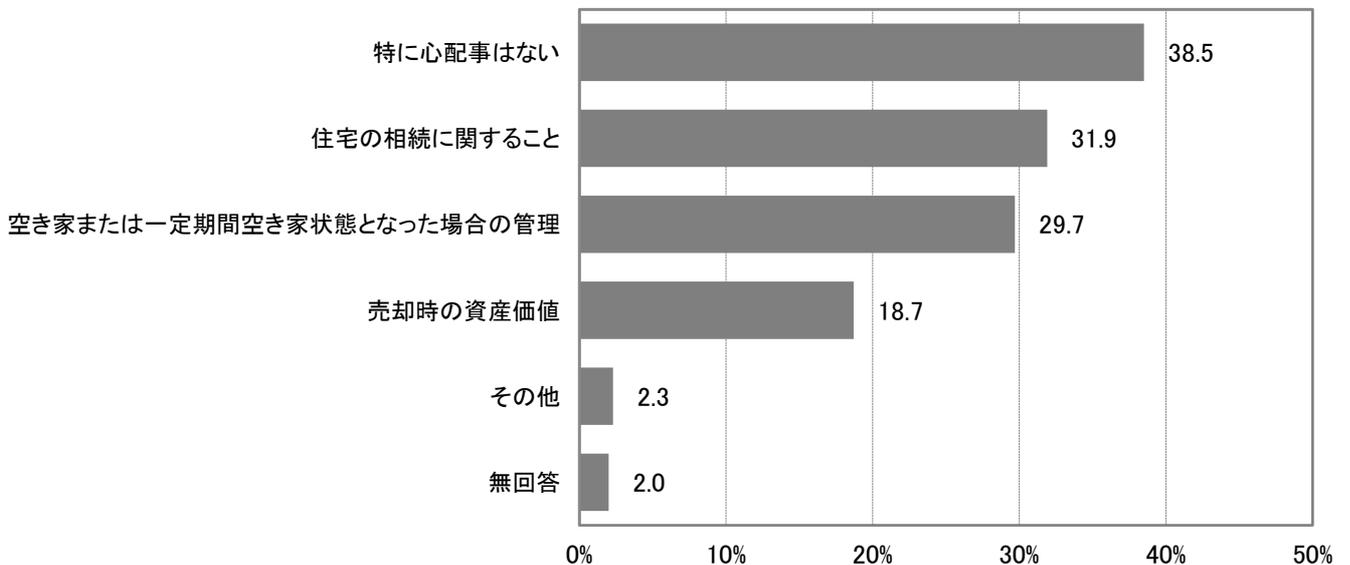
(ア)現在お住まいの住宅に関する将来の心配事について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

住宅に関する将来の心配事は、「特に心配事はない」が38.5%と最も高く、次いで「住宅の相続に関すること」が31.9%、「空き家または一定期間空き家状態となった場合の管理」が29.7%となっている。

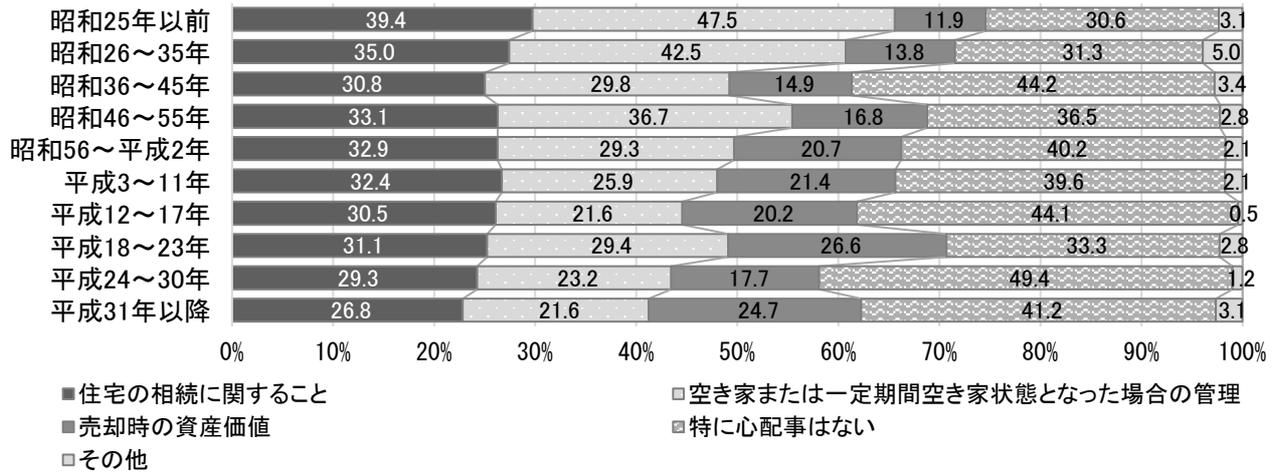
住宅築年数別でみると、「住宅の相続に関すること」、「空き家または一定期間空き家状態となった場合の管理」は昭和35年以前の住宅で約5割以上となっている。

同居人数別では、同居人数が多いほど「特に心配事はない」が高い傾向がみられる。

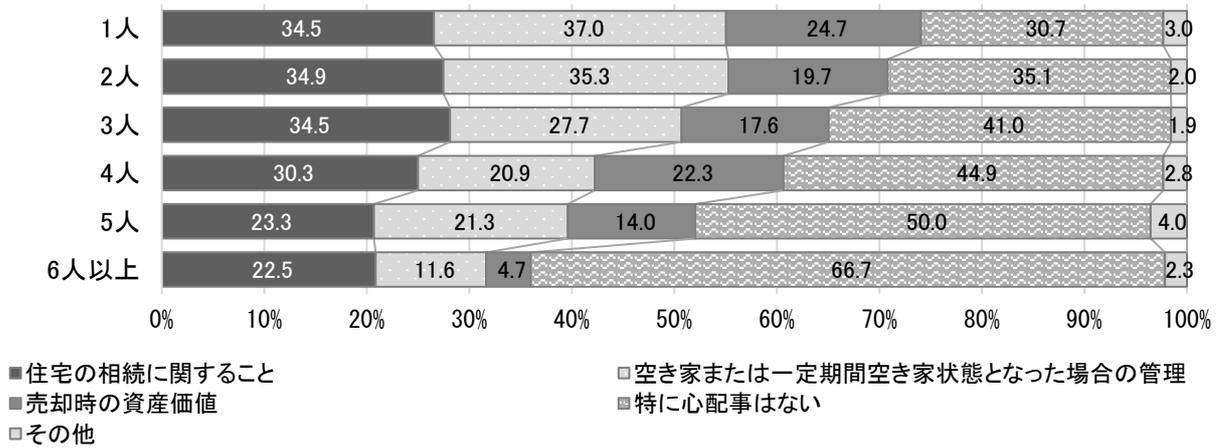
問55(ア) 現在お住まいの住宅に関する将来の心配事(複数に○) N = 2,557



住宅築年数別



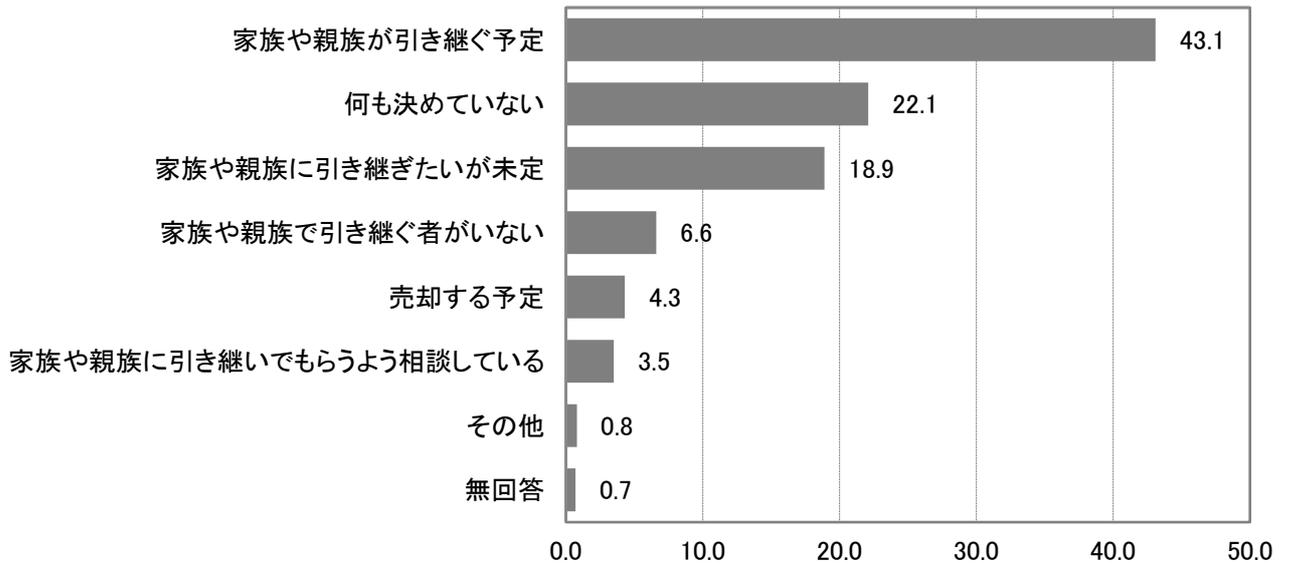
同居人数別



(イ) 現在お住まいの住宅を将来どなたが引き継ぐかについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

住宅の引継ぎ手は、「家族や親族が引き継ぐ予定」が43.1%と最も高く、次いで「何も決めていない」が22.1%、「家族や親族に引き継ぎたいが未定」が18.9%となっており、家族に引き継ぐ回答が多い一方、引継ぎ先が見つからない回答も多い傾向がみられた。

問55(イ) 現在の住宅を将来誰が引き継ぐか(1つ○) N = 2557

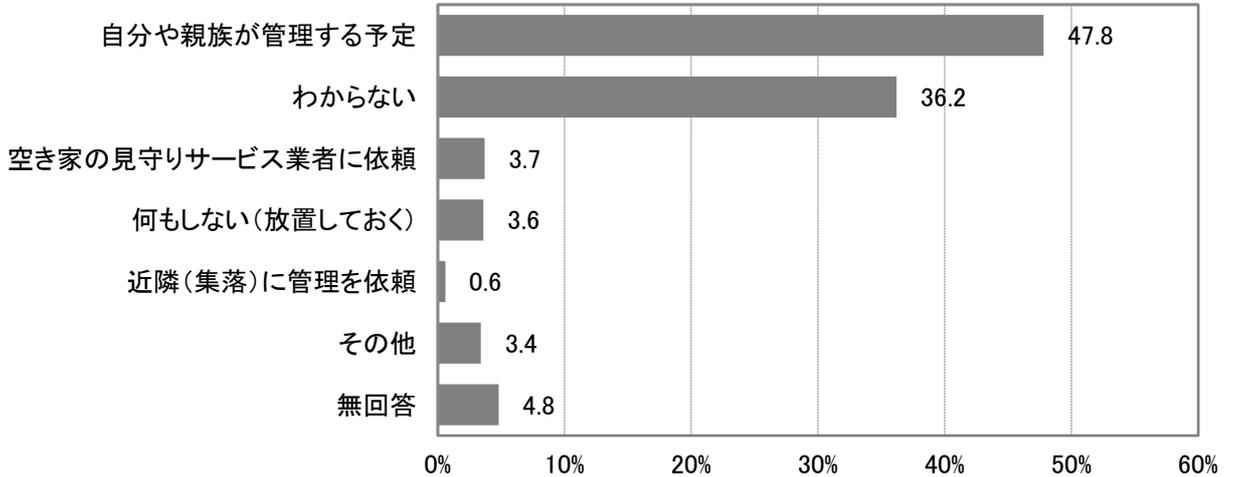


問56 現在お住まいの住宅が、今後、空き家になったと想定して、以下の問いにお答えください。全ての方がお答えください。

(ア) 空き家をどのように管理されますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家をどのように管理するかについては、「自分や親族が管理する予定」が47.1%と最も高くなっている。

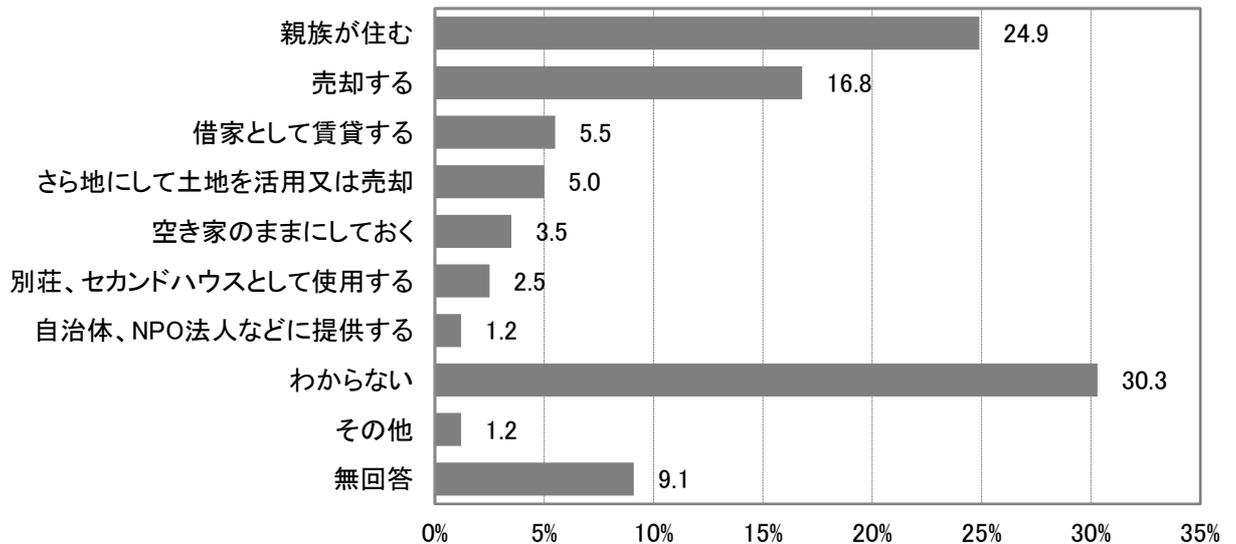
問56(ア) 空き家をどのように管理するか(N = 1,774)



(イ) 空き家をどのように活用しますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家をどのように活用するかについては、「親族が住む」が24.9%と最も高く、次いで「売却する」が16.8%、「借家として賃貸する」が5.5%となっている。

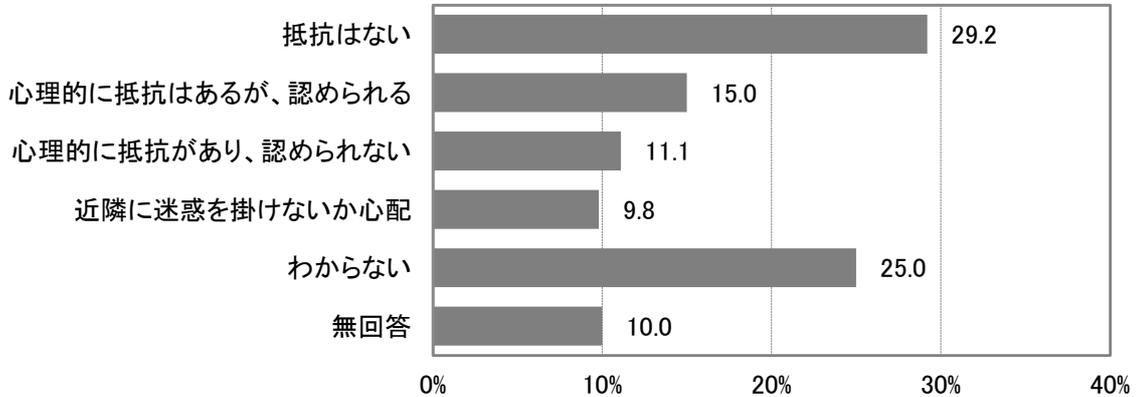
問56(イ) 空き家をどのように活用するか(1つ○)N = 2989



(ウ)空き家となった住宅を他人に貸し出すことをどう思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家となった住宅を他人に貸し出すことについては、「抵抗はない」が 29.2%と最も高く、次いで「心理的に抵抗はあるが、認められる」が 15.0%となっていることから、空き家を貸し出すことに対して、好意的な回答が多い傾向がみられた。

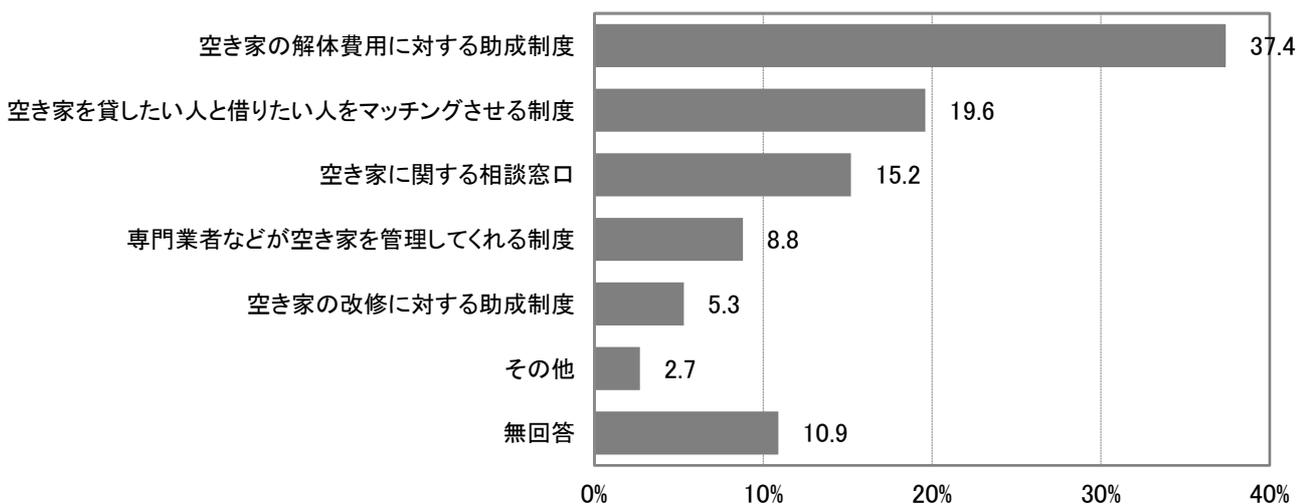
問56(ウ) 空き家となった住宅を他人に貸し出すことをどう思うか(1つ○) N = 2989



(エ)昨今、全国的に空き家が増加し、管理不十分な空き家の対策及び未利用の空き家の有効活用などが検討されています。どのような制度があれば、これらの課題解決に役立つと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家の問題解決策は、「空き家の解体費用に対する助成制度」が 37.4%と最も高く、次いで「空き家を貸したい人と借りたい人をマッチングさせる制度」が 19.6%、「空き家に関する相談窓口」が 15.2%となっていることから、空き家対策として、解体だけでなく空き家活用に関しても多角的な制度が求められている

問56(エ) 管理不十分な空き家の対策及び未利用の空き家の有効活用などの課題解決への制度(1つ○) N = 2989



問57 現在お住まいの住宅以外に所有する住宅についてお聞きします。

～空き家の所有について～(問 57)

空き家を「所有している」は1割弱となっており、空き家の経過年数は「10年以上」が4割強となっている。

空き家の状況は、「腐朽、破損はしていない」が36.0%あり、何かしら「破損している」は約5割となっている。

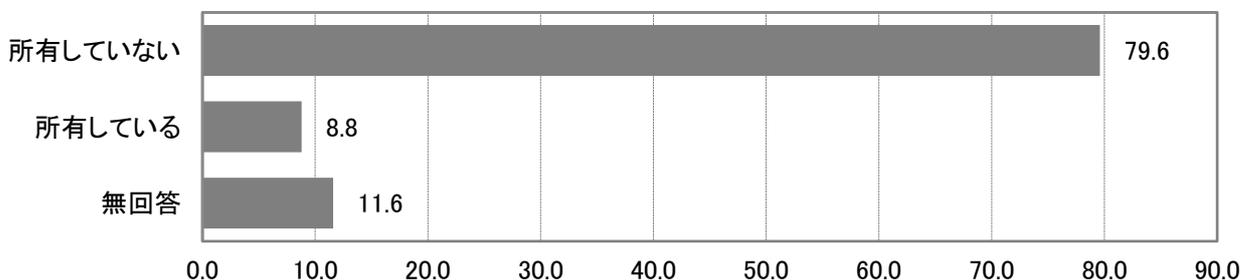
空き家の管理状況は、「自分や親族が管理」が67.0%となっており、今後の空き家の活用方法については、「空き家のままにしておく」が24.2%と最も高く、空き家のままにしておく理由について、「解体費用が用意できないから」が26.6%と最も高くなっている。

(ア)現在お住まいの住宅以外に、空き家となっている住宅を所有していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

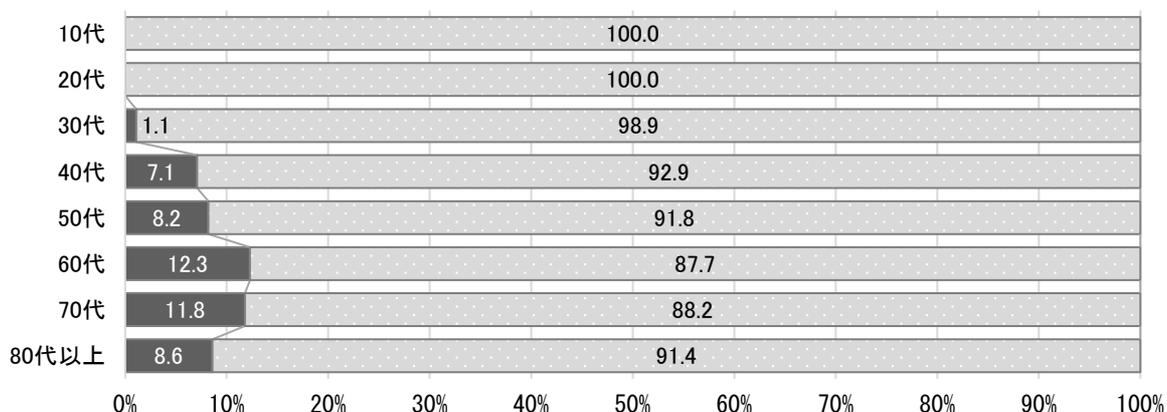
空き家の所有状況は、「所有していない」が79.6%であり、「所有している」は8.8%と1割弱となっている。

年代別でみると、40歳代以上において年齢が上がるにつれ「所有している」が高くなっていることから、相続等により空き家の所有率が増加していると考えられる。

問57(ア) 現在住んでいる住宅以外に、空き家となっている住宅を所有しているか(1つ○)N = 2989



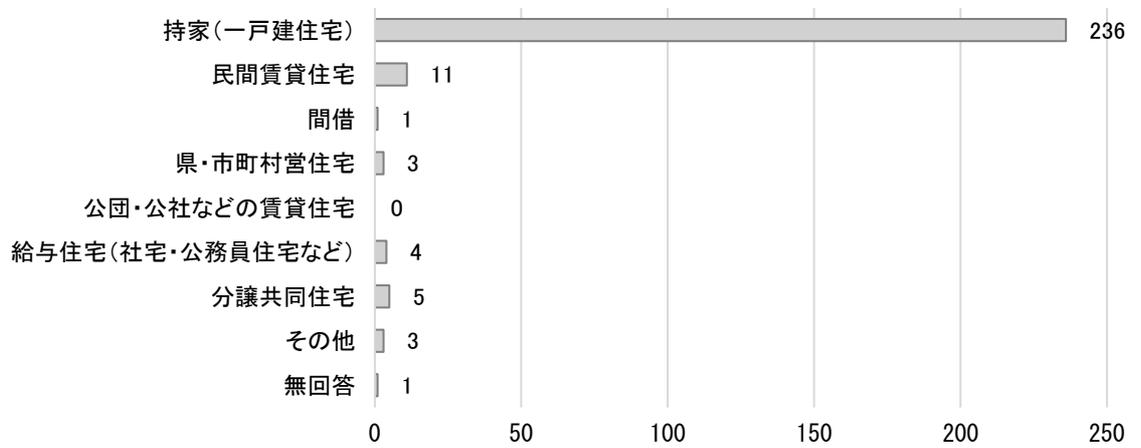
年代別



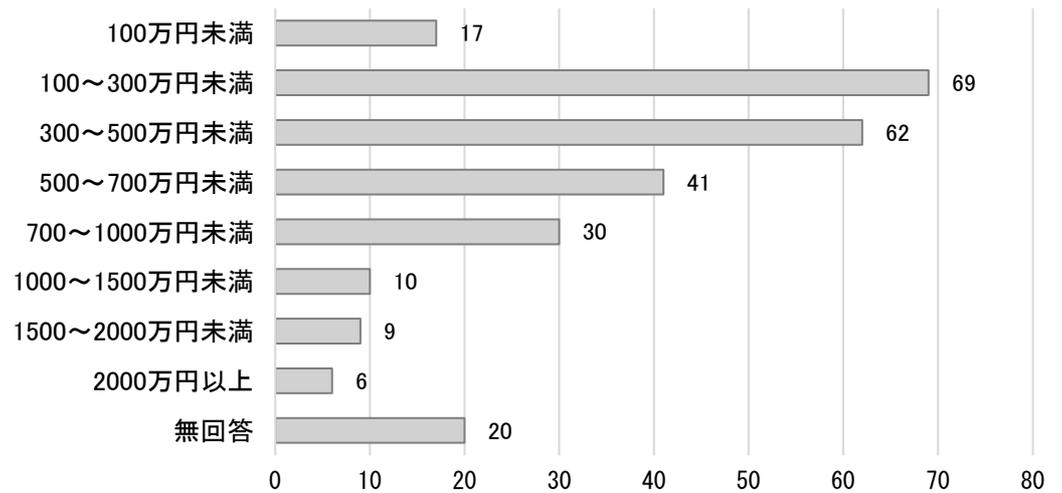
■所有している □所有していない

(参考)「所有している」回答者の属性 n=264

住居形態



世帯収入



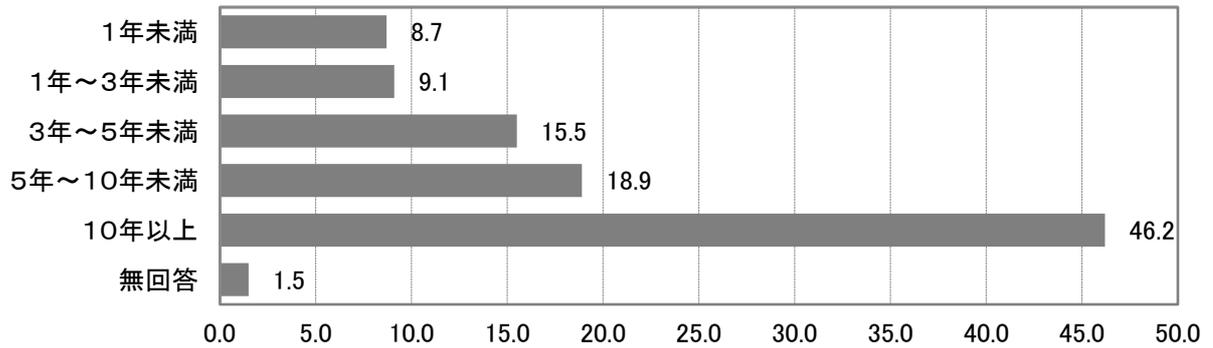
問57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方のみ

(イ) 空き家になってからの経過年数について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

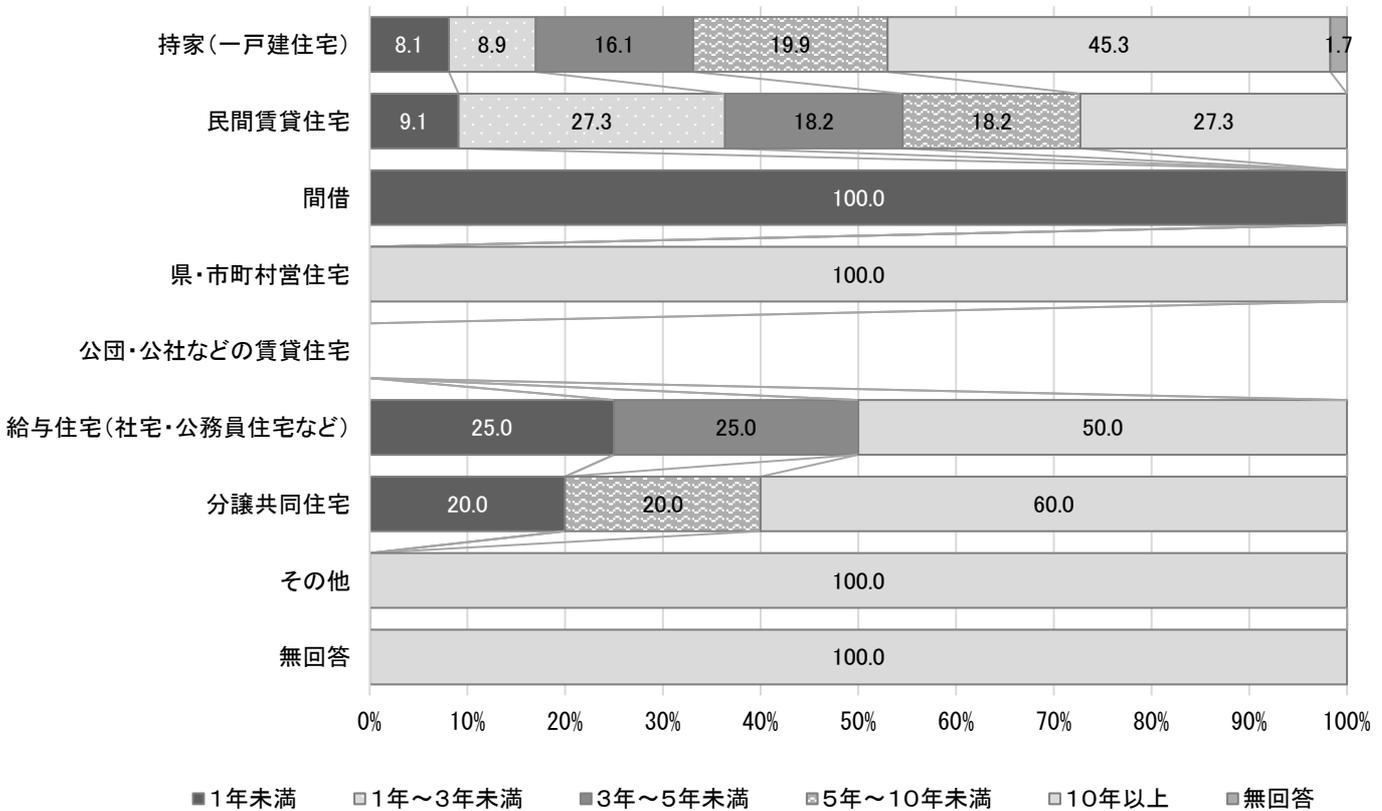
空き家の所有経過年数は、「10年以上」が46.2%と最も高く、次いで「5年～10年未満」が18.9%となっている。

住宅形態別で見ると、「持家（一戸建て住宅）」では5年以上が6割強となっていることから、空き家の処分、活用ができず、またはその方法が分からないため、所有年数が多いことが考えられる。

問57(イ) 経過年数 (N = 264)



住宅形態別

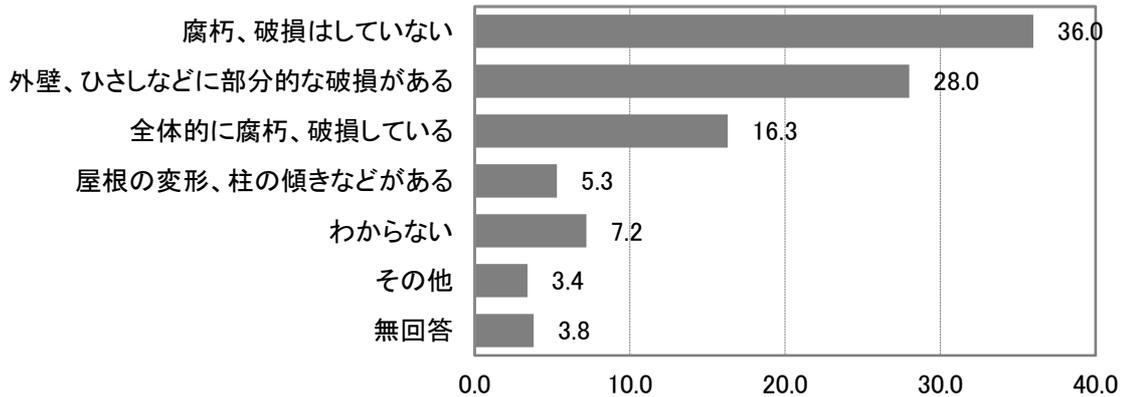


問57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方のみ

(ウ)空き家の状態について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家の状態は、「腐朽、破損はしていない」が 36.0%と最も高いが、「外壁、ひさしなどに部分的な破損がある」が 28.0%、「全体的に腐朽、破損している」が 16.3%となっており、老朽化のため、腐朽、破損が出ている住宅も出ている一方、補修、修繕が出来ていない物件が多い傾向がみられる。

問57(ウ) 空き家の状態 (N = 264)

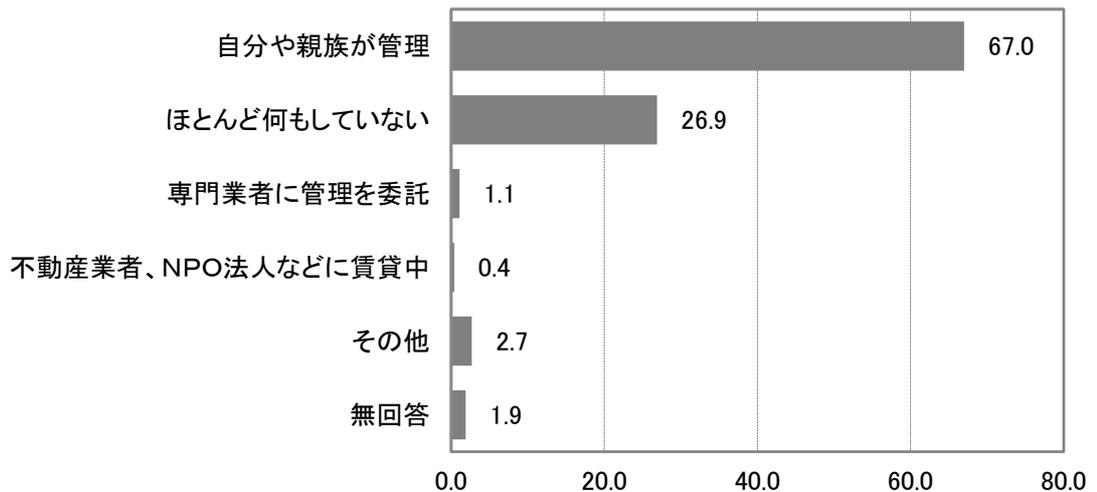


問57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方のみ

(エ)空き家の管理状況について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家の管理状況は、「自分や親族が管理」が 67.0%と最も高く、次いで「ほとんど何もしていない」が 26.9%となっている。

問57(エ) 空き家の管理状況(1つ○) N = 264

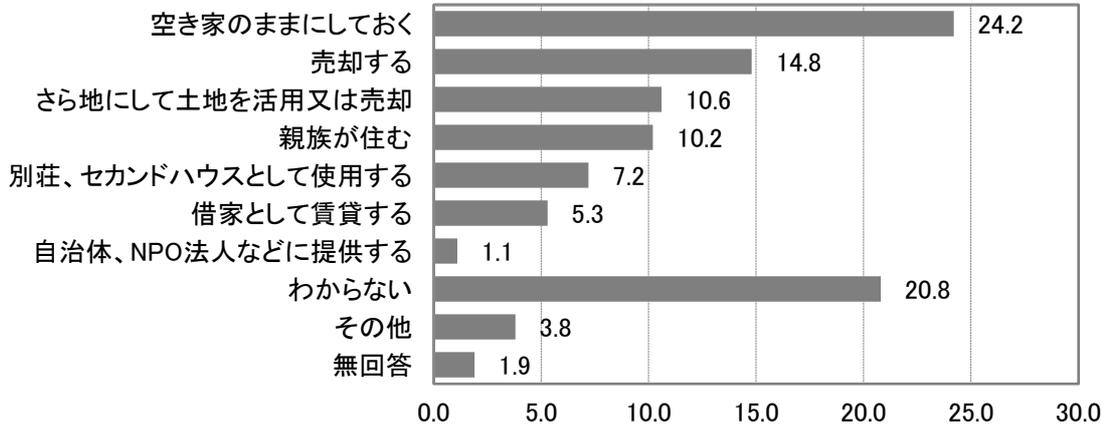


問 57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方のみ

(オ) 空き家の今後の活用方法について、あてはまるもの1つに○をつけてください

空き家の今後の活用方法は、「空き家のままにしておく」が 24.2%と最も高く、次いで「売却する」が 14.8%、「さら地にして土地を活用又は売却」が 10.6%となっている。

問57(オ) 空き家の今後の活用(1つ○) N = 264



問 57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方で、(オ)で、「5. 空き家のままにしておく」と回答された方のみ

(カ) その理由について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家のままにしておく理由は、「解体費用が用意できないから」が 26.6%と最も高く、次いで「物置などで使っているから」が 21.9%、「特に支障を感じていないから」が 18.8%となっている。

問57(カ) 空き家のままにしておく理由(1つ○) N = 64

